

平成27年度

シ ラ バ ス

桐生大学 医療保健学部

看護学科

平成27年度 シラバス

科目名	哲学・倫理学		担当者	村上 隆夫	学科	看護学科 栄養学科	開講期	前期
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	古代ギリシャのヘレニズム文化と古代ユダヤのヘレニズム文化を源流とするヨーロッパの哲学と倫理学を近代まで概観する。							
教育目標	ヘレニズムとヘブライズムの総合としてのキリスト教とともに発展してきたヨーロッパの哲学と倫理学について基本的な知識を獲得することを目的とする。							
到達目標	現代の哲学・倫理学的問題について論じている入門的な文献を読解できるようにすることを目標とする。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	地中海とその文化	古代地中海世界におけるギリシャ人の文化とユダヤ人の文化について説明する。						
第2回	ギリシャ哲学の形成	ソクラテスの生涯とその哲学・倫理学について説明する。						
第3回	ギリシャ哲学の展開 (1)	プラトンの哲学・倫理学について説明する。						
第4回	ギリシャ哲学の展開 (2)	アリストテレスの哲学・倫理学について説明する。						
第5回	キリスト教の成立 (1)	イエスの生涯とその倫理思想について説明する。						
第6回	キリスト教の成立 (2)	パウロによるキリスト教の成立について説明する。						
第7回	キリスト教神学の形成	アウグスティヌスの神学について説明する。						
第8回	キリスト教神学の展開	普遍論争について説明する。						
第9回	宗教改革の思想	ルターとカルヴァンのキリスト教思想について説明する。						
第10回	近代哲学の形成 (1)	ホッブズの哲学・倫理学について説明する。						
第11回	近代哲学の形成 (2)	デカルトの哲学・倫理学について説明する。						
第12回	啓蒙主義の哲学	シャフツベリの倫理学とヒュームの哲学・倫理学について説明する。						
第13回	カントの哲学	カントの哲学について説明する。						
第14回	カントの倫理学	カントの倫理学について説明する。						
第15回	総括と展望	これまでの講義について補論を行い、さらに討論の時間を設ける。						
教科書	使用しない。講義の際にレジュメを配布する。							
参考書	講義のなかで適宜指示する。							
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験100%評価とする。							
授業時間外の学習	授業後に1時間程度の資料検索を行うことが望ましい。							
履修のポイント	レジュメについてさらにノートを用いて補足してまとめることが望ましい。							
オフィス・アワー								

平成27年度 シラバス

科目名	心理学		担当者	亀岡聖朗	学科	看護学科	開講期	前期	
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	1学年	曜日		
	教養科目		(時間)	(30時間)			時限		
授業の概要	<p>ものを見聞きすること、覚えること、考えること、泣いたり笑ったりすることなど、私たちが意識するとしなやかにかかわらず、人のあらゆる活動に心はかかっている。心理学は、私たちのそうした心のはたらきを実証的に明らかにすることを目的とした科学である。看護職をめざすものとして、人の心の多様なはたらきについて学修することは、人間理解の一環にもなる。本講義はそうした観点から、人の心の多様なはたらきがどのように明らかにされてきたかについて取り上げる。授業は講義形式で行うが、テーマによって視聴覚にうったえる試みもする予定である。</p>								
教育目標	<p>人の心のはたらきについて広く知識を獲得し、人（患者）を理解する基本的態度を習得することを目的とする。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知覚・記憶・学習・発達・性格・感情と欲求・適応機制などにかかわる専門用語の意味を理解する。 2. 知覚・記憶・学習・発達・性格・感情と欲求・適応機制などにかかわる心理学理論について理解する。 3. 日常的な出来事を心理学の理論に沿って理解する。 4. 人の心の全般的なしくみについて理解する。 								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容					備考		
第1回	オリエンテーション 心理学で取り扱う問題	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価など） 講義で取り上げる内容、患者心理のメカニズム					第10章		
第2回	感覚・知覚の心理学	心と身体の世界 ～外界を捉えるしくみ、知覚の特徴（視覚を中心に）、知覚のズレ					第1章		
第3回	認知の心理学①	心と行動の形成① ～ものを覚える／忘れるしくみ、記憶の錯誤					第2章		
第4回	認知の心理学②	心と行動の形成② ～注意と思考、人の認知的特性からみた医療事故予防					第2章		
第5回	学習の心理学①	心と行動の形成③ ～新しい行動を身につけるしくみ（条件づけ理論と認知理論）					第2章		
第6回	学習の心理学②	心と行動の形成④ ～動機づけ理論、動機づけを高めるためには					第2章		
第7回	社会的関係の心理学①	対人関係① ～対人認知の諸相					第7章		
第8回	社会的関係の心理学②	対人関係② ～話を聞くこと：ノンバーバルコミュニケーションの重要性					第7章		
第9回	発達の心理学①	心と行動の発達①～生涯発達の視点、人間発達のしくみ、人生初期の発達					第3章		
第10回	発達の心理学②	心と行動の発達②～発達の理論（フロイト、エリクソン、ピアジェを中心に）					第3章		
第11回	個人差の心理学①	心の個性と深層～個性を反映するもの（知能と性格）、性格の理論、性格形成の要因					第4章		
第12回	個人差の心理学②	医療に役立つ心理テスト～心理テスト（心理検査）の種類（知能検査、性格検査、発達検査）					第8章		
第13回	臨床の心理学①	心の適応と障害 ～感情の種類、感情の表出、欲求と適応機制					第5章		
第14回	臨床の心理学②	心と身体心理臨床～ストレスと代表的な精神疾患（不安障害、気分障害、統合失調症を中心に）					第6章		
第15回	臨床の心理学③	医療に役立つ心理臨床～ストレスへの対処法、カウンセリング理論（精神分析理論、学習理論、自己理論を中心に）					第9章		
教科書	藤田主一・山崎晴美編『新 医療と看護のための心理学』福村出版								
参考書	適宜紹介する。								
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験90%、レポート・課題等10%								
授業時間外の学習	各回の主題に該当する教科書の章に目を通すことが予習となります。配布資料・ノートのまとめを復習として勧めます。								
履修のポイント	授業への積極的な取り組みを期待します。								
オフィス・アワー	毎週水曜もしくは木曜の昼休み（12：30～13：20）、11号館第8研究室。 あるいは、講義終了前後などに、適宜受け付けます。								

平成27年度 シラバス

科目名	教育原論		担当者	山本裕詞	学科	看護学科	開講期	前期
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位		学年	1年	曜日
	教職科目	(必修)	(時間)	(30時間)				時限
授業の概要	人間が必要としてきた「教育」について、原理的な理解に努める。特に、教育のパラドックスを深く自覚することにより、自己の教育に関わる体験や社会事象としての教育問題を相対化し、批判する力を高めていく。							
教育目標	①教育の基本的事項を原理的に理解する。 ②先人の教育実践と教育思想の変遷を理解する。 ③現実の教育事象を「教育のパラドックス」の視点から分析する。							
到達目標	一般到達目標：教育のパラドックスを理解した上で、次世代育成の教育的環境について、自己の見解を示すことができる。 専門職を目指す者の目標：教職を目指す者は、教育を受ける側から教育をする側に変化するにあたっての留意点について、自己の見解を示すことができる。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	オリエンテーション		・ 受講上の注意と評価方法 ・ 二つの教育モデルから考える教育目的の性質					
第2回	教育的な行為とは何か		・ 「個性」と「一般性」の関係について ・ 教育者の「願い」と教育を受ける者の「自主性」					
第3回	素質と環境		・ 「生得説」と「環境説」 ・ 素質・環境の問題と教育政策					
第4回	教育の場		・ 生存権と教育を受ける権利 ・ 家庭、学校、社会の教育と生涯学習					
第5回	西洋の教育 1		・ アテネ、スパルタの教育とソクラテス ・ プラトン、・ アリストテレス、古代ローマの教育					
第6回	西洋の教育 2		・ 中世からルネサンス期にかけての教育 ・ 様々な「平等」の誕生と教育					
第7回	西洋の教育 3		・ 実質陶冶と形式陶冶 ・ 自然主義の教育					
第8回	西洋の教育 4		・ 近代公教育思想 ・ 生活主義の教育 ・ 経験主義と社会主義の教育					
第9回	日本の教育 1		・ 江戸時代の教育観と「学制序文」にみる明治維新 ・ 教育目的をめぐる対立と「教育勅語」体制					
第10回	日本の教育 2		・ 大正新教育運動の意義と限界 ・ 憲法教育基本法体制と「政治と教育」の間					
第11回	日本の教育 3		・ 教育基本法の全部改正 ・ 教育改革の動向					
第12回	日本の教育 4		・ 教育委員会に託された夢と現実 ・ 新しい地方教育行政の可能性					
第13回	学校教育における多職種連携		・ 養護教諭と栄養教諭 ・ カウンセラーとソーシャル・ワーカー					
第14回	不登校と教育保障		・ フリースクールと公教育 ・ 自己責任論と発達保障					
第15回	特別支援教育の意義 授業のまとめ		・ 「障害」の多義性と権力性 ・ 特殊教育から特別支援教育へ					
教科書	使用しません							
参考書	沼野一男・他著『教育の原理 第四版』学文社、2010年 牛渡 淳著『改訂 教育学原論 教育の本質と目的』中央法規、2008年 安彦忠彦・石堂常世著『最新教育原理』勁草書房、2014年							
成績評価	単位認定 60 点以上 授業中に実施する確認テストと2~3回課す予定のレポートによって40%を評価する。残り60%を学期末試験で評価する。欠席、遅刻等は減点の対象とする。							
授業時間外の学習	2~3回課す予定のレポートは、自学による情報収集を必要とするものになる。また、授業の後は、ノートを整理しながら復習することを求める。随時、関連図書も紹介するので、自らの関心を深めていって欲しい。							
履修のポイント	「教育」についての原理的理解を深めるべく、学んだ原理を様々な教育事象に結び付けて検証することが重要である。							
オフィス・アワー	アポイントをとってください。水曜日に互いの都合の良い時間を調整します。							

平成27年度 シラバス

科目名	法学		担当者	松原直樹	学科	看護学科	開講期	前期
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	1学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	保健医療に関する分野は、他の職業領域と比較して、国による規制および国によるサービスが実施されることが圧倒的に多い。そのため、保健医療の従事者は法令により、その業務を行わなければならない。一方で、国際化・情報化の進展とともに、紛争の解決が訴訟へともちこまれることが多くなってきており、保健医療分野においても、法的紛争に巻き込まれるケースは以前と比較して、格段に増加してきている。本講座では、日常生活や職場において必要とされる最低限の法的ことがらについて学習し、生活者として、また職業人として必要不可欠な法に関する知識を身につける。							
教育目標	社会人として必要な法知識を身につけることができるよう、特に日常的な社会生活に関連する分野について、学修させる。また、医療者として不可欠な法知識・法感覚を身につけられるように、具体例を多く学修させる。							
到達目標	法とは何か、また法令の基本構造、法令の読み方を理解する。また、日常生活に関わりのある法令を理解する。さらに、医療者として理解しておく必要のある具体的法令のうちのいくつかを読んで、理解できるようにする。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	オリエンテーション 法と社会	私たちの社会に存在するルールの中で、法とは何を指すのかについて学習し、その意義について理解する。						
第2回	法令の種類	法令には、どのような種類があるのか、またどのような効力があるのかについて学習する。また、法令で規定する分野・範囲について、理解する。						
第3回	法令の基本形式・構造(1)	法令は、一定の形式で構成されているが、その基本的な構造について学習する。法令を構成している要素がそれぞれどのような働きをしているのかについて、理解する。						
第4回	法令の基本形式・構造(2)	法令はある一定のルールに従ってその内容が構成されているが、そのルールを学習する。また、その法令の改正の仕方について、具体的なやり方について理解する。 ★確認テスト1「法とは何か、法令の基本構造」						
第5回	法令の読み方(1)	医療保健関係の具体的な法令を利用して、条文の法令全体の構造、規定の意味等について理解する。また、法令用語についても基本的なものについて理解する。 ☆レポート1「自分が知りたいと思った法令もしくは、その条文の一部を取り上げ、概要を記述する」						
第6回	法令の読み方(2)	規律する必要のある分野について、法律・省令等のいくつかの種類が一体的に規定している。そうした法令相互間の関係を具体的な法令を利用して、理解する。						
第7回	法令の読み方(3)	法令は、その種類によってはかなり頻りに改正されるものがある。そうした改正法について、医療保健に関する法令の具体例を使って理解する。						
第8回	消費生活と法(1)	財産的生活関係の中でも、特に消費者として日常的に関わる法について学習する。具体的に、「売買」についての法規定を日常生活の場面に即して理解する。 ★確認テスト2「法令の読み方」						
第9回	消費生活と法(2)	財産的生活関係の中でも、特に消費者として日常的に関わる法について学習する。具体的に、「契約」についての法規定を日常生活の場面に即して理解する。						
第10回	家族関係と法(1)	家族について規定している法を学習する。具体的には、結婚・離婚に関する法規定について理解する。 ☆レポート2「法に関わるニュース・法的事項について」						
第11回	家族関係と法(2)	家族について規定している法を学習する。具体的には、親子関係、相続に関する法規定について理解する。 ★確認テスト3「民事法」						
第12回	雇用関係と法(1)	労働者の権利を中心に学習する。労働条件の最低基準を定めた労働基準法を中心に、男女雇用機会均等法などの諸法令について、理解する。						
第13回	雇用関係と法(2)	労働者の受け取る給与・報酬の法的側面について、最低賃金法などの労働条件に関する法律と関連させながら、学習する。						
第14回	雇用関係と法(3)	労働者の負担する税・社会保険料について、その概要を学習し、負担者の立場からの社会保障制度を学習する。						
第15回	全体のまとめ	・現代社会における法の意義とその課題 ★確認テスト4「全体のまとめ」 ☆レポート3「医療保健に関わる法的問題について」						
教科書	使用しない							
参考書	『ポケット六法』江頭憲治郎・小早川光郎・他 編 (有斐閣)							
成績評価	平常点(授業への参加度・学習態度等) [15%]、レポート [40%]、確認テスト [45%] を総合して評価。総合点60点以上で単位認定する。							
授業時間外の学習	次回の授業についての資料を読んでおくこと。授業終了後は、授業で説明された部分をハンドアウト等で復習しておく。レポート・確認テストについて、準備しておく。							
履修のポイント	具体的な医療・福祉関係法令を学習する前提となることに関する授業なので、よく理解しておくこと。							
オフィス・アワー	月・火・木曜日、11時～15時(授業時間以外)、9号館3階第9研究室							

平成27年度 シラバス

科目名	日本国憲法		担当者	松原直樹		学科	看護学科		開講期	後期	
区分	学部共通科目		単位	2単位		学年	1学年		曜日		
	教職科目			(時間)			(30時間)			時限	
授業の概要	消費税増税の反動を脱して、経済状況は上向きつつあると言われている。しかし、国における課題は山積しており、地方創成、原発の可否を含むエネルギー対策、社会保障と税の一体改革等については、国民全体で考えるべき問題であり、最終的には国民に判断が迫られる問題である。現在、国民は政治が自分たちの生活に直結していることを実感しつつある。本講座においては、私たちの生活や安全に大きな関わりをもつ国の基本法である日本国憲法を素材に、私たちの生活を考え抜いていく予定である。憲法の基本原理とその根底に流れる思想を学習した後、われわれの生活に深く関わりのある現代的なトピックを取り上げ、できる限りくらしとの関わりに留意しながら、学習していく。										
教育目標	社会人として必要な憲法の知識を身につけることができるようにする。また、教職課程履修者については、教員として必要な最低限の憲法に関する知識、人権感覚を身につけることができるようにする。										
到達目標	憲法の基本的構造を理解する。憲法とわたしたちの日常生活との関係を理解できる。どのような基本的人権がどのような目的でどのように保障されているかを理解できる。現在の日本の統治構造について学習し、人権保障との関係を理解する。										
授業計画											
回	主題			授業内容						備考	
第1回	日本国憲法とは			現在、日本国憲法に関してどのような問題が生じているのかについて学習した後、憲法とはどのような法かを学習する。							
第2回	日本国憲法はどのようにつくられたか			日本国憲法の制定過程について、第二次大戦後からGHQによる憲法案の提示、国会での審議等について、VTRに沿って学習する。							
第3回	人権保障とは			基本的人権の享有主体について学習する。特に、外国人・子どもの人権について、人権保障はどのようになされるのか、また法人は人権主体となり得るのかについて、学習する。							
第4回	法の下での平等			憲法が保障している法の下での平等の意義・内容について学習する。現実に生じている平等をめぐる問題について、判例を素材として検討する。 ★確認テスト1「日本国憲法の成立と基本原理」							
第5回	信教の自由			信教の自由はなぜ認められる必要があるのか、その歴史的沿革、内容について学習する。さらに、信教の自由に関する問題について、判例を素材として、学習する。その制度的に保障する「政教分離」について学習した後、それに関する判例を学習する。 ☆レポート1「憲法に関するニュースについて」提出							
第6回	表現の自由(1)			表現の自由について、その意義と内容について、学習する。また、プライバシー権との関係についても学習する。							
第7回	表現の自由(2)			そして、表現の自由において認められるべき具体的内容とその限界について、判例に沿って学習する。							
第8回	生存権			社会権と区分される人権について学習した後、社会権に区分される生存権について、その意義と法的内容を知る。また、憲法26条の規定と「医療・社会保障・公衆衛生」に対する施策の関係を考える。 ★確認テスト2「基本的人権(1)」							
第9回	教育と人権			教育を受ける権利とその内容について学習し、教育基本法との関係について理解する。さらに、現代の日本の教育制度の概要を学習し、また教育を受ける権利に関する判例を検討する。							
第10回	犯罪と人権			憲法が保障する「人身の自由」について学習した後、刑法との関係について理解する。また、犯罪と刑罰制度の概要を学習し、特に死刑制度について、その現状とそれに対する議論を検討する。 ☆レポート2「基本的人権に関する現代における問題について」							
第11回	選挙制度 国会のしくみ			日本における国政・地方の選挙制度の概要と現状について学習する。また、国会のさまざまな権能、国権における地位について概観する。衆議院と参議院の関係、国会の意思決定過程、具体的な役割について学習する。							
第12回	内閣と行政活動			内閣の地位・役割について、学習する。「議院内閣制」の内容とメリット、内閣総理大臣の選出方法、国务大臣の任免、さらに内閣の具体的な役割、意思決定の方法等について、主に学習する。 ★確認テスト3「基本的人権(2)」「統治機構」							
第13回	裁判のしくみ			裁判のしくみについて、概要を学習した後、刑事裁判で取り入れられている裁判員制度について、VTRに沿って学習する。							
第14回	象徴天皇制 平和主義と防衛			憲法が規定する「象徴天皇」の地位・権能、またそれを規定している皇室典範について、学習する。また、平和主義の意義について学習した上で、日本の防衛政策の現状について、自衛隊、日米安全保障条約との関係を理解する。							
第15回	憲法改正 全体のまとめ			憲法改正の手続、憲法改正に関する各政党・学界・国民の考え方について理解する。その後で、全体をまとめ、憲法を取り巻く状況とその課題について検討する。 ★確認テスト4「全体のまとめ」 ☆レポート3「日本の統治機構の問題点について」提出							
教科書	『目で見える憲法』初宿正典・大沢秀介・他 編著 (有斐閣)										
参考書	『ポケット六法』菅野和男・江頭憲治郎・他 編 (有斐閣)										
成績評価	平常点(授業への参加度・学習態度等) [15%]、レポート [30%]、確認テスト [55%] を総合して評価。総合点60点以上で単位認定										
授業時間外の学習	次回の授業についての資料を読んでおくこと。授業終了後は、授業で説明された部分をハンドアウト等で復習しておく。レポート・確認テストについて、準備しておく。										
履修のポイント	教員免許を取得しようとする学生は、必ず履修すること。										
オフィス・アワー	月・火・木曜日、11時～15時(授業時間以外)、9号館3階第9研究室										

平成27年度 シラバス

科目名	家族関係論		担当者	篠原貴子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	2学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	本講義は、近代以降の家族をめぐる問題に関して、社会学や歴史学をはじめ多様な学問領域の視点を踏まえ、教育やジェンダーの視点を用いて歴史的に読み解くことを前提とする。また、現代の家族が抱える問題に着目し、家族を支援する諸制度も扱う。							
教育目標	家族の概念や歴史にに関して学び、近代以降の展開を捉える。							
到達目標	家族のあり方に関して、新たな視点と問題意識をもつことを目的とする。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	イントロダクション	家族への着目						
第2回	家族の歴史	近代社会と家族						
第3回	家族研究の展開	家族研究の主題と方法						
第4回	生命の誕生と家族	子どもの誕生と家族の役割						
第5回	戦前日本の家族Ⅰ	近代国家における家族						
第6回	戦後日本の家族Ⅱ	大衆化と女性の社会進出						
第7回	女性の役割	女性のライフコース						
第8回	家族イメージ	メディアにおける家族・女性像						
第9回	結婚観	恋愛結婚の誕生、未婚化・晩婚化						
第10回	家族の変容	セクシャリティの問題						
第11回	現代の家族Ⅰ	家族が抱える子の問題(不登校、ひきこもり、児童虐待など)						
第12回	現代の家族Ⅱ	夫婦関係の問題						
第13回	家族と制度	育児支援の政策と展開						
第14回	家族と地域	孤立する家族						
第15回	まとめ	家族の未来						
教科書	必要な資料は随時配布							
参考書	授業時に随時紹介							
成績評価	単位認定 60 点以上 授業態度や試験結果で総合評価する。							
授業時間外の学習	授業内容に関して、意欲的に学習する。							
履修のポイント								
オフィス・アワー	授業日の、授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じます。							

平成27年度 シラバス

科目名	スポーツ科学 I (レクリエーションとしてのスポーツ)		担当者	高見 達也	学科	看護学科	開講期	前期
区分	学部共通科目	選択	単位 (時間)	1単位 (30時間)	学年	1年	曜日	
	教職に関する科目	必修					時限	
授業の概要	身体活動の必要性を理解し、身体の健全な維持などの合理的な方法を学ぶ。すなわち、スポーツを通しそれぞれの身体機能の維持あるいは向上を図るための基礎知識を知る。レクリエーションは精神的なストレスの解消ばかりでなく身体的な健康の維持にも重要である。レクリエーション理論について幅広く学ぶと共に、生涯に渡りレクリエーションとしてのスポーツを実践していく能力を高める。さらに実際のレクリエーションの計画・実施を行い、その効果の判定方法などについて学ぶ。							
教育目標	自己身体運動の理解と分析							
到達目標	レクリエーションの概念の理解 身体機能の維持・向上を図るための方法論の習得							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	オリエンテーション	授業概要、諸注意、メディカルチェック 体力と身体機能					運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。	
第2回	メディカルチェック	スポーツの意識調査、スポーツ経験調査、ストレッチ						
第3回	コミュニケーション・ワーク	①ホスピタリティ・トレーニング ②アイスブレイキング						
第4回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(基礎練習①)						
第5回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(基礎練習②)						
第6回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(基礎練習③)						
第7回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(ゲーム①)						
第8回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(ゲーム②)						
第9回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(ゲーム③)						
第10回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(ゲーム④)						
第11回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(ゲーム⑤)						
第12回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(ゲーム⑥)						
第13回	屋内レクリエーション スポーツ	レクリエーションスポーツの実践						
第14回	レクリエーション	指導方法、レクリエーションプログラム作成						
第15回	レクリエーション	プログラム発表・実践						
教科書	教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 授業の取り組み、課題等で総合評価する							
授業時間外の学習	レクリエーションの意義について事前に学習すること。 バレーボールの基本的なルールや技能について学習をすること。							
履修のポイント								
オフィス・アワー								

平成27年度 シラバス

科目名	スポーツ科学Ⅱ <small>(トレーニングの方法)</small>		担当者	高見 達也	学科	看護学科	開講期	前期
区分	学部共通科目	選択	単位 (時間)	1単位 (30時間)	学年	2学年	曜日	
	教職に関する科目	必修		時限				
授業の概要	運動は健康で生き生きと過ごすために欠かせない大切な要素の一つである。生涯を通じて運動に親しみ実践していけるかどうかは青年期の取り組み如何による。基礎的な体力づくりのためのトレーニング方法の理論を学び、また運動実践能力を高めていく。更に、スポーツ活動を通じて心身を鍛え、スポーツコミュニケーションの追及、スポーツ実践による自己確認、技術の習熟による興味の拡大、スポーツ文化の理解を深める。							
教育目標	自己身体運動の理解と分析							
到達目標	基本トレーニングの方法論の習得。 グループワークにより、練習計画をたてるとともに、より高い技術の習得をめざす。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	オリエンテーション	授業概要、諸注意、メディカルチェック 体力と身体機能					運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。	
第2回	総合運動能力測定	運動能力測定の方法と実施						
第3回	総合運動能力測定	運動能力測定の実施 測定結果発表						
第4回	運動処方 トレーニング方法	運動能力測定結果に基づき、運動の種類・強さ・持続時間・頻度を示し、運動時の注意点を明確にする。						
第5回	球技Ⅰ	バドミントンの実践(基礎練習・ゲーム①)						
第6回	球技Ⅰ	バドミントンの実践(ゲーム②)						
第7回	球技Ⅰ	バドミントンの実践(ゲーム③)						
第8回	球技Ⅰ	バドミントンの実践(ゲーム④)						
第9回	球技Ⅰ	バドミントンの実践(ゲーム⑤)						
第10回	球技Ⅱ	バスケットボールの実践(基礎練習)						
第11回	球技Ⅱ	バスケットボールの実践(基礎練習・ゲーム①)						
第12回	球技Ⅱ	バスケットボールの実践(ゲーム②)						
第13回	球技Ⅱ	バスケットボールの実践(ゲーム③)						
第14回	球技Ⅱ	バスケットボールの実践(ゲーム④)						
第15回	有酸素トレーニングの実践	上肢・下肢のトレーニング(エアロビクス、サーキットトレーニング)						
教科書	教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 授業の取り組み、ゲーム内容で総合評価する							
授業時間外の学習	基本的なルールについて学習をし、体力・技術の弱点を克服するように努めること。							
履修のポイント								
オフィス・アワー								

平成27年度 シラバス

科目名	環境論		担当者	橋爪博幸	学科	看護学科 栄養学科	開講期	後期
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	今、この地球で問題となっている種々の環境問題を取りあげて講義する。							
教育目標	これからますますクローズアップされてくる地球環境問題について、すこしでも地球環境の現状への興味をかきたて、これから社会にでたあとでも環境に配慮した生活ができるようにする。							
到達目標	社会に出たあとまで地球環境問題に関心を持ち、さまざまな環境保全活動に積極的に参加できる人材を育てる。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	大気汚染(1)		中国から日本へ渡ってくるの大気汚染物質について知る。大気汚染の原因となる物質について理解する。					
第2回	大気汚染(2)		過去に起こった大気汚染による公害問題を知る。また、これに関連して、大気汚染についてどんな法律があるのかを見ていく。					
第3回	原子力発電所からの放射能汚染(環境被害)		2011年3月の東日本大震災では多くの人命が失われ、同時に福島原子力発電所の事故で放射能汚染が広がった。どのような環境汚染がひろがったか、その概略をみていく。					
第4回	放射能の被害について(人体への被害)		放射能や放射性物質について知り、大気、水(海)、土壌の放射能汚染、そして私たちの健康への影響について情報を整理し、同時にエネルギー問題について考える。					
第5回	地球温暖化と京都議定書		地球の温暖化のしくみを理解し、京都議定書の内容をつかむ。					
第6回	温暖化進行後の地球の予測		IPCCの報告書を読み、これからの地球でどのようなことが起こると予想されているのかをつかむ。					
第7回	生態系		生態系という概念を理解する。				レポート課題が出ます	
第8回	日本列島の自然環境		日本列島の自然環境について見ていく。					
第9回	廃棄物問題(1)		増え続けるゴミの問題について各自、解決策を探る。					
第10回	廃棄物問題(2)		廃棄物に関する法律にはどのような決まりがあるのか理解する。					
第11回	エネルギー問題		電気やガス、ガソリンといったエネルギー源の消費推移等を知る。電気料金の計算方法を学ぶ。					
第12回	エコロジカルフットプリント		エコロジカルフットプリントという概念を知る。同時に世界における貧困の現状、不平等や格差があることを知る。					
第13回	世界の不平等と環境破壊		貧困や不平等が、世界規模の環境破壊、生態系の喪失を招いていることを理解する。					
第14回	土壌の汚染		工業立地等における土壌汚染について見ていく。					
第15回	水質汚染		海や河川における汚れについて現状をつかむ。世界における水不足についても触れる。					
教科書	岡本博司『環境科学の基礎』第2版(東京電気大学出版局)							
参考書	必要なとき、講義中に提示する。							
成績評価	単位認定 60 点以上 課題の提出(20%)、期末試験(80%)をもとに総合的に評価する。							
授業時間外の学習	環境問題に関するニュースや新聞記事等を読み理解しておくことが事前学習につながる。復習として配布プリント等を熟読し、ポイントをまとめておくことを勧める。							
履修のポイント	配布プリントやレポート課題をかならず提出すること。							
オフィス・アワー	水曜日の昼休みの時間をオフィス・アワーとする。9号館3階の第10研究室に来ること。							

平成27年度 シラバス

科目名	人間発達学		担当者	齊藤敦子	学科	看護学科	開講期	後期
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	1学年	曜日	
			(時間)				時限	
授業の概要	人間の誕生から人生を終えるまでの身体的・心理社会的、及び知性や倫理道徳観の発達過程を学ぶ。また各成長発達段階の発達課題とは何かを理解する。							
教育目標	1. 発達領域（身体的・論理的・心理社会的・倫理道徳的）において、それぞれの発達課題を学び実際との関連性を理解する。 2. 人間は生涯を通して成長をしていることから、「よりよく生きるとは」について理解を深める。							
到達目標	1. 発達の原則に基づいた人間の成長発達過程を理解できる。 2. 身体的・思考（知性）・心理社会的・倫理道徳的な領域におけるそれぞれの発達課題を理解できる。 3. 各領域の成長発達の関連性があることを学習し、個人が抱えるさまざまな背景に基づいた成長発達過程を関連付けられる。 4. 生涯を通じて、「生きていくこと」の意義を述べることができる。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	人間の成長発達概念		発達の原則・発達課題について					
第2回	身体的な成長発達(1)		胎児期から学童期					
第3回	身体的な成長発達(2)		思春期から成人期					
第4回	身体的な成長発達(3)		高齢期、身体的な成長発達の課題学習					
第5回	思考の成長発達(1)		「思考の発達とは」、ピアジェの発達段階（感覚一運動期）					
第6回	思考の成長発達(2)		ピアジェの発達段階（前操作期・具体的操作期）					
第7回	思考の成長発達(3)		ピアジェの発達段階（形式的操作期）					
第8回	身体的・知的発達の関連性		身体的な成長発達が及ぼす思考の発達への影響				小テスト(1)	
第9回	心理社会的な成長発達(1)		「心理社会的な発達とは」、エリクソンの発達段階（0歳～4歳）					
第10回	心理社会的な成長発達(2)		エリクソンの発達段階（5歳～青年期）					
第11回	心理社会的な成長発達(3)		エリクソンの発達段階（成人期・高齢期）				レポート(1) レポート(2)（予定）	
第12回	倫理道徳観の成長発達(1)		「倫理道徳観の発達とは」、コールバーグの発達段階（前慣習期）					
第13回	倫理道徳観の成長発達(2)		コールバーグの発達段階（慣習期・後慣習期）					
第14回	生涯発達について		誕生から「老い」や「死」に至るまでの生涯にわたる発達について					
第15回	高齢期からの発達課題について		高齢期の発達課題・問題点、「より良く生きるとは」について考える				小テスト(2)	
教科書	必要な資料はクラス内で配付します							
参考書	自分自身の成長過程との関連性を考えながら取り組んでもらいたい。							
成績評価	単位認定 60点以上 レポート(1)・(2)各10点、小テスト(1)・(2)各40点（合計100点）							
授業時間外の学習	講義の進行に合わせて、身体と心、知性の発達などの関連性をレポートにまとめる							
履修のポイント								
オフィス・アワー	在室時は随時対応します 11号館3階研究室1							

平成27年度 シラバス

科目名	物理学		担当者	栴沢龍次郎	学科	看護・栄養学科	開講期	前期	
区分	学部共通科目	選択	単位 (時間)	2単位 (30時間)	学年	1学年	曜日		
							時限		
授業の概要	看護や栄養の専門分野を学習するうえで、「物理学」は重要な役割をもっています。本授業では、物理学の基礎知識や数的処理の方法、さらには、物理学の原理・原則を理解し、医療技術や臨床現場での応用まで発展させて学習します。専門科目を理解するための導入・基礎科目として、高等学校で物理を履修していなくても、十分理解できる内容と構成になっています。(教科書の内容をベースにして、物理学の基礎をまじえながら応用・事例の解説をする)								
教育目標	看護教育や栄養教育に必要な物理学的内容を、医療・看護・食と健康の現場との関連性を考慮していく								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 物理学の基礎「原理・原則」を理解する 看護・栄養分野への物理学の応用を理解する 基礎から専門分野への発展・応用ができるようにする 								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容					備考		
第1回	物理学と人体の関わり	・物理量と単位系 ・物理量の測定 ・物理学と医療機器							
第2回	人体の力学	・人体のてこ ・垂直跳び ・歩行と振り子 ・医療機器と力学							
第3回	流体と人体①(静止流体)	・大気圧と静水圧 ・圧力計 ・弾性薄膜 ・表面張力・陰圧 ・肺泡と表面張力							
第4回	流体と人体②(運動流体)	・心臓と血液の流れ・血圧の変化・血圧測定							
第5回	流体と人体③(流体と医療)	・気体を流す場合 ・液体を流す場合(点滴装置の原理)							
第6回	熱と体温 ①(熱と温度)	・温度と温度計・熱と比熱・融解と蒸発・熱と仕事(エネルギー)							
第7回	熱と体温 ②(体温調節)	・体温と温度調節・体内で発生する熱・身体からの放熱 ・生理的体温調節機構・物理的放熱機構							
第8回	熱と体温 ③(体温測定)	・平衡温 ・水銀温度計 ・電子体温計 ・耳式体温計 ・サーモグラフィ							
第9回	音と光と人体①(音波)	・音の性質 ・耳の構造 ・聴覚 ・音波の医療への応用							
第10回	音と光と人体②(光波)	・反射と屈折 ・スペクトル ・レンズとメガネ ・光の医療への応用							
第11回	電気と磁気の世界①(基礎知識)	・電流、電圧、電気抵抗 ・直流と交流 ・電力と熱							
第12回	電気と磁気の世界②(生体と電気)	・生体における静電気現象 ・心臓の刺激伝導系 ・医療における主な応用機器							
第13回	原子と放射線①(基礎知識)	・原子の構造と原子核 ・原子の定常状態 ・放射線と性質							
第14回	②(医学における放射線)	・放射線の基礎知識 ・放射線による障害とその防護							
第15回	③(医療への応用機器)	・医療における放射線の応用 ・X線CT ・MRI装置 ・ポジトロンCT装置							
教科書	医療系のための物理(佐藤幸一・藤城敏幸 著) 東京教学社								
参考書									
成績評価	単位認定 60 点以上(筆記試験80% 平常点:受講態度等)								
授業時間外の学習	新聞・雑誌等を通して、科学技術と人間及び医療保健について考えるようにする。								
履修のポイント	医療に関する種々の事象・応用が、どのようなしくみで成り立っているのかを考えながら履修すること。								
オフィス・アワー	月曜日(13:00~17:00):4号館2F(第3研究室)								

平成27年度 シラバス

科目名	生物学		担当者	荒井 勝己	学科	看護学科・栄養学科	開講期	前期
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	1学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	看護師・管理栄養士になるために学ぶ教科目の中で、生物学が関与する内容は非常に多い。高校時代に「生物」を履修してこなかった学生にも解りやすく、今後の授業で障害とならないよう、特に私たちヒトに関する内容（細胞、遺伝、免疫など）を中心に講義する。また最新のバイオテクノロジーやバイオサイエンスの情報なども織り込んでいく。							
教育目標	看護師・管理栄養士として必要な生物学の基礎を習得させる。							
到達目標	生命の基本単位である“細胞”に共通の基本構造および機能を踏まえ、細胞の発生・遺伝・進化のしくみについて学ぶ。またこれらを通じて、私たちの生体内で起こる様々な生命現象を理解するための基礎を身につける。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	生物学の基本	進化論の登場、地球上の生物に共通すること、生物体のつくりと階層性など						
第2回	細胞のプロフィール	細胞を構成している物質、細胞小器官の構造と機能など						
第3回	何が細胞の形や機能を決定しているのか	形質を決定しているものを求めて、遺伝子としてのDNAなど						
第4回	細胞が生きて活動していくために	ATPの産生、代謝経路のネットワークなど						
第5回	タンパク質が細胞のさまざまな活動を担う	タンパク質のさまざまな機能						
第6回	多細胞生物への道Ⅰ	細胞間の情報交換、ホルモンと受容体で情報を伝えるなど						
第7回	多細胞生物への道Ⅱ	DNAの複製、細胞周期と体細胞分裂など						
第8回	多細胞生物への道Ⅲ	減数分裂、生殖細胞の形成、受精など						
第9回	個体を守る免疫システム	非特異的生体防御機構、特異的生体防御機構、免疫機能の制御など						
第10回	生きること、死ぬこと	細胞の再生、細胞が死ぬとき、老化・寿命と遺伝子の関係など						
第11回	個体としてのまとめ	内部環境を一定に、制御中枢による情報の処理と調整、動物の行動など						
第12回	生物の進化と多様性	進化と多様性の創出、地球上の生物多様性を守るためになど						
第13回	遺伝とはⅠ	遺伝とは、メンデルの研究と遺伝の法則など						
第14回	遺伝とはⅡ	さまざまな遺伝						
第15回	遺伝とはⅢ	性と遺伝、性染色体と性の決定、伴性遺伝など						
教科書	『基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学』第2版 和田 勝著（羊土社） ※单元毎にプリントを配布							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験 100%							
授業時間外の学習	单元毎に復習問題を配付するので、解いて理解を深めること。							
履修のポイント	教科書の内容以外の事柄についても取り入れていくので、授業には積極的に参加すること。							
オフィス・アワー	授業内容等の質問については、授業終了後、または11号館3F研究室13で随時受け付ける。							

平成27年度 シラバス

科目名	化学		担当者	小林	学科	看護	開講期	前期
区分	学部共通科目	選択	単位 (時間)	2 30時間	学年	1	曜日 時限	
授業の概要	生体反応を理解するために必要な化学を学ぶ。パーセント濃度やモル濃度、原子の構造と化学結合、化学反応と化学平衡、溶液の化学、酸化と還元、有機化合物など看護師、管理栄養士の専門科目で必要とされる化学の基礎について学ぶ。							
教育目標	生体反応を理解するための化学の基礎知識を身に付ける。日常的な化学計算ができるようにする。。							
到達目標	1、パーセント濃度、モル濃度が計算できる。 2、SI 単位の理解 3、酸、塩基、酸化、還元、pH を理解する。 4、化学構造式を見て物質の性質がわかるようにする。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	実力テスト/化学で使う数字のルール	これまでの基礎学力の試験・指数・有効数字						
第2回	化学の世界	原子の性質と周期						
第3回	原子の構造	原子の電子配置、規則、荷電子						
第4回	化学結合 1	イオン結合、共有結合						
第5回	化学結合 2	共有結合、金属結合、分子間力、水素結合						
第6回	原子量と物質質量	原子量、分子量、式量、物質質量						
第7回	単位	SI単位、単位の変換					電卓	
第8回	化学反応の量的関係	化学反応式						
第9回	酸と塩基	酸・塩基、pH						
第10回	酸化と還元	酸化・還元の定義						
第11回	化学平衡と溶液の性質	化学平衡、電離平衡、溶液の性質						
第12回	濃度計算	濃度の計算 1					電卓	
第13回	濃度計算	濃度の計算 2					電卓	
第14回	濃度計算	濃度の計算 3					電卓	
第15回	総合演習	時間内で行った項目の総合試験を行い、実力を確認する。					電卓	
教科書	図表から学ぶ化学 インプレス化学基礎ノート							
参考書	化学総合資料							
成績評価	単位認定 60 点以上		時間内の総合演習の試験・小テスト等により評価					
授業時間外の学習	授業でおこなった範囲を問題集を使って必ず復習する。次の授業時間で問題を解き、学習の理解度を確認する。							
履修のポイント	濃度計算、化学構造を理解し、生化学・栄養学などの専門科目が理解できるようにする。理解度にあわせ、シラバスを変更する。							
オフィス・アワー	授業内で連絡							

平成27年度 シラバス

科目名	生活とデザイン		担当者	松村誠一	学科	看護学科・栄養学科	開講期	後期
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	<p>現代社会の中に生きている私たちは、多くの優れたデザインに囲まれて生活しておりそこから大きな影響を受けています。デザインと私たちの生活には密接な関係があり、近代になりグラフィックデザインやインダストリアルデザイン等の分野が確立されました。この授業では、私たちの生活とデザインの関係について考察していきます。 ※本授業では課題提出等により成績評価を行い、定期試験は実施しない。</p>							
教育目標	<p>日常生活の中に普通に存在している「デザイン」について、その意味や歴史、価値、可能性等を多角的に学んでいき理解を深めることを目的とします。</p>							
到達目標	<p>「デザイン」の意味や価値、可能性を多角的に考察し、デザインと人間との関係について理解を深め、私たちがより良い社会生活を営むことを目的とします。</p>							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	オリエンテーション	デザインを理解するために						
第2回	デザインの歴史	イギリスの伝統と革新						
第3回	デザインの歴史	アール・ヌーボーの世界						
第4回	デザインの歴史	市民生活のグラフィックデザイン						
第5回	デザインの歴史	バウハウスーデザインの実験と統合ー①						
第6回	デザインの歴史	バウハウスーデザインの実験と統合ー②						
第7回	デザインの歴史	アメリカのインダストリアルデザイン						
第8回	デザインの歴史	現代のデザイン						
第9回	デザインと人間工学	人体寸法と設計						
第10回	デザインと人間工学	家具、設備への応用（座る）						
第11回	デザインと人間工学	家具、設備への応用（寝る）						
第12回	デザインと人間工学	家具、設備への応用（立つ）						
第13回	デザインと人間工学	形・色・テクスチャーの心理						
第14回	デザインと人間工学	錯視効果						
第15回	デザインと人間工学	空間の心理						
教科書	使用しない。							
参考書	使用しない。							
成績評価	単位認定 60 点以上 課題 100%評価							
授業時間外の学習	「予習内容」情報収集を行い自分の考えまとめる。「復習内容」ノートの整理、確認を行う。							
履修のポイント	作品制作を行う場合がある。							
オフィス・アワー	1号館111研究室で随時行う。							

平成27年度 シラバス

科目名	地域社会学		担当者	篠原貴子	学科	看護学科・栄養学科	開講期	前期	
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	4学年	曜日		
			(時間)	(30時間)			時限		
授業の概要	近代社会は、社会構造や生活様式に大きな変化をもたらした。特に、農村から都市への人口流出や都市化は、コミュニティや個人を取り巻く環境を転換させた。本講義では、都市や農村に関する社会学の展開を中心に学ぶとともに、社会を構成する主要な組織が担う役割や課題を経済や文化の側面から把握する。								
教育目標	地域社会学の歴史や課題を理解し、社会学的思考を身に付ける。								
到達目標	講義内容を踏まえて、地域社会が抱える現代的課題を発見し、読み解く力を培う。								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容					備 考		
第1回	イントロダクション	地域社会学の意義と課題							
第2回	都市社会学の系譜	都市社会学の展開							
第3回	流動型社会論	近代化論							
第4回	現代の都市社会	都市空間と人間形成							
第5回	現代の農村社会	高度経済成長と農村社会							
第6回	地域権力構造論	地域と政治							
第7回	アーバンイズムとコミュニティ	町内会の変遷と課題							
第8回	アーバンイズムとローカリティ	東京の都市空間							
第9回	グローバル社会	グローバル化と地域社会の変貌							
第10回	エスニック・コミュニティ	エスニック・コミュニティの形成							
第11回	社会変動と地域社会の形成	住民生活と行政							
第12回	農山村の混住化社会	現代の農村社会							
第13回	地域社会の活性化	地域の復興と観光							
第14回	コミュニティ形成の課題	新たなコミュニティの創出と地域社会							
第15回	まとめ	地域社会学の展望							
教科書	必要な資料は随時配布								
参考書	鈴木広監修 『地域社会学の現在』 (ミネルヴァ書房)								
成績評価	単位認定 60 点以上 授業態度や試験結果で総合評価する。								
授業時間外の学習	授業内容に関して、意欲的に学習する。								
履修のポイント									
オフィス・アワー	授業日の、授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じます。								

平成27年度 シラバス

科目名	人間工学		担当者	亀井実、斉藤徹、榎本有陸	学科	看護学科 栄養学科	開講期	前期
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	2学年	曜日	水曜日
	(時間)	(30時間)	時限					
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 人間の運動機能や動作特性について理解を深めるとともに、障害者や高齢者などにとっての使いやすさの観点から福祉用具の活用や住環境の整備の方法を学ぶ。 							
教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活動作の特性を踏まえた福祉機器、住環境の整備に関する実践的知識を習得する。 							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 適切な福祉機器を選択したり、住環境を整備するための基礎知識を得る。 障害者や高齢者などの生活の利便性、安全性、快適性を向上させるための人間工学の活用について考える。 							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	姿勢の観察	(オリエンテーション) 重心と姿勢、バランスについて学ぶ					榎本	
第2回	転倒と転倒予防	日常生活動作における転倒と転倒予防について学ぶ					榎本	
第3回	日常生活動作と関節可動域	関節可動域の評価と日常生活動作に必要な関節可動域について学ぶ					榎本	
第4回	日常生活動作と筋力	筋力の評価と日常生活動作に必要な筋力について学ぶ					榎本	
第5回	車いす	車いすの基本構造と駆動方法について学ぶ					亀井	
第6回	住環境整備	要介護者、介護者にとっての安全で快適な療養環境について学ぶ					亀井	
第7回	歩行	歩行分析について学ぶ					斉藤	
第8回	歩行障害	歩行補助具の種類と杖歩行のパターンについて学ぶ					斉藤	
第9回	起居動作	立ち上がり動作をはじめとする動作分析(力学的分析)について学ぶ、					斉藤	
第10回	事例紹介	福祉用具の活用や住環境整備の実際の事例について紹介する					斉藤	
第11回	介護技術	要介護者の自立を助け、快適な療養環境について学ぶ					亀井	
第12回	福祉機器	身体特性に応じた福祉機器の選択について学ぶ					亀井	
第13回	フィールドワーク (調査・討論)	障害者、高齢者の立場からキャンパス内の建築物、環境を見直す(グループワーク)。					斉藤	
第14回							斉藤	
第15回	まとめ	これまでの授業内容のまとめ。(試験問題の解説などを含む)					亀井	
教科書	なし(授業時に資料を配布する。)							
参考書	なし(授業時に適宜紹介する。)							
成績評価	単位認定 60 点以上							
授業時間外の学習								
履修のポイント								
オフィス・アワー	授業日の、授業終了後に教室等で相談に応じます。							

平成27年度 シラバス

科目名	行動科学		担当者	徐 淑子	学科	看護学科 栄養学科	開講期	後期	
区分	学部共通科目	選択	単位	1単位	学年	4学年	曜日		
			(時間)	(15時間)			時限		
授業の概要	この授業では、人々が健康を守る行動を起こすときにどんな心理社会的仕組みが働いているのかについて、学びます。また、それらの知識を健康教育や患者教育にどのように応用できるのかについて、考えます。まずは、じぶん自身の行動をモデルに当てはめて考えてみることから学習を始めましょう。								
教育目標	行動モデルの発想を、保健医療の現場で生かすための、基礎をつくることを目的とします。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 「健康と病気」をめぐる行動のさまざまなすがたについて、理解を深める 行動モデルを用いて、身近な健康現象を理解・説明することができるようになる 1および2の知識を健康教育や患者教育に生かす方法について、理解する 								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容					備考		
第1回	保健行動の多様性 1	健康と病気にかかわるさまざまな行動を、いくつかの視点で分類しながら理解する。看護職者がとりあつかうケア範囲の広さを確認する。							
第2回	保健行動の多様性 2	生活構造論、段階的変化理論について取り上げ、保健行動がどのようにして個人の生活の中に組み込まれていくのかについて考える。							
第3回	保健行動の生起とその習慣化 1	保健行動を説明する代表的な行動モデルについて学習する。 ①教育モデル ②恐怖アピールモデル ③保健信念モデル ④保健行動シーソーモデル							
第4回	保健行動の生起とその習慣化 2								
第5回	保健行動の生起とその習慣化 3	社会的学習理論（自己効力感モデル）の考え方より、行動変容の過程について考える。							
第6回	精神健康が保健行動に与える影響	生活ストレス論の立場から、「なぜ、かんたんな保健行動も起こせない／続かない人がいるのか」について、考える。							
第7回	行動科学的な知見の応用 1 (生活習慣指導への応用)	行動科学的知見を、生活習慣指導における個別支援にどのように活用できるか、事例に学びながら理解を得る。 ①認知行動療法の基本的な考え方 ②認知行動療法の考え方を援助内容にとりいれる							
第8回	行動科学的な知見の応用 2 (生活習慣指導への応用)								
第9回									
第10回									
第11回									
第12回									
第13回									
第14回									
第15回									
教科書	指定教科書はありません。教員が資料を配布します。								
参考書	授業中に、その都度、情報の出典を示し、書籍や文献を紹介さしあげます。								
成績評価	単位認定 60 点以上 課題提出80%以上で評価								
授業時間外の学習	とくに予定していません。授業中に学んだ視点からじぶんの日常生活を振り返り、次回の課題に反映させることを奨励します。								
履修のポイント	授業中に個別ワークにとりくんでもらいます。また、視聴覚資料を毎回視聴します。私語厳禁でお願いいたします。								
オフィス・アワー									

平成27年度 シラバス

科目名	コミュニケーション論		担当者	山本裕詞	学科	看護学科	開講期	後期	
区分	学部共通科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日		
			(時間)	(30時間)			時限		
授業の概要	コミュニケーションの能力が高いとは、どういうことか。反対に、コミュニケーションが上手いかわからないのはなぜなのか。人が人として生きていく上でコミュニケーションは欠かせないが、これを成立させることは必ずしも簡単ではない。今日の「コミュニケーション」研究の成果を紹介しながら、多面的に「コミュニケーション」について考察をすすめる、その正体を明らかにしていく。								
教育目標	日常的に行われているコミュニケーションの多面性を認識することを通して、不確実性の高まる社会の中でも遅く生き抜ける確かな自我の獲得を目指す。また、コミュニケーションを通じた新たな意味の創造可能性を理解することを通して、主体的に生きることの喜びに触れる。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーション論に関する代表的議論の概要を理解する。 2. コミュニケーションによる社会的な自己形成過程を理解する。 3. コミュニケーションが成立する条件と成立しない条件を理解する。 4. コミュニケーションによる意味の創造可能性を理解する。 5. 特殊なコミュニケーション例から、人の生の特徴を考察する。 								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容					備考		
第1回	オリエンテーション コミュニケーション能力	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方 2. コミュニケーションが上手い人、下手な人 							
第2回	「説得」する力	<ol style="list-style-type: none"> 1. 説得とは何か 2. 「説得」の諸理論 							
第3回	「説得」の前提	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な「必要性」 2. 文化的前提 							
第4回	対人コミュニケーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人と関わる力 2. 談話と情報伝達の構造 							
第5回	社会とのコミュニケーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「社会」のリアリティ 2. コミュニケーションと自己の生成 							
第6回	コミュニケーションとメディア	<ol style="list-style-type: none"> 1. メディア技術と社会 2. マスメディアとコミュニケーション 							
第7回	情報の受け手の「主体性」	<ol style="list-style-type: none"> 1. 提供された情報への意味の付与 2. 情報の受け手の限界と双方向コミュニケーション 							
第8回	集団・組織のコミュニケーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族コミュニケーション 2. 組織コミュニケーション 							
第9回	国際コミュニケーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本人のコミュニケーション 2. 異文化コミュニケーション 3. 国際コミュニケーション 							
第10回	ジェンダーと コミュニケーション①	<ol style="list-style-type: none"> 1. ジェンダーとは何か 2. 男女間のコミュニケーション問題 							
第11回	ジェンダーと コミュニケーション②	<ol style="list-style-type: none"> 3. 公私の分離とジェンダー 4. ジェンダー-コミュニケーションを介した新たな意味の創造 							
第12回	集合行動・社会運動の コミュニケーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. 群衆・公衆のコミュニケーション 2. うわさのコミュニケーション 3. 集合行動と社会運動 							
第13回	了解のコミュニケーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. 話がかみあう条件 2. 指標性と了解可能性 							
第14回	行為としてのコミュニケーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語ゲーム論と言語行為論 2. 会話の作法と言外の意味 							
第15回	転移のコミュニケーション 授業のまとめ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 転移とコミュニケーション 2. まとめ 							
教科書	使用しません。必要に応じて資料を配付します。								
参考書	船津衛『コミュニケーション・入門（改訂版第2版）』有斐閣アルマ 2012年、伊藤公雄編『コミュニケーション社会学』世界思想社 2010年、鈴木健編著『コミュニケーション・スタディーズ入門』大修館書店 2010年								
成績評価	単位認定 60 点以上 授業中に実施する確認テストと1~2回課す予定のレポートによって40%、残り60%を学期末試験で評価する。欠席、遅刻等は減点の対象とする。授業への積極的参加は加点の対象とする。								
授業時間外の学習	1~2回課す予定のレポートは、自学による情報収集を必要とするものになる。また、授業の後は、ノートを整理しながら復習することを求める。随時、関連図書も紹介するので、自らの関心を深めていって欲しい。								
履修のポイント	様々な角度からコミュニケーションを考察するので、それを自分の体験のレベルに置き換えて、又は想像して見るのが重要である。								
オフィス・アワー	アポイントをとってください。水曜日に互いの都合の良い時間を調整します。								

平成27年度 シラバス

科目名	基礎英語 I		担当者	女鹿喜治	学科	看護学科	開講期	前期
区分	学部共通科目	必修	単位	1 単位	学年	1 学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	看護に関わる英語教材を使い、将来、働くことになる医療機関で使われている語彙や表現を身に付けます。お互いに看護に関わる会話の練習と英文の読み取りを行います。一応、講義計画表通り進めていきますが、みなさんの英語力と予習の出来を見ながら進度を調節します。英語はやれば必ずできるようになります。才能ではありません。コツコツやりましょう。特に、英語の読み取りは地道にやるしかありません。							
教育目標	看護に関わる基本的な会話表現の練習と英文を読みましよう。							
到達目標	看護に関わる基本的な英語表現の習得とその内容を読みとる。TOIECで550点以上を目指します。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	導入	看護と医学に関わる英語表現について考えます						
第2回	看護に関わる基本的な会話表現の練習と英文読解	来院、医学・看護用語(1)						
第3回	〃	初診受付、医学・看護用語(2)						
第4回	〃	問診(1)、医学・看護用語(3)						
第5回	〃	脈拍、血圧、体重の測定、医学・看護用語(4)						
第6回	〃	採血、採尿、医学・看護用語(5)						
第7回	〃	診断(1)、医学・看護用語(6)						
第8回	〃	問診(2)、医学・看護用語(7)						
第9回	〃	症状をより詳しく聞く、医学・看護用語(8)						
第10回	〃	診断(2)、医学・看護用語(9)						
第11回	〃	薬の説明、医学・看護用語(10)						
第12回	〃	問診(3)、医学・看護用語(11)						
第13回	〃	MRIを受ける、医学・看護用語(12)						
第14回	〃	手術を勧める、医学・看護用語(13)						
第15回	まとめ	前回まででやりきれなかったものがあれば、それを扱います。						
教科書	樋口雅彦・J. Tremarco (2013). 看護英語への総合的アプローチ. 金星堂.							
参考書	教室で適宜指示します。							
成績評価	単位認定 60 点以上 試験の点数(80%)。教室での発言やその内容など(20%)。							
授業時間外の学習	大雑把でいいですから、事前に英会話と英文を読んで、内容を把握しておいてください。そして、講義の後には、その英語がそのまま頭の中に入ってくるまで何度も読んでください。古くさいかもしれませんが、こういった積み重ねが英語力を高めます。							
履修のポイント	英語を通して看護を見ると、看護の別の側面が見えてきます。それを意識してください。							
オフィス・アワー	基本的には、私の空いた時間ならいつでも来室してください。ただ、それなりの話をするつもりなら、予約を取ってください。							

平成27年度 シラバス

科目名	基礎英語Ⅱ		担当者	女鹿喜治	学科	看護学科	開講期	後期
区分	学部共通科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	<p>高校まで身につけた英文の表現力を伸ばしていきます。特に、日本語にはない英語独特の発想による表現に対しても注意を払っていきます。また、英語の段落の構成についても注意します。比較的簡単な英語ですから、できるだけ日本語を英語にしておいてください。そして、講義中はできるだけ多くの方にその英語を言うか、板書してもらい、必要に応じて正しい英語に直します。一応、講義計画表通り進めていきますが、みなさんの英語力と予習の出来を見ながら進度を調節します。</p>							
教育目標	<p>文法項目を中心にしたテキストを使いますが、これは知的な英語を表現するために特に重要な項目を習得させるためです。話し言葉はかなりいい加減な言い方をしても通じるものです。しかし、文章にした場合、基本的な文法・語法に沿った書き方をしないとその人の知的レベルまで疑われることがあります。そうならない必要最低限の表現力を身</p>							
到達目標	<p>英文をさらに文法的に正確に書けるようにする。TOEIC 500点程度を目指します。</p>							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	導入	英語を表現できるようにするためには、どんなことをすべきなのかを考えます。						
第2回	文法項目ごとの英語表現	自動詞						
第3回	〃	他動詞						
第4回	〃	基本的な英語の時間表現						
第5回	〃	完了形と進行形						
第6回	〃	句動詞						
第7回	〃	名詞						
第8回	〃	冠詞						
第9回	〃	代名詞						
第10回	〃	形容詞						
第11回	〃	動詞						
第12回	〃	能動態と受動態						
第13回	〃	不定詞、動名詞、分詞						
第14回	英語の段落構成	序論・本論・結論 (1)						
第15回	〃	〃 (2)						
教科書	小中秀彦 (2009). English Checklist. 南雲堂.							
参考書	教室で適宜指示します。							
成績評価	単位認定 60 点以上 試験の点数 (80%)。教室での発言やその内容など (20%)。							
授業時間外の学習	極端な話ですが、英語は知らないと表現できません。自宅では、その日に習う英語を口で言って、書いてみてください。その後、それがすぐに口から出るように何度も練習してください。							
履修のポイント	ことばですから、日常生活の中でこの場合は英語では何というのだろうと常に考えながら生活してみてください。こうすることで英語の表現力が高まります。							
オフィス・アワー	基本的には、私の空いた時間ならいつでも来室してください。ただ、それなりの話をするつもりなら、予約を取ってください。							

平成27年度 シラバス

科目名	実践英会話		担当者	HT マチャコン	学科	看護学科	開講期	前期
区分	学部共通科目	選択	単位	1単位	学年	2学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	英語のlistening能力の養成を図りながら、多くの日常英語表現を学び、あらゆる状況に応じてspeaking能力を身に付け、実践的な英語の表現能力の向上を目指す。さらに時事・文化的な表現も学習し、国際社会人として、諸外国の人々との相互理解ができる様にする。 授業は英語で行い、オンラインデジタル教材も利用する。							
教育目標	Develop better listening and speaking abilities while learning foreign culture. 外国の文化を学びながら、英のlisteningや speaking能力を向上すること。							
到達目標	1. The students can comprehend and respond to various oral directions and questions. 様々な口頭の指示や質問に対応できるようになる。 2. The students will learn how to interact in everyday situations using English. 日常生活で英語を使用して対話ができるようになる。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	オリエンテーション Basic English Review		授業の進め方、オンライン資料の紹介、デジタル録音の仕方 International Englishについて 英語復習: Time, Dates, Months, Numbers, Directions etc.					
第2回	The Rules Scene		Asking permission and learning the rules					
第3回	The Time Scene & Culture Talk 1		Talking about time and schedules Culture Talk: Gestures and Taboos					
第4回	The Polite Request Scene & Idioms		Making polite requests and offers Commonly used Idioms					
第5回	Putting Things Away Scene		Asking about location and where things go					
第6回	The Location Scene & Idioms		Asking where places are and giving directions Commonly used Idioms					
第7回	Mini-Test The Shopping Scene		Mini-Test Shopping and asking about preferences					
第8回	The Directions Scene		Giving directions about how to get somewhere					
第9回	The Restaurant Scene & Culture Talk 2		Ordering and Serving Food in a restaurant Culture Talk: Strange Foods					
第10回	The Complaint Scene		Making and responding to complaints					
第11回	The Illness Scene		Describing a medical problem and asking advice					
第12回	Practical English & Culture Talk 3		Reporting an Emergency Culture Talk: Superstitious Beliefs					
第13回	The "How To" Scene		Asking for instructions and explaining how to do something					
第14回	The Getting Things Done Scene		Getting things done that you do not do yourself					
第15回	Test Role Playing		Evaluation Test Pairwork: Role Playing					
教科書	Performance -Conversation Scenes from Everyday Life David Harrington and Charles LeBeau							
参考書	イギリスのBBC: http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/ 学習題材を提示する教材							
成績評価	単位認定 60 点以上 授業への積極性 (25%)、課題 (25%)、テスト (50%) で評価する。 *定期試験を実施しない。							
授業時間外の学習	授業時間外の学習時間の増大による英語力の向上につながる。配布資料及び教科書の該当箇所を参照し、学習内容に応じた準備学習(予習・復習)を行うこと。 学習ポートフォリオの作成については授業時に指示する。							
履修のポイント	①「基礎英語I、基礎英語II」を履修済みであることが望ましい。 ②日常生活でよく用いられる英語表現を学び、それらを実践していく。							
オフィス・アワー	毎週金曜日 昼休み 研究室: 9号館3F 第12研究室(情報環境研究室) E-mail: mach.dr@gmail.com							

平成27年度 シラバス

科目名	医療保健英語		担当者	女鹿喜治	学科	看護学科／栄養学科	開講期	後期
区分	学部共通科目	選択	単位	1単位	学年	2学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	<p>私たちを取り巻く環境や食生活がますます急激に変動しつつあります。このような時代における心身の健康や食生活に関わるエッセイを読みます。看護学科と栄養学科の合同ですから、それぞれに配慮した内容のものにしたいと思えます。場合によっては、一応、講義計画表通り進めていきますが、みなさんの英語力と予習の出来を見ながら進度を調節します。</p>							
教育目標	看護学科と栄養学科に関わる基本的な文献に慣れて、将来、英語の論文などを読む下地を作る。							
到達目標	看護学科と栄養学科に関わる英文を読み、基本的な語彙と表現に慣れる。TOEIC 550点程度を目指します。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	導入	ある程度専門的な英語を読めるようにするためにはどんなことをしなければならないのかを考えてみます。						
第2回	食生活と健康に関わる英文の購読	Healthy Japan						
第3回	〃	Health and Evolutionary Psychology						
第4回	〃	Natural Defense						
第5回	〃	Race and Health						
第6回	〃	Understanding Medical Studies						
第7回	〃	Cancer						
第8回	〃	The World's Most Common Disease						
第9回	〃	Instant Noodles						
第10回	〃	Supplements						
第11回	〃	The New Global Epidemic						
第12回	〃	Health and Genes						
第13回	〃	Mental Health						
第14回	〃	Addictions						
第15回	〃	The New Nutrition						
教科書	明日の健康と医療を考える. Paul Stapleton. センゲージ・ラーニング.							
参考書	教室で適宜指示します。							
成績評価	単位認定 60 点以上 試験の点数 (80%)。教室での発言やその内容など (20%)。							
授業時間外の学習	大雑把でいいですから、事前に英文を読んで、内容を把握しておいてください。そして、講義の後には、その英語が英語のままで左か右にそのまま頭の中に入れてくるまで何度も読んでください。こういった積み重ねが英語力を高めます。							
履修のポイント	ここで語られている内容そのものは意識の高い学生なら既に知っているものかもしれませんが。英語そのものは難しく感じて、そのような場合、意外に読みやすいものです。恐れずにチャレンジしてみてください。							
オフィス・アワー	基本的には、私の空いた時間ならいつでも来室してください。ただ、それなりの話をするつもりなら、予約を取ってください。							

平成27年度 シラバス

科目名	英書講読		担当者	女鹿喜治	学科	看護学科	開講期	後期
区分	学部共通科目	選択	単位	1単位	学年	3学年	曜日	
	教養科目		(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	将来、働くことになる医療機関で使われている語彙や表現を含む英語教材を使い、看護に関わる語彙力と読解力を身に付けます。							
教育目標	みなさんは、卒業後、看護の実践の場に行くことになるでしょうが、しばらくすれば、必ず看護研究に関わることになると思います。その時には、英語で書かれた論文を読むことになるでしょう。その基礎的な訓練になると思います。							
到達目標	看護に関わる英文の内容をすばやく、深く読みとる。TOEIC 550点程度。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	導入	看護に関わる英語表現について考えます						
第2回	看護に関わる英文の講読	Insomnia						
第3回	〃	Chronic pain						
第4回	〃	Healthy dietary practice						
第5回	〃	Urinary retention						
第6回	〃	Constipation						
第7回	〃	Impaired physical mobility						
第8回	〃	Visual alternations						
第9回	〃	Surgical client						
第10回	〃	Memory impairment						
第11回	〃	Lifestyles-related disorders						
第12回	〃	進度の調整、その時に話題となっている看護に関わる記事を読みます						
第13回	〃	進度の調整、その時に話題となっている看護に関わる記事を読みます						
第14回	〃	進度の調整、その時に話題となっている看護に関わる記事を読みます						
第15回	〃	進度の調整、その時に話題となっている看護に関わる記事を読みます						
教科書	事例で学ぶ看護英語. 杉田由仁 & R. Caraker (2007). 成美堂.							
参考書	教室で適宜指示します。							
成績評価	単位認定 60 点以上 試験の点数 (80%)。教室での発言やその内容など (20%)。							
授業時間外の学習	大雑把でいいですから、事前に英文を読んで、内容を把握しておいてください。そして、講義の後には、その英語がそのまま頭の中に入ってくるまで何度も読んでください。古くさいかもしれませんが、こういった積み重ねが英語力を高めます。							
履修のポイント	英語を通して看護を見ると、看護の別の側面が見えてきます。それを意識してください。							
オフィス・アワー	基本的には、私の空いた時間ならいつでも来室してください。ただ、それなりの話をするつもりなら、予約を取ってください。							

平成27年度 シラバス

科目名	中国語		担当者	佐々木百合	学科	看護学科 栄養学科	開講期	前期
区分	学部共通科目	選択	単位	1単位	学年	2学年	曜日	
			(時間)	30時間			時限	
授業の概要	中国語を初めて学習する者を対象にした授業です。教科書に沿って中国語の発音の基礎となる声調とピンインの発音練習から行います。また、中国語の基礎的な単語や慣用句、文法を学び、日常会話までを目指します。そして、隣国中国の文化が古くから日本文化に大きな影響を与えてきたことの理解をいっそう深めることです。							
教育目標	将来様々な職業に従事し、一般社会において中国人と接した時、中国語で積極的に交流ができること。							
到達目標	中国語の正しい発音と簡単なあいさつから日常会話までの読む・聴く・話す・書くを総合的にバランスよく習得する。基礎的な単語を覚え、基礎的な文法を理解することで、簡単な中国語の表現ができることを目標とします。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	発音1	声調・単母音・発音練習						
第2回	発音2	子音・複合母音・発音練習						
第3回	発音3	ピンインの組み合わせ・発音のまとめ						
第4回	第1課 挨拶と自己紹介	人称代名詞・「是」の文						
第5回	第1課 挨拶と自己紹介	単語の発音練習・会話文の解説・練習問題						
第6回	第2課 疑問文	指示代名詞1・疑問詞疑問文・「的」の用法・副詞「也」の用法						
第7回	第2課 疑問文	単語の発音練習・会話文の解説・練習問題						
第8回	第3課 動詞の文	動詞の文・所有を表す「有」・省略疑問の「呢」						
第9回	第3課 動詞の文	単語の発音練習・会話文の解説・練習問題						
第10回	第4課 形容詞の文	量詞・指示代名詞2・形容詞の文・「几」と「多少」						
第11回	第4課 形容詞の文	単語の発音練習・会話文の解説・練習問題						
第12回	第5課 数のいろいろ	数字・日付時刻を表す語・動作の時点を言う表現						
第13回	第5課 数のいろいろ	単語の発音練習・会話文の解説・練習問題						
第14回	総復習	単語と文法のまとめ						
第15回	試験範囲の問題	総合練習						
教科書	<最新2訂版>中国語はじめての一步 尹景春・竹島毅 著 白水社							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 授業中の問答に20%、期末試験を80%として、合計60%以上を合格とします。							
授業時間外の学習	中国語を母国語とする学生の履修は認めません。授業中は中国の様々なことについてたくさん質問して下さい。							
履修のポイント								
オフィス・アワー								

平成27年度 シラバス

科目名	スペイン語(選択)		担当者	関口伸治	学科	看護学科・栄養学科	開講期	後期
区分	学部共通科目	選択	単位	1単位	学年	1年	曜日	
			(時間)	30時間			時限	
授業の概要	1. 発音、アクセント動詞の現在形までの基本文法を学び練習問題をする。 2. 挨拶、自己紹介など基本会話、看護科、栄養科別に現場で使える会話表現を覚える。 3. スペイン語の諺や在留外国人の問題についてメールでレポート提出。 4. 映画や歌などラテン文化の紹介							
教育目標	1. スペイン語の初級会話ができるようにする。職場で使えるような表現を学ぶ。 2. ヨーロッパの考え方など異文化理解をする。							
学習目標	1. 発音、初級文法の概要を知る。 2. 基本会話と言える。専門別の会話例を覚える。 3. ヨーロッパの考え方や外国人を深く理解できる。							
授業計画								
回	主題		授業内容			備考		
第1回	スペイン語の読み		スペイン語の特色、アルファベット・発音・アクセント					
第2回	名詞の性と数		名詞の性と数、定冠詞・不定冠詞、基本会話の読み					
第3回	SER動詞		人称代名詞・SER動詞の人称変化、			レポート1	諺コメント1	
第4回	ESTARの人称変化・HAY		ESTARの人称変化・HAY			会話テスト	挨拶など	
第5回	規則動詞		AR, ER, IR動詞の人称変化。簡単な文を作る。					
第6回	不規則動詞・強変化		tenerの変化、状態の表現、医療会話の読み方					
第7回	語順が特殊な動詞		好き嫌いの表現、栄養指導の会話の読み方			レポート2	諺コメント2	
第8回	不規則動詞・弱変化		querer, poderの変化、助動詞と不定詞の表現、したい、できる、なければならない					
第9回	再帰動詞		「1日の予定」から再帰動詞を学ぶ。					
第10回	文法のまとめ		基本文法ペーパーテストをする			レポート3	諺コメント3	
第11回	専門分野会話練習2		旅行会話、買物の例文を練習する					
第12回	分野別会話練習		旅行会話、買物の例文を練習する					
第13回	分野別会話練習		医療会話、栄養指導会話の練習2			レポート4	外国人問題	
第14回	分野別会話練習		問診の例文を練習する			会話テスト選択		
第15回	分野別会話練習		栄養指導、レシピの読み方の例文を練習する					
教科書	自作教材を配布する。							
参考書	市販の参考書はほぼ同じ内容です。他にテレビ講座も参考になります。							
成績評価	単位認定 60点以上、オーラル・テスト(50%)、文法テスト(50%)							
授業時間外の学習	辞書や携帯の辞書機能、翻訳サイトを活用する。グループで会話練習をする。レポートを書く。							
履修のポイント	スペイン語の簡単な発音になれる。文法は英語と比較して特色を知る。会話は演技をつけて練習する。							
オフィス・アワー	講義の前後、食堂にいるときに質問を受け付けます。Somos amigos (ソモス・アミゴス 我々は友達です)。							

平成27年度 シラバス

科目名	ポルトガル語		担当者	伊勢島セリア明美	学科	栄養学科・看護学科	開講期	後期
区分	学部共通科目	選択	単位	1単位	学年	1学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	基本文法を取り上げた後、練習問題を通して学習を確認します。最後に簡単な会話の練習を行います。							
教育目標	ポルトガル語に親しみを感じて頂き、又、異文化に触れることを目的とします。							
到達目標	挨拶を初め、初歩の会話を身につけることを目標とします。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	Como é seu nome?	アルファベット、挨拶、基本構文						
第2回	Eu sou japonês.	動詞ser、否定文、疑問文、出身地を表す前置詞 de						
第3回	Meu pai é professor.	所有形容詞とその変化						
第4回	Meu irmão é alto.	形容詞とその変化						
第5回	O português é mais difícil do que o japonês?	定冠詞、比較の表現						
第6回	Quantos anos você tem?	動詞ter、数詞、名詞の数						
第7回	Eu gosto de estudar.	動詞gostar、動詞preferir						
第8回	Eu quero um computador preto.	不定冠詞、動詞querer、色の表現						
第9回	Meu celular está na bolsa.	動詞estar、場所を表す前置詞 em						
第10回	Meu amigo vai à biblioteca.	動詞ir、方向を表す前置詞a、交通手段を表す前置詞de						
第11回	A que horas você acorda?	ar規則動詞の現在形、時間の表現						
第12回	Eu entendo português.	er規則動詞の現在形、同伴を表す前置詞 com						
第13回	Eu abro o e-mail todos os dias.	ir規則動詞の現在形、月の名前						
第14回	Ele estudou português.	完全過去形、時を表す前置詞 em、曜日の名前						
第15回	Escreveremos uma carta.	未来形						
教科書	プリントを配布します。							
参考書	ニューエクスプレス ブラジル ポルトガル語 (香川正子著 白水社)							
成績評価	単位認定 60 点以上小テスト (60%) 及び練習問題 (40%) で100%評価							
授業時間外の学習	プリントを基に予習と復習を行うことが望ましいです。							
履修のポイント	練習問題に積極的に取り組むことです。							
オフィス・アワー	授業日の授業終了後に教室で相談に応じます。							

平成27年度 シラバス

科目名	情報処理基礎演習		担当者	HT マチャコン	学科	看護学科	開講期	前期
区分	学部共通科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日	
	教職科目	(必修)		(時間)			(30時間)	時限
授業の概要	我々の生活や仕事が情報化によって変化している。病院では、患者に関する情報がコンピュータによって処理されている。ICT「情報通信技術」時代の要請にそって、情報処理の教育は必要である。ここで、コンピュータやネットワークの利用を通して、情報処理を学ぶ。演習を通して、コンピュータの基本的な操作法を習得する。更に、インターネットに関する知識や技術も習得する。							
教育目標	アプリケーションソフト (Office 2010 : Word, Excel, Powerpoint)やインターネットに関する知識や技術を習得するとともに、コンピュータリテラシーを向上すること。							
到達目標	①コンピュータの基本構成を理解の上で基本操作を習得する。 ②アプリケーションソフトの基本機能を理解し、基本的なスキルを習得する。 ③インターネットを利用した情報検索や情報発信を学び、インターネットを使いこなす。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	オリエンテーション パソコンの基本操作		パソコンの構成とソフトウェア、WindowsOSの基礎知識、基本操作、Eメールのアカウントの設定					
第2回	Wordの活用 (1)		Wordの基本操作、基本編集					
第3回	Wordの活用 (2)		文書作成					
第4回	Wordの活用 (3)		表の作成					
第5回	Wordの活用 (4)		図形を描く					
第6回	インターネットの利用		インターネットの概要、Webブラウザと検索、本大学の図書館資料検索 (OPAC)					
第7回	Wordの実技		実技テスト (Word)					
第8回	PowerPointの活用		プレゼンテーションの概要、スライドの作成					
第9回	Excelの活用 (1)		Excelの基本操作 (アンケート用紙の作成)					
第10回	Excelの活用 (2)		数値入力と関数とグラフ					
第11回	Excelの活用 (3)		アンケートデータの入力と集計					
第12回	Excelの活用 (4)		関係を求める (相関係数)					
第13回	Excelの活用 (5)		演習課題					
第14回	Excelの実技		実技テスト (Excel)					
第15回	Webによる情報発信		知的財産権、著作権、個人情報、情報セキュリティ					
教科書	医療系のための情報リテラシー ISBN-978-4489022050 松木秀明 (著), 須藤真由美 (著), 松木勇樹 (著) 東京図書							
参考書	Office2010で学ぶコンピューターリテラシー /Windows7対応 ISBN978-4-407-32242-2 小野目 如快 実教出版							
成績評価	単位認定 60 点以上 課題 (40%)、実技テスト(60%) で評価する。 *定期試験を実施しない。							
授業時間外の学習	上記授業内容については、あらかじめ自己学習しておくことをすすめる。配布資料及び教科書の該当箇所を参照し、学習内容に応じた準備学習 (予習・復習) を行うこと。 学習ポートフォリオの作成については授業時に指示する。							
履修のポイント	①授業時間外での活用が必要である。 ②なるべく多くの例題や演習問題を解いて覚えましょう。							
オフィス・アワー	毎週金曜日 昼休み 研究室 : 9号館3F 第12研究室 (情報環境研究室) E-mail: mach.dr@gmail.com							

平成27年度 シラバス

科目名	情報処理応用演習		担当者	HT マチャコン	学科	看護学科	開講期	後期
区分	学部共通科目	選択	単位 (時間)	1単位 (30時間)	学年	2学年	曜日	
	教職科目	(必修)		時限				
授業の概要	「情報処理基礎演習」に引き続き、看護研究や学習において欠かせない情報処理能力を向上させるよう、より応用的な形で情報処理方法を学ぶ。PCとインターネットを活用して、看護医療データの収集や整理、Excelによる統計処理方法を含む、データ・情報の解析方法についての演習を行う。							
教育目標	看護分野におけるコンピュータと情報の応用的なスキルを身につける。							
到達目標	①Excelを利用して、医療・看護データを統計処理スキルを身につける。 ②オープンデータの活用ができる。 ③音声ファイル、動画ファイルの編集加工ができる。 ④画像編集ソフト GIMPや医用画像ソフト「Osiris」の簡単な操作ができる。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	Excelの復習		Excelの基本操作の複数					
第2回	Excel応用(1)		アンケート調査、クロス集計表、ピボットテーブル					
第3回	Excel応用(2)		データの種類 度数分布表によるデータのまとめ方(ヒストグラム)					
第4回	Excel応用(3)		平均値と標準偏差によるデータのまとめ方 散布図・相関係数によるデータのまとめ方					
第5回	Excel応用(4)		回帰直線によるデータのまとめ方 確率分布とその数表の作り方					
第6回	Excel応用(5)		リスク比とオッズ比 区間推定によるデータのまとめ方					
第7回	Excel応用(6)		仮説の検定によるデータのまとめ方					
第8回	Excel応用(7)		重回帰分析によるデータのまとめ方					
第9回	Excel応用(8)		演習課題					
第10回	Excel応用(9)		実技テスト(Excel)					
第11回	データの可視化 オープンデータの活用		Gapminderの使い方、Motion Chartの作り方					
第12回	マルチメディア情報処理(1)		音声ファイルの編集・加工 (呼吸音)					
第13回	マルチメディア情報処理(2)		動画ファイルの編集・加工					
第14回	コンピュータグラフィックス		画像ファイルの編集・加工					
第15回	医療情報		DICOM形式医用画像					
教科書	よくわかる統計学 看護医療データ編 第2版 東京図書 ISBN-13: 978-4489021916 石村 貞夫(著), 石村 友二郎(著), 久保田 基夫(著)							
参考書	①医療系のための情報リテラシー ISBN-978-4489022050 東京図書 ②参考資料を配布する。							
成績評価	単位認定 60 点以上				課題(50%)、実技テスト(50%)で評価する。 *定期試験を実施しない。			
授業時間外の学習	上記授業内容については、あらかじめ自己学習しておくことをすすめる。上記配布資料及び教科書の該当箇所を参照し、学習内容に応じた準備学習(予習・復習)を行うこと。学習ポートフォリオの作成については授業時に指示する。							
履修のポイント	①授業時間外での活用が必要である。 ②なるべく多くの例題や演習問題を解いて覚えましょう。							
オフィス・アワー	毎週金曜日 昼休み 研究室: 9号館3F 第12研究室(情報環境研究室) E-mail: mach.dr@gmail.com							

平成27年度 シラバス

科目名	文献検索とクリティーク		担当者	HT マチャコン	学科	看護学科	開講期	後期
区分	学部共通科目	選択	単位	1単位	学年	3学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	科学論文の検索方法について理解し、実践し、実際の論文を例にとり、論文の背景や目的、研究方法、結果、考察などの記述の仕方を学ぶ。さらに論文に対する批評的な読解法についても学習する。							
教育目標	科学論文の検索方法を習得し、研究種類や研究プロセスの基礎を学ぶ。さらに研究論文に対する批評的な読解法を学び、文献クリティークの基礎能力を養う。							
到達目標	① 情報・文献検索ができる。 ② 論文のクリティークを行うことができる。							
授業計画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	オリエンテーション		授業の進め方、文献とは何か					
第2回	情報検索		インターネット情報資源 (サーチエンジンによる情報検索)					
第3回	文献検索 1		看護の情報源ガイド					
第4回	文献検索 2		文献の探し方					
第5回	文献検索 3 (和文編)		国内の電子ジャーナル・データベース 医学中央雑誌Web版、JDreamII、CiNii					
第6回	文献検索 4 (和文編)		国内の電子ジャーナル・データベース メディカルオンライン					
第7回	文献検索 5 (欧文編)		外国の電子ジャーナル・データベース PubMed、Ovid Journals、Cochrane、PEN					
第8回	文献検索 6		実技テスト					
第9回	科学研究のクリティーク		研究の種類、クリティークとは何か					
第10回	グループワーク 1		研究論文のクリティーク 1 国内のジャーナルから原著論文(和文)のクリティーク					
第11回	グループワーク 2		研究論文のクリティーク 2 外国のジャーナルから原著論文(英文)のクリティーク					
第12回	グループワーク 3		研究論文のクリティーク 3					
第13回	グループワーク 4		研究論文のクリティーク 4					
第14回	グループワーク 5		課題のプレゼンテーション・インタビュー					
第15回	グループワーク 6		課題のプレゼンテーション・インタビュー					
教科書	看護研究のための文献検索ガイド 第4版 増補版 (日本看護協会出版会) ISBN-13: 978-4818014985							
参考書	1. インターネットで文献検索、JLA図書館実践シリーズ、日本図書館協会 2. 学術情報文献マニュアル、丸善(株) 3. 参考資料を配布する。							
成績評価	単位認定 60 点以上 課題 (20%)、実技テスト (40%)、プレゼンテーション・インタビュー(40%) で評価する。 *定期試験を実施しない。							
授業時間外の学習	上記授業内容については、あらかじめ自己学習しておくことをすすめる。配布資料及び教科書の該当箇所を参照し、学習内容に応じた準備学習(予習・復習)を行うこと。 学習ポートフォリオの作成については授業時に指示する。							
履修のポイント	①授業時間外での活用が必要である。 ②多くの研究論文を読むことをすすめる。							
オフィス・アワー	毎週金曜日 昼休み 研究室：9号館3F 第12研究室(情報環境研究室) E-mail: mach.dr@gmail.com							

平成27年度 シラバス

科目名	チーム連携論		担当者	加岡 正子 林 圭子 他	学科	看護学科、栄養学科	開講期	後期
区分	専門基礎科目	選択	単位	1単位	学年	3学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	今日の医療ニーズの多様化に対応したより良質なサービスを提供するためには、医療・保健・福祉などの多様な専門職による役割と機能の有機的な連携や協働が必要不可欠である。本授業では、チーム医療の意義を理解し、チームアプローチの実際についてグループ討議を通して学習する（オムニバス方式全15回）。							
教育目標	早期体験合同実習の振り返り、医療・保健・福祉領域の各専門職種との役割、機能、責任についてさらに学習し、より良質なサービス提供を目指すチーム医療実現のための役割と機能について思考する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. チーム医療の背景、あり方、倫理といった基本的な知識を習得し、説明できる。 2. 各専門職に対する理解を深めるとともに、チーム構成員の役割、機能、責任を説明できる。 3. 情報の伝達やコミュニケーションの重要性について、異なる専攻学生とのグループワークの中で実践できる。 4. 効果的で円滑なチーム医療を展開する方法についてグループ発表やレポート報告ができる。 							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	チーム医療とは何か	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークオリエンテーション ・早期体験合同実習を振り返ってのグループワーク 						
第2回	チーム医療とは何か	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク発表 						
第3回	チーム医療とは何か	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム医療の歴史的過程 ・チーム医療の志向性による要素分類とそれらの要素の関係性 ・チーム医療の論理 						
第4回	チーム医療における患者医療者関係	<ul style="list-style-type: none"> ・チームの形態別分類 ・チームの構成員とその役割 ・障害要因と改善に向けてのアプローチ 						
第5回	チーム医療の倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム医療の倫理性 ・チーム構成員のあり方とコミュニケーション ・チームとインフォームドコンセント 						
第6回	1. 小児医療におけるチーム医療	<ul style="list-style-type: none"> ・小児医療に関わる職種とチーム医療の実際 ・療養型小児医療施設におけるチーム 						
第7回	2. 栄養指導とチーム医療	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病療養指導におけるチーム医療 ・褥瘡ケアにおけるチーム医療 						
第8回	3. 高度医療提供とチーム医療	<ul style="list-style-type: none"> ・高度医療提供施設におけるチーム医療 ・高度医療と管理栄養士・看護師の役割拡大 						
第9回	4. パスを用いた連携の取り方	<ul style="list-style-type: none"> ・クリティカルパスを用いたチーム医療、病院と地域連携 						
第10回	5. 在宅・地域におけるチーム医療	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅におけるチーム医療の実際 ・福祉や保健との連携 						
第11回	地域におけるチーム医療の検討(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討グループワーク（オリエンテーション） ・複数の専門領域によるディスカッション 						
第12回	地域におけるチーム医療の検討(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討グループワーク ・複数の専門領域によるディスカッション 						
第13回	地域におけるチーム医療の検討(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討グループワーク ・複数の専門領域によるディスカッション 						
第14回	地域におけるチーム医療の検討(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討グループワーク 発表 ・チームで協働することからの気づき 						
第15回	チーム医療の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・患者中心のチーム医療をめざして ・情報の共有と医療過誤の低減 						
教科書	なし							
参考書	授業の中で各種資料を配布する。							
成績評価	単位認定	60 点以上	授業中の発表状況・グループワークの参加状況(60%)、レポート(40%)。					
授業時間外の学習	グループワークに向けての事前学習と発表にむけての準備が必要である。							
履修のポイント	患者を中心とした良質な医療サービスを提供するためには、チームによる協働は必要不可欠である。							
オフィス・アワー	研究室にいる場合、いつでも。							

平成27年度 シラバス

科目名	早期体験合同実習		担当者	高橋 東生 中山 優子 三木 園生	学科	看護・栄養学科	開講期	前期
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日	
			(時間)	(45時間)			時限	
授業の概要	学習初期の時期に対象者の立場から、医療・保健施設の現場を知り、施設を利用している人々と関わることを通して、対象者について理解を深める。また、自己の専攻する専門職の役割について考えることで、今後の学習の動機づけとし、主体的に学ぶための方法を理解する。看護学科・栄養学科合同実習とすることで、自己理解とともに、専攻の異なる学生間で認識を共有し、チーム連携の重要性を知る機会とする。							
教育目標	対象者の立場から、医療・保健施設の現場を知り、施設を利用している人々と関わることを通して、対象者について理解を深める。自己の専攻する専門職の役割について考え、今後の学習の動機づけとする。また、実習を通して学生間で認識を共有する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の立場から、医療施設のサービスを観察する。 2. 医療施設のサービスを受ける対象者を観察し、その特徴を知る。 3. 看護師および管理栄養士の活動を観察し、その役割を知る。 4. 各専門職の役割を知り、その連携について考える。 5. 今後の学習上の課題を明らかにする。 							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	学内実習	オリエンテーション・事前課題						
第2回	学内実習	グループ別演習						
第3回	臨地実習	対象者の立場から医療施設のサービスを観察する						
第4回	臨地実習	看護師・管理栄養士の活動を知る						
第5回	臨地実習	各専門職の活動を知り、連携について考える						
第6回	学内実習	グループ別演習・実習のまとめ						
第7回								
第8回		* 詳細は早期体験合同実習要項参照						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書								
参考書	鷹野和美編著：チーム医療論、医歯薬出版株式会社							
成績評価	単位認定 60 点以上 実習要項評価表参照							
授業時間外の学習	事前課題を行ない、臨地実習前のグループワークおよび臨地実習に臨む必要があります。さらに、臨地実習では、日々学んだことを記録し、次の日の学習目標を明確化すること、さらにこの授業で学んだことについてレポート作成します。							
履修のポイント	事前学習、グループワーク、臨地実習で構成されています。臨地実習前の事前学習やグループワークが重要です。積極的に各々参加してください。							
オフィス・アワー								

平成27年度 シラバス

科目名	人体の構造と機能 I		担当者	瀬野尾 章	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門基礎科目	必修	単位	2単位	学年	1学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(60時間)			時限	
授業の概要	看護にたずさわるには、各種疾患の病態を正しく把握するための非常に多くの知識が必要です。そのなかで、正常の体の構造や機能を知ることでも大変重要です。骨格、筋肉、各種の臓器、血管系や神経系、さらに感覚器や内分泌腺などが、体のどこに存在し、どのような形をし、それらがどのように統合されているかを知らなければなりません。この様な体の構造に加え、看護では生きた人体を扱わなければならないので、たえず働いている各種の臓器・組織の機能も知る必要があります。例えば血管の中は絶えず血液が流れ、神経も絶えず情報を送っており、さらに目に見えないホルモンなどにより、体の機能が微妙にかつ精巧に調節されています。その結果として生命や健康を維持するうえで重要な体の内部環境が最も好適な条件に保たれています。このように「人体の構造・機能」は人体についての知識の基礎をなすものであり、病気の理解にも看護の実際にも基礎となる学問です。							
教育目標	人体を支える基本システムである、骨格系、筋肉系を理解させ、また細胞の基本構造と機能を、そして栄養素の消化と吸収課程を理解させる							
到達目標	人間の日常的活動において、体の中で絶え間なく行われている物質代謝が、具体的にどの臓器組織でどの様に行われているかを理解し、その理解に基づいて人間の日常活動を説明できる。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	人体の構造・機能の概説	学問の対象、学習方法、解剖学と生理学の歴史						
第2回	細胞組織の基礎－1	細胞・組織の構造と機能						
第3回	細胞組織の基礎－2	染色体とゲノム、核酸とタンパク質合成						
第4回	細胞組織の基礎－3	人体の方向、位置を示す用語、人体の区分						
第5回	細胞組織の基礎－4	体液とホメオスタシス						
第6回	体の支持と運動－1	骨格、骨の連結、骨格筋						
第7回	体の支持と運動－2	体幹の骨格と筋肉						
第8回	体の支持と運動－3	上肢と下肢の骨格と筋肉						
第9回	体の支持と運動－4	頭頸部の骨格と筋肉						
第10回	体の支持と運動－5	筋収縮の分子機構						
第11回	栄養の消化と吸収－1	口、咽頭、食道の構造と機能						
第12回	栄養の消化と吸収－2	腹部消化管の構造と機能						
第13回	栄養の消化と吸収－3	肝臓の構造と機能						
第14回	栄養の消化と吸収－4	膵臓、胆嚢の構造と機能						
第15回	前期のまとめと復習	上記の内容すべて						
教科書	人体の構造と機能（1）解剖生理学 坂井建雄・岡田隆夫編集 医学書院							
参考書	1）カラー人体解剖学 井上貴央監訳 西村書店 2）カラー基本生理学 坂東武彦、小山省三監訳 西村書店							
成績評価	単位認定 60点以上 授業時間中に看護師国家試験と同一形式の多岐選択問題などの試験を数回行い、合計平均点が60点以上を単位認定とする。但し、試験問題の難易度により、平均点や標準偏差値を考慮して評価する。							
授業時間外の学習	授業時間だけで、理解するのは難しいので、予習復習が大切です。特に、毎回授業の内容を理解できるまで復習することで、次の授業内容のスムーズな理解につながります。							
履修のポイント	自分で教科書を読むだけでは、なかなか正しい理解が得られないので、毎回授業に出席することが大切です。また、復習はきちんとしてみましょう。							
オフィス・アワー	随時可能。研究室にて対応します。							

平成27年度 シラバス

科目名	人体の構造と機能Ⅱ		担当者	瀬野尾 章	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	看護にたずさわるには、各種疾患の病態を正しく把握するための非常に多くの知識が必要です。そのなかで、正常の体の構造や機能を知ることでも大変重要です。骨格、筋肉、各種の臓器、血管系や神経系、さらに感覚器や内分泌腺などが、体のどこに存在し、どのような形をし、それらがどのように統合されているかを知らなければなりません。この様な体の構造に加え、看護では生きた人体を扱わなければならないので、たえず働いている各種の臓器・組織の機能も知る必要があります。例えば血管の中は絶えず血液が流れ、神経も絶えず情報を送っており、さらに目に見えないホルモンなどにより、体の機能が微妙にかつ精巧に調節されています。その結果として生命や健康を維持するうえで重要な体の内部環境が最も好適な条件に保たれています。このように「人体の構造・機能」は人体についての知識の基礎をなすものであり、病気の理解にも看護の実際にも基礎となる学問です。							
教育目標	呼吸と血液循環、体液の性状と尿生成、ホルモンの種類とその機能などを理解させる							
到達目標	人間の日常的活動において、体の中で絶え間なく行われている物質代謝が、具体的にどの臓器組織でどの様に行われているかを理解し、その理解に基づいて人間の日常活動を説明できる。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	呼吸と血液の循環－1	呼吸器の基本構造						
第2回	呼吸と血液の循環－2	呼吸気量、ガス交換、呼吸運動調節、呼吸器						
第3回	呼吸と血液の循環－3	心臓の構造						
第4回	呼吸と血液の循環－4	心臓の拍出機能、心電図、血圧、心周期						
第5回	呼吸と血液の循環－5	末梢循環器系の構造						
第6回	呼吸と血液の循環－6	血液の循環とその調節						
第7回	呼吸と血液の循環－7	血液、リンパ液、血液凝固と線溶系、血液型						
第8回	体液の調節と尿の生成－1	腎臓の構造、尿生成のメカニズム						
第9回	体液の調節と尿の生成－2	尿の貯蔵と排尿						
第10回	体液の調節と尿の生成－3	体液の調節、酸塩基平衡、電解質異常						
第11回	内臓機能の調節－1	自律神経と内分泌系による調節						
第12回	内臓機能の調節－2	内分泌腺とホルモン						
第13回	内臓機能の調節－3	ホルモンの分泌調節						
第14回	内臓機能の調節－4	ホルモンによる調節の実際						
第15回	前期のまとめと復習	上記の内容すべて						
教科書	人体の構造と機能（1）解剖生理学 坂井建雄・岡田隆夫編集 医学書院							
参考書	1）カラー人体解剖学 井上貴央監訳 西村書店 2）カラー基本生理学 坂東武彦、小山省三監訳 西村書店							
成績評価	単位認定 60点以上 授業時間中に看護師国家試験と同一形式の多岐選択問題などの試験を数回行い、合計平均点が60点以上を単位認定とする。但し、試験問題の難易度により、平均点や標準偏差値を考慮して評価する。							
授業時間外の学習	授業時間だけで、理解するのは難しいので、予習復習が大切です。特に、毎回授業の内容を理解できるまで復習することで、次の授業内容のスムーズな理解につながります。							
履修のポイント	自分で教科書を読むだけでは、なかなか正しい理解が得られないので、毎回授業に出席することが大切です。また、復習はきちんとしましょう。							
オフィス・アワー	随時可能。研究室にて対応します。							

平成27年度 シラバス

科目名	人体の構造と機能Ⅲ		担当者	瀬野尾 章	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	看護にたずさわるには、各種疾患の病態を正しく把握するための非常に多くの知識が必要です。そのなかで、正常の体の構造や機能を知ることでも大変重要です。骨格、筋肉、各種の臓器、血管系や神経系、さらに感覚器や内分泌腺などが、体のどこに存在し、どのような形をし、それらがどのように統合されているかを知らなければなりません。このような体の構造に加え、看護では生きた人体を扱わなければならないので、たえず働いている各種の臓器・組織の機能も知る必要があります。例えば血管の中は絶えず血液が流れ、神経も絶えず情報を送っており、さらに目に見えないホルモンなどにより、体の機能が微妙にかつ精巧に調節されています。その結果として生命や健康を維持するうえで重要な体の内部環境が最も好適な条件に保たれています。このように「人体の構造・機能」は人体についての知識の基礎をなすものであり、病気の理解にも看護の実際にも基礎となる学問です。							
教育目標	神経系の構造と機能、感覚器の構造と機能、男女の生殖器と発生の機序を理解させる							
到達目標	人間の日常的活動において、体の中で絶え間なく行われている物質代謝が、具体的にどの臓器組織でどのように行われているかを理解し、その理解に基づいて人間の日常活動を説明できる。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1回	前期の復習－1		消化器、呼吸器、循環器					
第2回	前期の復習－1		血液、腎・泌尿器、運動器、内分泌					
第3回	情報の受容と処理－1		脳の構造と機能—脳幹、間脳、小脳					
第4回	情報の受容と処理－2		脳の構造と機能—大脳、脳室と髄膜、髄液循環					
第5回	情報の受容と処理－3		脊髄の構造と機能、脊髄神経と脳神経					
第6回	情報の受容と処理－4		脳の高次機能					
第7回	情報の受容と処理－5		上行性伝導路、下行性伝導路					
第8回	感覚器の構造と機能－1		眼の構造と機能					
第9回	感覚器の構造と機能－2		耳の構造と機能、味覚、嗅覚、痛覚					
第10回	外部環境からの防御－1		皮膚の構造と機能					
第11回	外部環境からの防御－2		生体の防御機構					
第12回	生殖、発生の仕組み－1		男性生殖器					
第13回	生殖、発生の仕組み－2		女性生殖器					
第14回	生殖、発生の仕組み－3		受精、胎児発生、成長と老化					
第15回	前期、後期のまとめと復習		前期後期の授業内容のすべて、特に重要事項について					
教科書	人体の構造と機能（1）解剖生理学 坂井建雄・岡田隆夫編集 医学書院							
参考書	1）カラー人体解剖学 井上貴央監訳 西村書店 2）カラー基本生理学 坂東武彦、小山省三監訳 西村書店							
成績評価	単位認定 60点以上 授業時間中に看護師国家試験と同一形式の多岐選択問題などの試験を数回行い、合計平均点が60点以上を単位認定とする。但し、試験問題の難易度により、平均点や標準偏差値を考慮して評価する。							
授業時間外の学習	授業時間だけで、理解するのは難しいので、予習復習が大切です。特に、毎回授業の内容を理解できるまで復習することで、次の授業内容のスムーズな理解につながります。							
履修のポイント	自分で教科書を読むだけでは、なかなか正しい理解が得られないので、毎回授業に出席することが大切です。また、復習はきちんとしましょう。							
オフィス・アワー	随時可能。研究室にて対応します。							

平成27年度 シラバス

科目名	人体の生化学		担当者	榮 昭博	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	生体を構成する成分・分子理解するために、糖、脂質、タンパク質についてその化学を学びさらに消化吸収・代謝・排泄を学ぶ。また、代謝などを調節する内分泌や遺伝子とその働きも学ぶ。							
教育目標	人体の構造と機能、特に各栄養素の働きを生化学的に理解することを目的としている。							
到達目標	生体を構成する分子の構造・機能を理解する。また、各分子の代謝を理解する。さらに遺伝子・遺伝情報発現に関することを理解する。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	生化学の概要		化学の基礎と生化学を概説する。また、国家試験における生化学の概要についても解説する					
第2回	糖質の構造と性質		糖の化学、単糖・少糖・多糖の種類、特にグルコースの構造を理解し、糖の化学的性質との関連をみる。					
第3回	脂質の構造と性質		脂質の分類と定義、脂肪、複合脂質、ステロイドについて学ぶ。					
第4回	脂質の構造と性質（2）		コレステロール・リポタンパク質について学ぶ。					
第5回	蛋白質の構造と性質		アミノ酸およびペプチドの構造と性質について学ぶ。					
第6回	核酸		塩基、ヌクレオシドとヌクレオチド、DNAとRNAの構造と機能について学ぶ。					
第7回	水とミネラル		水の機能と役割、ミネラルの機能について学ぶ。					
第8回	ビタミン（1）		脂溶性ビタミンを中心にその種類と生理作用について学ぶ。					
第9回	ビタミン（2）		主に水溶性ビタミンの種類と生理作用について学ぶ。					
第10回	ホルモンと生理活性物質Ⅰ		ホルモンの定義、ホルモンの種類、作用を学ぶ。					
第11回	ホルモンと生理活性物質Ⅱ		7回に続きホルモンを学び、サイトカインについても学ぶ。また、内分泌疾患の一部を学ぶ。					
第12回	糖代謝		グリコーゲンおよびグルコース代謝（解糖・TCAサイクル）などについて学ぶ。					
第13回	脂質代謝		脂質の消化吸収、脂肪酸・脂質の生体内の動向および代謝について学ぶ。					
第14回	蛋白質代謝		蛋白質の消化吸収・アミノ酸の代謝について学ぶ。					
第15回	遺伝情報とその発現		遺伝子による複製・転写・翻訳および蛋白質合成について学ぶ。					
教科書	『系統看護学講座 専門基礎2 人体の構造と機能[2] 生化学』医学書院							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 定期試験 100%							
授業時間外の学習	事前の学習と授業終了後に、講義ノートを作成すること。両方併せて週4時間以上学習すること							
履修のポイント	化学の知識を必要とするので化学(特に有機化学)を復習しておくことが望ましい。							
オフィス・アワー	授業開講日の12:30~13:20に11号館3階第14研究室で行う。ただし、この時間帯以外でも講義・会議・出張等の校務がない場合行うことができることがある。							

平成27年度 シラバス

科目名	生命倫理		担当者	村上 隆夫	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	生命倫理学を倫理学の一分野として位置づけて、その成立から今日までの発展をその研究分野全般にわたって説明する。							
教育目標	生命倫理学の研究分野全般にわたる概括的知識の習得を目的とする。							
到達目標	生命倫理学についての知見を看護実践において活用できるようにすること。そのための資格試験に備えられることを到達目標とする。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	生命倫理学への導入	伝統的な倫理学からの生命倫理学の形成について説明する。						
第2回	死生観の歴史的变化	死生観の歴史的な変化を未開社会からキリスト教の成立まで辿る。						
第3回	近代哲学における生命と身体	近代医学の成立をその生命観と身体観について説明する。						
第4回	死と葬送の歴史的变化	西欧における葬送儀礼の変化を古代から臨床医学の成立まで辿る。						
第5回	身体所有と身体加工	身体を所有する主体としての人格の形成と身体の加工技術の発展について説明する。						
第6回	脳死と臓器移植	脳死問題と臓器移植問題についての倫理的議論について説明する。						
第7回	インフォームド・コンセント	医療におけるインフォームド・コンセントに関する倫理的議論について説明する。						
第8回	妊娠中絶	妊娠中絶問題および胚と胎児の取り扱いに関する倫理的議論について説明する。						
第9回	安楽死と尊厳死	終末期医療と延命処置の限界に関する倫理的議論について説明する。						
第10回	生殖技術	人工受精を含む生殖技術に関する倫理的議論について説明する。						
第11回	医療専門家と患者	医師・看護師など医療専門家と患者との関係に関する倫理的議論について説明する。						
第12回	医療行為と正義	医療資源の分配にあたっての正義の原理に関する倫理的議論について説明する。						
第13回	自然との関係および動物との関係	環境倫理学・動物倫理学と生命倫理学との関係について説明する。						
第14回	総括と展望	西洋哲学における集団的な見方と個人的な見方について生命倫理的に説明する。						
第15回	補足と討論	これまでの講義について補論を行い、さらに討論の時間を設ける。						
教科書	使用しない。講義の際にレジュメを配布する。							
参考書	講義のなかで適宜指示する。							
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験100%評価とする。							
授業時間外の学習	授業後に1時間程度の資料検索を行うことが望ましい。							
履修のポイント	レジュメについてさらにノートを用いて補足してまとめることが必要である。							
オフィス・アワー								

平成27年度 シラバス

科目名	疾病の成り立ち		担当者	瀬野尾 章	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日	
			(時間)	(30時間)		時限		
授業の概要	疾病の成り立ち（病理学Pathology）とは病気の本質について研究する医学の一分野であり、病気の過程、つまり病気の原因、発生の仕組み、経過、転帰といった一連の過程を調べる事により、病気の本態を研究する学問である。したがって、病理学は解剖学、細胞生物学、生理学、生化学などの基礎の上に存在し、他方では臨床医学と密接な関係を持っている。この意味で病理学は医学の一分野と言うより、総合医学とみなすべきであり、臨床医学における診断や治療のみならず看護学の実践も病理学を基礎として行われている。つまり、皆さんが今後、看護学を学ぶ上で大変重要であり、基礎となる学問です。							
教育目標	先天性異常、細胞障害と組織修復、循環障害、炎症、感染症、免疫異常、腫瘍の発生病因と経過を理解させること							
到達目標	病気の過程、つまり病気の原因、発生の仕組み、経過、転帰と言った一連の病気の過程を病理総論的に理解し、看護の実践に必要な基礎知識として理解する							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	病理学の概要		病理学の歴史、病理学の概要					
第2回	細胞、組織の障害－1		細胞障害、壊死、アポトーシス、萎縮					
第3回	細胞、組織の障害－2		再生、化生、肉芽組織、肥大と過形成					
第4回	循環障害－1		うっ血、充血、側副循環、血栓、					
第5回	循環障害－1		塞栓症、梗塞、リンパ循環障害					
第6回	炎症－1		炎症の定義、4徴候と組織変化					
第7回	炎症－1		急性炎症と慢性炎症、特殊性炎症					
第8回	炎症－1		化膿性炎症、蓄膿症、フレグモーネ					
第9回	免疫異常－1		免疫不全症、AIDS、過敏症					
第10回	免疫異常－1		自己免疫疾患（SLE、多発性筋炎、など）					
第11回	腫瘍－1		腫瘍の定義、腫瘍の疫学					
第12回	腫瘍－1		上皮性、非上皮性の良性腫瘍と悪性腫瘍					
第13回	腫瘍－1		腫瘍の原因、腫瘍増殖・再発・転移					
第14回	腫瘍－1		腫瘍のstage、治療					
第15回	まとめと復習		各種疾患の成り立ちを生理、復習する					
教科書	系統看護学講座、病理学、疾病の成り立ちと回復の促進Ⅰ。医学書院							
参考書	レビューブック、岡庭 豊編集、メディクメディア発行							
成績評価	単位認定 60点以上 期末試験として、看護師国家試験と同一形式の多岐選択問題などの試験を数回行い、合計平均点が60点以上を単位認定とする。但し、試験問題の難易度により、平均点や標準偏差値を考慮して評価する。							
授業時間外の学習	授業時間だけで、理解するのは難しいので、予習復習が大切です。特に、毎回授業の内容を理解できるまで復習することで、次の授業内容のスムーズな理解につながります。							
履修のポイント	自分で教科書を読むだけでは、なかなか正しい理解が得られないので、毎回授業に出席することが大切です。また、復習はきちんとしましょう。							
オフィス・アワー	随時可能。研究室にて対応します。							

平成27年度 シラバス

科目名	感染と防御		担当者	瀬野尾 章	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	微生物としての最近、真菌、原虫、ウイルスなどについて、その一般的性状と、各種微生物によって引き起こされる代表的な感染症について分りやすく講義する。また、感染防御の基礎となる免疫機構についても概説するとともに、感染予防のための滅菌、消毒、予防接種や、感染症治療のための化学療法剤などについても概要を講義する。							
教育目標	病原微生物の種類と特徴、感染症とはどのようなものか、感染症予防などの事項を礎的知識として理解させる							
到達目標	病原微生物の種類と特徴、感染症とはどのようなものかを理解し、実際の看護に役立つ感染症予防方法についての知識を深める							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1回	微生物と人間		微生物とはなにか、微生物の発見と歩み、細菌の形態と構造					
第2回	細菌、真菌の性質		細菌の増殖、遺伝、病原性、真菌の形態と構造					
第3回	原虫、ウイルスの性質		原虫の特徴と基本構造、ウイルスの特徴、構造、分類、増殖					
第4回	感染症とは		感染症の概念、感染のメカニズム、感染の予防					
第5回	感染の予防、診断、治療		消毒と滅菌、病原体の検出、化学療法、薬剤耐性					
第6回	免疫－1		免疫とは、免疫に関与する細胞と組織、細胞性免疫と液性免疫					
第7回	免疫－2		抗体の構造と機能、抗体産生、補体					
第8回	免疫－3		抗原抗体反応、T細胞の分化と成熟、抗原認識					
第9回	免疫－4		サイトカイン、アレルギー、MHCと移植					
第10回	細菌感染症－1		グラム陽性球菌、グラム陰性桿菌と球菌					
第11回	細菌感染症－2		グラム陽性桿菌、らせん菌、抗酸菌、嫌気性菌					
第12回	リケッチア、クラミジア、真菌原虫感染症		マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、真菌原虫感染症					
第13回	ウイルス感染症－1		DNAウイルス（アデノウイルス、ヘルペスウイルス他）					
第14回	ウイルス感染症－2		RNAウイルス（インフルエンザウイルス他）					
第15回	ウイルス感染症－3		レトロウイルス、肝炎ウイルス、腫瘍ウイルス					
教科書	微生物学、牛島廣治・西條政幸編集、医学芸術社、ISBN987-4-87054-317-1							
参考書	レビューブック、岡庭 豊編集、メディクメディア発行							
成績評価	単位認定 60点以上 授業時間外の学習がスムーズに行えるように、各項目が終了した時点で具体的な練習問題を配り、その成果を中間試験として確認する。							
授業時間外の学習	授業時間外の学習がスムーズに行えるように、各項目が終了した時点で具体的な練習問題を配り、その成果を中間試験として確認する。							
履修のポイント	自分で教科書を読むだけでは、なかなか正しい理解が得られないので、毎回授業に出席することが大切です。 また、復習はきちんとしてみましょう。							
オフィス・アワー	随時可能。研究室（看護棟2階）にて対応します。							

平成27年度 シラバス

科目名	臨床検査		担当者	立崎國男	学科	看護学科	開講期	後期	
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日		
			(時間)	(30時間)			時限		
授業の概要	<p>病気に悩む人々やその他の人々の健康を増進するには、医療専門職が共通の知識を持って議論することが重要である。医療現場で臨床討論（カンファレンス）が行われ、医療専門職が話し合っ患者個々に最適の医療を行う計画が立てられる。こうした討論をスムーズに行うには医療専門職すべてが共通の言語を使って患者の治療方針、治療効果、ケアプラン策定などについて話し合わなくてはならない。その共通言語の一つが臨床検査である。講義では臨床検査の基礎を学ぶことを目的とする。</p>								
教育目標	看護師を旨ざして勉学に励む看護学生に臨床検査の基礎を学習することを目的とする。								
到達目標									
授業計画									
回	主題	授業内容					備考		
第1回	「臨床検査の基礎」①	臨床検査の役割・種類・目的について							
第2回	「臨床検査の基礎」②	臨床検査の評価・変動・測定誤差							
第3回	臨床検査の流れと看護師の役割①	検査の流れ・準備・説明と注意							
第4回	臨床検査の流れと看護師の役割②	検体の採取法・保存・移送法・危険とその防止・簡易迅速検査の実施・介助・検査結果の取り扱い							
第5回	「各論」一般検査	尿検査・便検査・体内貯留液・髄液・間接液他							
第6回	血液検査①	血液検査・出血凝固・溶血性貧血の検査・骨髓検査							
第7回	血液検査②	血液一般検査の概要について (各血球成分・白血球分類・凝固因子について)							
第8回	臨床化学検査①	血清酵素の検査・糖代謝の検査・脂質代謝の検査・胆汁排泄関連物質の検査・窒素化合物の検査							
第9回	臨床化学検査②	骨代謝関連物質の検査・腎機能の検査・水電解質の検査・血液ガス分析・鉄代謝関連物質・銅代謝関連物質検査・ビタミンの検査・血中薬物濃度の検査							
第10回	免疫・血清検査①	炎症マーカー・液性免疫・細胞性免疫・自己抗体・アレルギー検査							
第11回	免疫・血清検査②	免疫学的妊娠反応・腫瘍マーカー・輸血							
第12回	内分泌学的検査	下垂体前葉ホルモン・下垂体後葉ホルモン・甲状腺ホルモン							
第13回	微生物検査	感染症の診断と検査・各種病原体と検査							
第14回	病理検査・生体検査	生理検査・画像検査・細胞診・病理組織検査・剖検診断							
第15回	臨床検査総括・試験	総括・試験							
教科書									
参考書									
成績評価	単位認定 60 点以上								
授業時間外の学習									
履修のポイント									
オフィス・アワー									

平成27年度 シラバス

科目名	栄養学		担当者	竹下 登紀子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門基礎科目	必修	単位	2単位	学年	3学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	身体の成長発達や生命維持に必要な各種栄養素の代謝、生体へのエネルギー源としての栄養と生体機能との関連について学ぶ。また適切な食生活や栄養状態の判定法、各種の栄養素を供給する食品の知識について習得する。							
教育目標	栄養学の演習を通して栄養学の知識を習得する。							
到達目標	栄養学の知識を習得し、食と健康の関連を理解する。 対象者に適した食生活支援について理解する。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	栄養学の基礎知識	オリエンテーション 栄養学について						
第2回	健康と栄養	わが国の健康・栄養問題について						
第3回	日常生活と栄養①	食生活指針、運動指針について						
第4回	日常生活と栄養②	食事バランスガイドについて						
第5回	栄養指導・保健指導①	食生活、栄養状態の評価方法について						
第6回	栄養指導・保健指導②	栄養指導・保健指導について						
第7回	食物と栄養①	食品の種類と栄養素について						
第8回	食物と栄養②	消化と吸収について						
第9回	食物と栄養②	食事摂取基準2015年度版について						
第10回	ライフステージと健康①	妊娠期・授乳期の疾病と栄養について						
第11回	ライフステージと健康②	成長期の疾病と栄養について						
第12回	ライフステージと健康③	成人期の栄養について						
第13回	ライフステージと健康④	高齢期の栄養について						
第14回	疾患と食事①	疾患別に食事の特徴について学ぶ						
第15回	疾患と食事②	疾患別に食事の特徴について学ぶ						
教科書	プリント							
参考書	日本人の食事摂取基準 [2015年版] : 第一出版, 食品成分表2010, 国民健康・栄養調査報告 他							
成績評価	単位認定 60 点以上							
授業時間外の学習	予習・復習をすること							
履修のポイント	授業に連続性があります。また、修得度に合わせた内容変更もあるので欠席はしないこと							
オフィス・アワー	担当教員の研究室前に掲示							

平成27年度 シラバス

科目名	食品学		担当者	荒井 勝己	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門基礎科目	選択	単位	1単位	学年	2学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	食品に含まれる個々の成分の特徴を把握しておくことは、食品自体を理解するためだけではなく、栄養学的あるいは生理学的な視点から食生活を考えていくためにもたいへん重要である。本講義では看護学科の学生（養護教諭資格取得を目指している学生）にとって知っておく必要のある基礎的な知識や最新の食に関わるニュースをわかりやすく解説していく。							
教育目標	看護師として必要な“食品”や“栄養”に関する基礎知識を理解・習得することを目的とする。							
到達目標	“食品とは何か”を理解するために、食品に含まれている主要成分のそれぞれの科学的な特徴を理解し、食品成分に関する知識を習得する。食品の機能性や食品表示や規格、食品加工・貯蔵技術などについて理解する。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	食品の種類と分類	食品とは、食品の特性、食品の分類など						
第2回	食品の成分Ⅰ 水分・炭水化物	水分（食品中の水の状態、水分活性など） 炭水化物（単糖類、二糖類、多糖類、食物繊維など）						
第3回	食品の成分Ⅱ 脂質	脂質（脂肪酸、リン脂質、コレステロール、油脂の化学的性質など）						
第4回	食品の成分Ⅲ たんぱく質	たんぱく質（アミノ酸・たんぱく質の構造・種類・働きなど）						
第5回	食品の成分Ⅳ ビタミン・ミネラル	ビタミン（ビタミンの分類と働きについて） ミネラル（ミネラルの種類および生理作用について）						
第6回	食品の機能性	食品の機能、栄養強調表示と健康強調表示、保健機能食品、特別用途食品、「いわゆる健康食品」の概略						
第7回	食品の表示と規格	国内規格、国際規格、品質規格制度の歴史、期限表示、成分表示など						
第8回	食品加工と栄養	食品加工の意義・目的など						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	未定（単元毎にプリントを配布します）							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上							
授業時間外の学習	単元毎に復習問題を配付するので、解いて理解を深めること。							
履修のポイント	教科書の内容以外の事柄についても取り入れていくので、授業には積極的に参加すること。							
オフィス・アワー	授業内容等についての質問については、授業終了後、または11号館3F研究室13で随時受け付ける。							

平成27年度 シラバス

科目名	臨床薬理学		担当者	影山晴秋	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	疾患の治療において薬は重要な位置を占めている。薬は疾患の原因を取り除くために使用されるので、疾患の原因を理解しながら、薬理作用と病気の原因について、基礎知識を習得する。							
教育目標	薬物治療を行うために、必要な臨床薬理学の基礎知識を習得し、臨地実習や将来臨床の現場で役立つようにする。							
到達目標	疾患に対する代表的な薬物の薬品名、その薬理作用および副作用等を理解し、処方された薬から疾患を推測できるようにする。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	医薬品の総論	医薬品の総論（定義、エラーの予防）						
第2回	薬の作用・自律神経	医薬品の作用機序、自律神経						
第3回	抗炎症薬	アレルギーと炎症時に使用する医薬品						
第4回	血液・輸液	貧血、輸血と輸液に使う医薬品						
第5回	循環器疾患で使用する医薬品	降圧剤、狭心症・心筋梗塞心不全に使用する医薬品、利尿薬など						
第6回	呼吸器疾患で使用する医薬品	気管支喘息など						
第7回	消化器疾患で使用する医薬品 1	消化性潰瘍治療薬、健胃薬、制吐薬、瀉下薬						
第8回	消化器疾患で使用する医薬品 2	止瀉薬、肝疾患、その他の消化器疾患に対する医薬品						
第9回	内分泌・代謝疾患で使用する医薬品 1	糖尿病、痛風、脂質異常症						
第10回	内分泌・代謝疾患で使用する医薬品 2	ホルモン薬						
第11回	中枢神経系の異常に対して使用する医薬品 1	パーキンソン病に対する医薬品、抗不安薬、睡眠薬						
第12回	中枢神経系の異常に対して使用する医薬品 2	向精神薬、抗うつ薬、抗てんかん薬、麻酔						
第13回	抗菌薬	抗生物質、抗ウイルス薬など						
第14回	抗がん薬	様々な抗がん薬						
第15回	特殊な薬	解毒薬、消毒薬						
教科書	イラストで学ぶ薬理学（医学書院）							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 期末試験（100%）で評価します。							
授業時間外の学習	講義ノートを自身で作りながら、復習しましょう。また医薬品の作用を理解するためには生理学を基本としますので、あわせて復習して下さい。							
履修のポイント	教科書を使って、生理学と医薬品の薬理作用を中心に講義していきます。だいたい教科書15ページくらいの速さで講義します。							
オフィス・アワー	月曜日から木曜日までの9:00-17:00 11号館3階第10研究室にて対応します。							

平成27年度 シラバス

科目名	臨床心理学		担当者	亀岡聖朗	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門基礎科目	必修	単位	2単位	学年	2学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	臨床心理学は心理学で蓄積された理論や技法を用いた応用的・実践的な学問領域である。人のこころの安定をはかるための臨床心理援助活動の実際について理解を深めることが求められるが、その基本はこころの疾患の特徴を理解し、その理解のもとに患者を見る視点を養うことにある。本講義では、こころの疾患に関すること、発達上の障がいに関すること、心理アセスメントの実際、カウンセリングの理論、という4つのテーマに沿って、臨床心理学に関連する内容を取り上げる。授業は講義形式だが、テーマによってVTR視聴や実習を取り入れることもある。							
教育目標	心理臨床の現場で用いられる考え方や技法は、看護の場面でも応用可能なものがある。一方で、通常心理臨床で用いられる相手に対するアプローチが、看護場面では適用しにくいこともある。心理臨床の基本的な考え方や技法の学習を通して、それらが看護場面でどのように生かすことができるのかについての視点を獲得する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理的な疾患の種類、特徴について理解する。 2. 臨床心理学で用いられる専門用語について理解する。 3. こころの疾患、疾患を抱える患者・家族の状態を理解する視点を養う。 4. 対人場面におけるコミュニケーションの特徴について理解する。 							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	ガイダンス 臨床心理学で取り扱う問題	授業の進め方、成績評価のしかたなどについて 臨床心理学、心理臨床学、カウンセリング、心理療法など類似する概念の整理 臨床心理学の起こり 日本の臨床心理学						
第2回	こころの疾患の理解①	こころの疾患を概観する① ～こころの疾患の基本的な見方・考え方 病因論と症候論					1年次「心理学」 “臨床の心理学”参照	
第3回	こころの疾患の理解②	こころの疾患を概観する② ～精神病圏に属するもの（統合失調症と気分障がい、その特徴と対処）					1年次「心理学」 “臨床の心理学”参照	
第4回	こころの疾患の理解③	こころの疾患を概観する③ ～神経症圏に属するもの（不安障がい、その特徴と対処）					1年次「心理学」 “臨床の心理学”参照	
第5回	こころの疾患の理解④	こころの疾患を概観する④ ～境界例圏に属するもの（パーソナリティ障がい、その特徴と対処）					1年次「心理学」 “個人差の心理学”参照 ※小テスト実施	
第6回	発達上の障がいの理解①	発達障がいの基本的な理解① ～自閉症スペクトラム障がいを中心にして						
第7回	発達上の障がいの理解②	発達障がいの基本的な理解② ～注意欠如・多動性障がい、学習障がい						
第8回	発達上の障がいの理解③	その他の発達上の障がいの基本的な理解① 摂食障がい、その特徴と対処 依存症（アルコール、薬物等）や虐待、その特徴と対処					※小テスト実施	
第9回	心理アセスメントの実際①	病院で心理アセスメントが生じる場合、精神的な疾患による「入院」の取り扱い						
第10回	心理アセスメントの実際②	心理検査の種類、心理検査の実践					1年次「心理学」 “個人差の心理学”参照 ※実習を含む予定	
第11回	心理アセスメントの実際③	心理検査を解釈する際の背景理論（発達、パーソナリティ）					1年次「心理学」 “発達の心理学” “個人差の心理学” 1年次「人間発達学」参照	
第12回	カウンセリングの理論①	カウンセリングの起こりと心理療法の起こり（カウンセリングと心理療法の相違）、看護場面でのカウンセリングの実際（その過程と心構え）					1年次「心理学」 “臨床の心理学”参照 ※実習を含む予定	
第13回	カウンセリングの理論②	催眠と精神分析療法					1年次「心理学」 “臨床の心理学”参照	
第14回	カウンセリングの理論③	来談者中心療法					1年次「心理学」 “臨床の心理学”参照	
第15回	カウンセリングの理論④ まとめ	認知行動療法					1年次「心理学」 “臨床の心理学”参照	
教科書	特に指定しない。							
参考書	適宜紹介する。							
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験70%、小テスト（レポート・課題を含める）30%							
授業時間外の学習	各回の主題に該当する1年次科目の「心理学」や「人間発達学」の講義資料の見直しを予習として勧める。本講義の配布資料・ノートのまとめと小テストの見直しを復習として勧める。							
履修のポイント	授業への積極的な取り組みを期待します。							
オフィス・アワー	毎週水曜もしくは木曜の昼休み（12：30～13：20）、11号館第8研究室。 あるいは、講義終了前後などに、適宜受け付けます。							

平成27年度 シラバス

科目名	ヘルスカウンセリング		担当者	齊藤敦子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門基礎科目	選択	単位	1単位 (30時間)	学年	4学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)				時限	
授業の概要	健康に関する悩みや問題を抱えている人の心理について理解を深めるとともに、カウンセリングの基本的な理論と技法を学び、実際に援助を必要としている人に対して健康増進を目的とした援助に関われるように学習する							
教育目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の概念について理解を深め、健康上の問題に直面している患者の心理状態を理解する 2. 患者の健康上の問題に関する原因や治療方針を理解し、カウンセリングの理論に基づいて援助の方法を学習する 3. 一般的に患者が直面している心理状況を理解し、関わり方について理解する 							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の成長発達段階を理解した上で、個人的な背景に基づいた健康の定義を考えることができる 2. 病気に直面している人の身体的・心理的・社会的な問題を総合的に理解し説明できる 3. 患者の抱えている問題の改善を目指し、カウンセリング理論や技法を活用できる 4. 疾患について適切な援助方法を選択し、健康増進・疾病予防などの具体的な関わり方を考察することができる 							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	成長発達段階と健康観	人間の成長発達段階と健康のあり方						
第2回	ヘルスカウンセリングとは	カウンセリングの役割：健康教育に伴う健康の増進及び予防						
第3回	人の心理とそれに伴う問題点	不適応状態によって生じるさまざまな身体的・心理的な問題						
第4回	心理的な危機状態とその行動	危機状態に直面した際の心理的变化とそれに伴う行動						
第5回	マイクロスキル・モデル	マイクロスキル・モデルの紹介とその実際						
第6回	カウンセラーに求められる資質	自己成長及び自己管理、倫理に関する原則など						
第7回	カウンセリングの基本的技法	傾聴・要約技法・質問技法など						
第8回	カウンセリング理論 (1)	クライアント中心療法						
第9回	カウンセリング理論 (2)	行動療法						
第10回	疾患に基づく患者の事例研究	疾患における症状・診断基準及び治療など						
第11回	事例に関してグループディスカッション	各疾患についての援助方法について						
第12回	カウンセリングの基本的技法 演習 (1)	ロールプレイ					テスト (1～11回)	
第13回	カウンセリングの基本的技法 演習 (2)	ロールプレイ						
第14回	カウンセリングの基本的技法 演習 (3)	ロールプレイ						
第15回	疾患に基づいた援助計画	健康促進及び健康教育・予防に関するアプローチプラン					課題レポート提出	
教科書	クラス内において必要な資料を配付							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 テスト20点、ロールプレイ各15点×3 =45点、課題レポート35点 定は総合得点が60点以上とする					単位認		
授業時間外の学習	各疾患を理解し、ロールプレイ及び課題レポートに向けて健康促進・健康教育について学習する							
履修のポイント	疾患に基づいた患者の気持を理解・受容した上で、効果的な援助が実践できるように学んでもらいたい							
オフィス・アワー	在室時は随時対応します (11号館 研究室 1)							

平成27年度 シラバス

科目名	疾病の回復促進 I		担当者	瀬野尾・岡田	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	疾病の回復促進（病理学各論）は、全ての疾患の原因から症状検査、治療までを扱う学問分野で、医療・看護の根幹をなすものである。疾病の成り立ちでは病気を数種類に大別して学ぶのに対し、疾病の回復促進では各器官のそれぞれの疾患についてその原因、症状、経過、検査、治療を学ぶもので、看護の理解を深める上でも不可欠な学問である。							
教育目標	内分泌疾患、血液疾患、栄養・代謝疾患、皮膚疾患の中で、代表的な頻度の高い疾患の原因、症状などを理解し、看護に展開できる様な理解をさせる							
到達目標	各種疾患の原因から、必要な検査法、代表的な症状そして治療方法などについて理解することが出来て、それぞれの疾患ごとに看護の視点を取り入れる事ができる							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	内分泌疾患－1	下垂体腫瘍、尿崩症、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、副甲状腺機能亢進症					瀬野尾	
第2回	内分泌疾患－2	クッシング症候群、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫					瀬野尾	
第3回	栄養・代謝疾患－1	糖尿病、低血糖症、					瀬野尾	
第4回	栄養・代謝疾患－2	痛風、メタボリック症候群、肥満症、黄疸、高脂血症					瀬野尾	
第5回	血液疾患－1	貧血、赤芽球症、不適合輸血、GVHD					瀬野尾	
第6回	血液疾患－2	白血病					瀬野尾	
第7回	皮膚疾患－1	アレルギー性皮膚炎、炎症性皮膚炎、水胞症など					岡田	
第8回	皮膚疾患－2	皮膚腫瘍（皮膚線維腫、メラノーマ、扁平上皮癌、皮膚T細胞リンパ腫など）					岡田	
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	系統看護学講座、病理学、疾病の成り立ちと回復の促進 I。医学書院							
参考書	レビューブック、岡庭 豊編集、メディクメディア発行							
成績評価	単位認定 60点以上	期末試験として、看護師国家試験と同一形式の多岐選択問題などの試験を数回行い、合計平均点が60点以上を単位認定とする。但し、試験問題の難易度により、平均点や標準偏差値を考慮して評価する。						
授業時間外の学習	授業時間だけで、理解するのは難しいので、予習復習が大切です。特に、毎回授業の内容を理解できるまで復習することで、次の授業内容のスムーズな理解につながります。							
履修のポイント	自分で教科書を読むだけでは、なかなか正しい理解が得られないので、毎回授業に出席することが大切です。また、復習はきちんとしましょう。							
オフィス・アワー	随時可能、研究室にて対応します（瀬野尾）。講義日の空き時間に対応します（岡田）							

平成27年度 シラバス

科目名	疾病の回復促進Ⅱ		担当者	瀬野尾 章	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門基礎科目	必修	単位	2単位	学年	1学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	疾病の回復促進（病理学各論）は、全ての疾患の原因から症状検査、治療までを扱う学問分野で、医療・看護の根幹をなすものである。疾病の成り立ちでは病気を数種類に大別して学ぶのに対し、疾病の回復促進では各器官のそれぞれの疾患についてその原因、症状、経過、検査、治療を学ぶもので、看護の理解を深める上でも不可欠な学問である。							
教育目標	消化器疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、腎泌尿器疾患、運動器疾患中で、代表的な頻度の高い疾患の原因、症状などを理解し、看護に展開できる様な理解をさせる							
到達目標	各種疾患の原因から、必要な検査法、代表的な症状そして治療方法などについて理解することが出来て、それぞれの疾患ごとに看護の視点を取り入れる事ができる							
授業計画								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1回	消化器疾患－1		食道えん、食道静脈瘤、食道アカラシア、バレット食道、食道がん					
第2回	消化器疾患－2		胃・十二指腸潰瘍、胃癌					
第3回	消化器疾患－3		クローン病、潰瘍性大腸炎、大腸憩室症、大腸がん					
第4回	呼吸器疾患－1		急性気管支炎、気管支喘息、					
第5回	呼吸器疾患－2		COPD（肺気腫、慢性気管支炎）、気胸、塵肺症、肺腫瘍					
第6回	循環器疾患－1		心筋炎、心タンポナーデ、リウマチ性心疾患（心内膜炎、弁膜症）					
第7回	循環器疾患－2		心筋炎、特発性心筋症、狭心症、心筋梗塞					
第8回	循環器疾患－3		動脈硬化症、動脈瘤、血管炎					
第9回	腎疾患－1		急性・慢性糸球体腎炎、間質性腎炎、腎盂腎炎					
第10回	腎疾患－2		慢性腎臓病、慢性腎不全、腎腫瘍					
第11回	泌尿器疾患－1		尿路結石、膀胱炎、膀胱腫瘍					
第12回	泌尿器疾患－2		良性前立腺肥大、前立腺癌					
第13回	運動器疾患－1		筋萎縮、筋ジストロフィー、重症筋無力症					
第14回	運動器疾患－1		骨軟化症、骨訴訟症、関節炎					
第15回	運動器疾患－1		大腿骨頸部骨折、上腕骨骨折					
教科書	系統看護学講座、病理学、疾病の成り立ちと回復の促進Ⅰ。医学書院							
参考書	レビューブック、岡庭 豊編集、メディクメディア発行							
成績評価	単位認定 60点以上 期末試験として、看護師国家試験と同一形式の多岐選択問題などの試験を数回行い、合計平均点が60点以上を単位認定とする。但し、試験問題の難易度により、平均点や標準偏差値を考慮して評価する。							
授業時間外の学習	授業時間だけで、理解するのは難しいので、予習復習が大切です。特に、毎回授業の内容を理解できるまで復習することで、次の授業内容のスムーズな理解につながります。							
履修のポイント	自分で教科書を読むだけでは、なかなか正しい理解が得られないので、毎回授業に出席することが大切です。また、復習はきちんとしましょう。							
オフィス・アワー	随時可能。研究室にて対応します。							

平成27年度 シラバス

科目名	疾病の回復促進Ⅲ		担当者	松田安弘	学科	看護学科	開講期	前期	
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日		
	教職科目	(必修)	(時間)	(15時間)			時限		
授業の概要									
教育目標									
到達目標									
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容					備考		
第1回	脳神経系機能の理解① －運動機能－	日常生活動作「動く」に関連する運動器系・脳神経系の構造と機能							
第2回	脳神経系機能の理解② －感覚機能－	日常生活動作「五感を働かせる」に関連する感覚器系・脳神経系の構造と機能							
第3回	脳血管疾患による機能障害	脳血管障害：頭蓋内出血、脳梗塞とそれによる障害 (運動機能障害、感覚機能障害、言語機能障害)							
第4回	脳血管疾患の治療・検査	脳血管疾患の診断と外科的治療・内科的治療							
第5回									
第6回									
第7回									
第8回									
第9回									
第10回									
第11回									
第12回									
第13回									
第14回									
第15回									
教科書	特になし								
参考書	授業時間内に提示する								
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験100%								
授業時間外の学習	各回の授業内容の復習につながる課題を提示する								
履修のポイント									
オフィス・アワー	授業日の、授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じます。								

平成27年度 シラバス

科目名	疾患の回復促進Ⅲ		担当者	久松徹也	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	精神疾患に関する知識は将来看護師として就労時に必ず必要とされますが、比較的なじみの薄いものです。授業では初歩的な知識を説明します。							
教育目標	精神科臨床の基礎となる、精神医学の入門的知識を身につくように、説明します。							
到達目標	代表的な精神疾患について基本的知識を得ること。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	精神科臨床の概論	概論として精神科臨床の案内をします。						
第2回	神経症圏の疾患	神経症圏の疾患について解説します						
第3回	統合失調症圏の疾患	統合失調症とその近縁疾患について解説します。						
第4回	気分障害圏の疾患	気分障害圏の疾患について解説します。						
第5回								
第6回								
第7回								
第8回								
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書								
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上							
授業時間外の学習								
履修のポイント								
オフィス・アワー								

平成27年度 シラバス

科目名	医療保健福祉行政論		担当者	松原直樹	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門基礎科目	必修	単位	2単位	学年	2学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	医療保健職として必要な基礎的知識である現在の保健医療福祉行政の制度的枠組み、現実の保健医療福祉活動について理解する。まず、保健医療福祉行政の理念としくみについて、歴史的変遷・諸外国の制度と対比させながら、学習する。その上で、現在の医療保健福祉に関する制度を学習する。さらに、市町村を中心とした地方自治体での保健医療福祉行政がどのように立案・実施されているかを中心に学習する。最後に、保健医療福祉職が現場でいかなる活動をしているかについて、その役割・責務・倫理等について触れながら学習する。							
教育目標	医療保健職として必要な知識・倫理等を身につけるよう、医療行政の仕組みを理解させ、また医療行政に携わる者の任務について具体的に理解できるように、学修させる。							
到達目標	現在の保健医療福祉行政の枠組み、現実の保健医療福祉活動を理解する。医療保健職としての役割・責務・倫理等を理解する。							
授業計画								
回	主題		授業内容				備考	
第1回	医療保健福祉と行政 医療保健福祉制度の変遷		国及び地方自治体による行政がどのように実施されるかを学習し、その上で医療保健福祉に関する行政の仕組みについて概観する。また、わが国の医療保健福祉制度の基礎がどのように形成され、またそれがどのように変化してきたかについて学習する。					
第2回	医療保健福祉制度の課題と発展		医療保健福祉制度が現在どのような課題に直面しているのか、それに対してどのような対応策がとられているのかを学習する。					
第3回	医療保健福祉行政のしくみ		国、都道府県、市町村の医療保健福祉行政のしくみと役割について、学習する。					
第4回	医療保健福祉財政のしくみ		国、都道府県、市町村の医療保健福祉財政のしくみと現状について、学習し、その課題と対策について学習する。					
第5回	日本における社会保障		わが国の社会保障制度の概要について学習する。社会保険、社会福祉、公的扶助のそれぞれの分野について概観する。					
第6回	医療提供体制		医療保険制度の概要について学習し、医療サービスがどこでどのような形で行われるかについて学習する。					
第7回	介護保険制度		介護保険制度の概要やしきみ、現状について学習する。					
第8回	社会保障・社会福祉の制度		高齢者に関する制度を中心に社会保障・社会福祉の制度について学習する。					
第9回	地域保健の体系		地域保健行政を担う機関や人について学習する。保健所と市町村保健センターを中心に学習する。					
第10回	健康危機管理・医療安全 保健活動と個人情報保護		地方保健行政における健康危機管理体制、医療安全対策及び情報管理の仕組みについて学習する。					
第11回	医療保健福祉計画(1)		地方公共団体(県・市町村など)が計画しなければならない保健医療福祉計画とはどういうものか、また、計画における国・県・市町村等の関係を学習する。					
第12回	医療保健福祉計画(2)		地方公共団体が計画しなければならない具体的な保健医療福祉計画の種類と内容について学習する。					
第13回	医療保健福祉計画(3)		現実に地方公共団体が計画した具体的な保健医療福祉計画の内容について学習する。					
第14回	保健計画の策定(1)		保健計画を策定するプロセスについて、具体的に学習する。					
第15回	保健計画の策定(2)		保健計画と住民との関係、および保健計画に対する評価について学習する。					
教科書	藤内修二・他著『<<標準保健師講座 別巻1>>保健医療福祉行政論』(医学書院)							
参考書								
成績評価	平常点(授業への参加度・学習態度等) [15%]、レポート [30%]、テスト [55%] を総合して評価。総合点60点以上で単位認定する。							
履修のポイント	保健師活動の基礎となる医療行政の仕組みについて学習する。保健師国家試験の範囲となっている。							
オフィス・アワー	月・火・木曜日、11時～15時(授業時間以外)、9号館3階第9研究室							

平成27年度 シラバス

科目名	社会福祉学概論		担当者	河村 俊一	学科	看護学科	開講期	後期	
区分	専門基礎科目	選択	単位	1単位	学年	1学年	曜日	木曜	
			(時間)	(15時間)			時限	5限	
授業の概要	わが国における社会福祉、社会保障の成り立ちについて学ぶとともに、保健、医療、福祉が密接な関係をもって私たちの暮らしを支えていることについて学習を行う。また、現在における人口の変化や世帯構造の変化が及ぼす社会福祉、社会保障のあり方について具体的事例などを踏まえて、様々な専門職との連携の重要性や地域における生活者としての視点の大切さを講義や演習により学習を進める。								
教育目標	社会福祉、社会保障の基本的理解を行い、生活を支えるための福祉サービス等のあり方と視点について学ぶことを目的とする。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉、社会保障の成り立ちについて理解する。 2. 社会構造の変化による社会福祉のあり方について理解する。 3. 具体的な事例を通じて、医療、福祉の連携や生活支援のあり方について理解する。 4. 社会における福祉的課題について関心を持ち、地域支援への視点を養う。 								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容					備考		
第1回	身近な福祉政策	私たちの暮らしと密接な関係にある福祉政策					1章		
第2回	社会福祉の歴史	わが国の社会福祉の成り立ちと現在					9章		
第3回	社会保障の現状と課題	医療、所得、介護等の保障制度の理解					3章		
第4回	現代社会の変化と福祉動向	人口、世帯構造の変化と今後の福祉施策					2章		
第5回	生活に関わる社会福祉①	事例による具体的な福祉サービス等利用とその実際					5、6章		
第6回	生活に関わる社会福祉②	事例による具体的な福祉サービス等利用とその実際					5、6章		
第7回	社会福祉と医療との関係性	医療機関、福祉サービスとの連携、社会福祉援助のあり方					8章		
第8回	今後の福祉課題と取り組み	福祉施策の抱える課題と今後の展開							
第9回									
第10回									
第11回									
第12回									
第13回									
第14回									
第15回									
教科書	福田素生著者代表「社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度3」医学書院								
参考書	適宜紹介をする。								
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験90% レポート・課題等10% ※授業態度も加味する								
授業時間外の学習	各回の主題に該当する教科書の章に目を通すことが予習となる。配布資料・ノートの整理を復習として勤める。								
履修のポイント	授業への積極的な取り組みを期待します。								
オフィス・アワー	講義終了前後などに、適宜受け付けます。								

平成27年度 シラバス

科目名	社会保障論		担当者	松原直樹	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	看護学科教育課程において「社会保障制度と生活者の健康」の中でも「社会保障の理念と基本的な制度の考え方」を理解するのがこのコースである。ここでは、疾病・老齢・要介護・失業などの危機に対応する医療保険・年金保険・介護保険・雇用保険などの公的保険制度と理念、さらには生活保護、障害者福祉、児童福祉、老人福祉などの社会福祉諸法の制度と理念が、福祉・医療制度の中で、また私たちの生活の中でどのような機能を果たしているかを考えていく。このコースでは、看護職として不可欠な知識を得るだけでなく、生活者として知っておくべきことがらについても学習していく。							
教育目標	医療保健職として必要な社会保障の理念と社会保障の基本的制度の考え方等を学修・理解させる。							
到達目標	現在の社会保障制度の枠組み、現実の社会保障に関するしくみを理解する。社会保障制度に対する、医療保健職としての役割・責務・倫理等を理解する。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	社会保障制度と社会福祉 社会福祉の歴史		社会保障の概念・目的について理解した後、社会保障の概要・法制度について学習する。また、現在までの社会福祉の歴史について、いくつかの段階に分けて、その概要を学習する。					
第2回	現代社会の変化と社会保障・ 社会福祉の動向		現代の社会保障を取り巻く環境の変化について学習し、それに対する社会福祉政策の近年の動向と社会福祉の現状について学習する。					
第3回	医療保障		わが国の医療制度の沿革・特徴について学習し、また医療保険の種類を正しく理解する。それぞれの医療保険の特徴・内容を知り、また高齢者医療制度について学習する。					
第4回	介護保障		介護保険制度が創設された背景と現在までの沿革を学習する。また、介護保険制度の概要やしくみ、現状について学習し、さらに課題について学習する。					
第5回	所得保障		所得保障制度の概要について学習する。具体的な所得保障制度の中心である年金保険制度について沿革・具体的内容及び課題を学習した後、各種社会手当、労働保険制度のしくみ・内容について概観する。					
第6回	公的扶助		社会保障制度における公的扶助の位置づけを理解し、生活保護制度を中心にその概要と具体的内容を学習する。公的扶助の現代の課題と生活保護以外の低所得層対策について学習する。					
第7回	社会福祉の分野とサービス		対象者別の社会福祉サービスについて学習する。高齢者・障害者・児童家庭に対する福祉の概要と具体的内容について理解し、またそれらの福祉分野において、近年特に問題となっている課題について学習する。					
第8回	社会福祉実践と医療・看護		社会福祉の援助技術についてその概要を知り、また社会福祉援助者と他の保健医療職者との連携・協働について学習する。					
教科書	福田素生・他著『《系統看護学講座 専門基礎分野》 健康支援と社会保障制度 [3] 社会福祉』 (医学書院)							
参考書								
成績評価	平常点 [20%]、期末試験 [80%] を総合して評価。総合点60点以上で単位認定する。							
授業時間外の学習	次回の授業について、教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業終了後は、確認テストの解答をよく読み、間違った問題に関する該当部分を教科書・ハンドアウト等で復習しておく。							
履修のポイント	社会保障・社会福祉関連の資料を多数配布するので、整理しておくこと。							
オフィス・アワー	月・火・木曜日、11時～15時（授業時間以外）、9号館3階第9研究室							

平成27年度 シラバス

科目名	医療関係法規		担当者	松原直樹	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門基礎科目	必修	単位 (時間)	2単位 (30時間)	学年	4学年	曜日 時限	
授業の概要	<p>本講座は、「社会保障制度と生活者の健康」の一分野として位置づけられる「関係法規」に関する講座である。医療に関する法規としては、すでにさまざまなものが存在しているが、毎年さらに多くの法規が誕生し、また改廃されている。医療従事者にとっては、それらの法規に従い、医療を提供する義務を有するものであるから、関係法規への知識は、医療従事者にとって、不可欠な要素である。</p> <p>本講座では、医療、保健衛生、社会福祉などに関連する具体的な法規について学習するだけでなく、患者の人権や医療過誤等に関する現代的問題についても、学習していく予定である。</p>							
教育目標	医療を提供する基本理念、医療提供体制の基礎について、実体的に理解できるように、体系的に教育する。							
到達目標	医療従事者として知っておくべき基本的ルールや、保健医療の各分野の制度について、基本原則を理解した上で、それと関連づけて具体的なルールを理解する。							
授業計画								
回	主題	授業内容					備考	
第1回	法規の概念、厚生行政のしくみ	授業の進め方、看護師国家試験におけるこの教科目の位置づけについて説明した後、法規とその種類について、法学の基礎的知識を学習する。そして、衛生法規とは具体的に何を指すのか、それに基づく厚生行政はどのように実施されているかを学習する。						
第2回	医事法規(1)	医療を行う人に関する法規のうち、看護業務に関わりの深い医療従事者に関する法規について、その目的と主な規定内容について、学習する。具体的には、保健師助産師看護師法、医師法、看護師人材確保法等を学習する。						
第3回	医事法規(2)	主に医療を行う場・環境に関して規定している医療法について、その目的、具体的内容を学習する。特に、医療の目的、医療者の責務、医療機関、医療計画等、重要なことがらを中心に学習する。また、医療に関して規定しているその他の法規(臓器移植法、他)についても学習する。						
第4回	薬事法規	薬務法規と薬剤等を扱う人に関する法を学習する。医薬品等に関する一般法である薬事法について学習し、さらに薬剤を主に扱う医療専門職に関する薬剤師法を学習する。また、さらに取り扱いに注意すべき薬剤・毒物等に関する法令を取り上げ、医療従事者の役割と規制内容について学習する。						
第5回	保健衛生法規(1)	保健に関する全般的な行政施策・担当組織等を規定している地域保健法と健康増進法について、その目的・主な内容を学習した後、個別分野の保健方針・行政施策等を規定している各種保健法のうち、精神保健福祉法について学習する。						
第6回	保健衛生法規(2)	保健に関して個別分野ごとに保健方針・行政施策等を規定している各種保健法のうち、母子保健法・母体保護法、学校保健安全法について、その目的、主な行政施策の内容等を学習する。さらに具体的な保健対策法のうち、近年の大きな課税となっているがん対策基本法、自殺対策基本法等について、学習する。						
第7回	保健衛生法規(3)	保健衛生に関する法の中でも、感染症に関する法について学習する。具体的には、感染症予防法・予防接種法・検疫法について、その目的・沿革・とりうる行政施策等について学習する。また、食品に関する法のうち、代表的な食品安全基本法と食品衛生法について、概観する。						
第8回	環境衛生法規、環境保全法規	日常生活を取り巻く環境に関する法令について、特に水とゴミに関する法令を中心に学習する。さらに環境保全に関する法令について、環境基本法をはじめ、個別の公害防止法、さらには環境に関する主な条約についても学習する。						
第9回	労働関係法規	労働者に関する法規である労働法のうち、働く人たちの健康を守る立場である医療従事者として知っておく必要のある法令の内容について学習する。労働基準法、労働安全衛生法に加えて、特に働く女性の保護を規定している男女雇用機会均等法、育児休業・介護休業法について学習する。						
第10回	社会保険法(1)	前期の「社会保障論」の授業で学習した「医療保障」「所得保障」に係る社会保険法について、再度重要な部分を確認し、また補足説明をする。医療保険に関するいくつかの法規と年金に関する法規等を中心に学習する。						
第11回	社会保険法(2)	前期の「社会保障論」の授業で学習した「介護保障」に係る社会保険法について、再度重要な部分を確認し、また補足説明をする。介護保険に関する規定を中心に学習する。						
第12回	福祉法	前期の「社会保障論」の授業で学習した「公的扶助」「社会福祉の分野とサービス」について、再度重要な部分を確認し、また補足説明をする。分野ごとに学習したことがらを法規別に学習していく。						
第13回	患者・高齢者の人権保障 社会基盤整備等	患者や高齢者の権利を守るための各種制度について学習する。生命や健康に関する権利の基礎となる自己決定権を学習した後、権利擁護の具体的な施策である成年後見制度や地域福祉権利擁護事業、各虐待防止法等について学習する。また、少子・高齢化対策に関する法、情報保護に関する法についても学習する。						
第14回	医療保健福祉行政課題への対策	近年の医療保健福祉行政に関する課題への行政対応について、学習する。具体的には、難病対策、少子化対策、高齢化対策、生活習慣病対策のための具体的な施策・計画について学習する。						
第15回	全体のまとめ	これまで学習したことがらについて、課題演習を行って、理解度を確認し、不足している部分について、補足説明をする。						
教科書	『系統看護学講座専門基礎10 社会保障制度と生活者の健康 [4] 看護関係法令』 森山幹夫・小島喜夫(医学書院)							
参考書	『看護六法(平成26年版)』看護行政研究会【編】(新日本法規出版) 『別冊ジュリスト・医療過誤判例百選(第2版)』 唄孝一(有斐閣)							
成績評価	平常点 [20%]、期末試験 [80%] を総合して評価。総合点60点以上で単位認定する。							
授業時間外の学習	次回の授業についての部分の教科書を読んでおくこと。授業終了後は、確認テストの解答をよく読み、間違った問題に関する該当部分を教科書・ハンドアウト等で復習しておく。							
履修のポイント	医療行政に関する法令、社会保障・社会福祉関連の資料を多数配布するので、整理しておくこと。							
オフィス・アワー	月・火・木曜日、11時～15時(授業時間以外)、9号館3階第9研究室							

平成27年度 シラバス

科目名	看護学原論 I		担当者	吉田 礼子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日	火曜日
	教職科目	(必修)	(時間)	(15時間)			時限	3限
授業の概要	看護における対象理解の中で個別な価値観、信条や生活背景をもつ人について理解する。また、看護の対象としての人間の健康に関する定義を学ぶことで、実際の看護についての理解を深める。							
教育目標	看護の歴史的発展や看護の基本概念である人間・健康・社会・看護について学習し、看護とは何か、看護学とは何か、について自己の考えを深められるようにする。							
到達目標	1. 看護の歴史的発展を通して、看護概念の変遷を理解し、知識として修得できる 2. 看護職の目標・対象・役割と機能について学び、今後の学習に関連付けることができる 3. 看護の対象である人間・健康のとらえ方について理解し、看護について考えることができる							
4								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	看護とは何か	科目ガイダンス、看護とは、看護学とは					講義 4/7	
第2回	看護の歴史的変遷	看護の起源、職業としての看護の誕生からナイチンゲールまで					講義 4/14	
第3回	現代における看護	近代アメリカにおける看護の発展と日本の看護の発展					講義 4/21	
第4回	看護の対象 人間のとらえ方	人間のさまざまなとらえ方					講義 5/26	
第5回	看護における家族	人間にとっての家族の意味					講義 6/2	
第6回	健康と病気	健康のとらえ方の変遷と健康の指標					講義 6/9	
第7回	看護の概念	看護の諸定義					講義 6/16	
第8回	看護活動の場と看護実践	①保健医療システム ②保健医療福祉サービスの場合 ③医療施設における看護 ④医療施設以外の看護の場と役割					講義 6/23	
教科書	ライダー島崎玲子著『看護学概論 看護追求へのアプローチ 第3版』医歯薬出版 F. ナイチンゲール著、湯楨ます・薄井坦子・小玉香津子他訳『看護覚え書 改訂第7版』現代社 V. ヘンダーソン著、湯楨ます・小玉香津子訳『看護の基本となるもの』日本看護協会出版会							
参考書	アドルフ・ポルトマン著、高木正孝訳『人間はどこまで動物か』岩波書店 V. E. フランクル著、山田邦夫・松田美佳訳『それでも人生にイエスと言う』春秋社 ミルトン・メイヤロフ著、田村真也訳『ケアの本質 一生きることの意味一』ゆみる出版							
成績評価	単位認定は60点以上 受講カード40%（授業ごとに提出）・筆記試験60%							
授業時間外の学習	自分の周囲の先輩や友人と自分はなぜ看護職を選んだのか話し合い、「看護」について視野を広げ、4年後の自分を想像してみましょう。							
履修のポイント	看護とは何かを先駆者の活動の歴史や関連学問から深く考え学ぶ授業です。							
オフィス・アワー	在室中で時間があればいつでも対応します。11号館3階第5研究室です。							

平成27年度 シラバス

科目名	看護学原論Ⅱ		担当者	吉田 礼子	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	看護が専門職であるためには、科学的根拠のある看護実践が必要であり、看護理論は看護にその科学的根拠を与えている。看護構築の初期に開発された理論と、看護理論を活用して対象理解について学ぶ。							
教育目標	看護理論の発展の歴史と看護理論の成り立ちや看護理論の機能と特徴を理解できるようにする。							
到達目標	1. 看護の概念と理論の意味と重要性を理解する。 2. 看護理念の構築の初期に開発された理論を理解する。 3. 興味・関心のある看護理論における対象理解の方法について特徴を理解する。 4. 看護理論が具体的な看護実践にどのように活用されるかを理解する。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	学科目ガイダンス	学科目ガイダンス・看護理論に関連した用語の定義					講義	
第2回	看護理論概説	主な看護理論の発展過程と背景（フローレンス・ナイチンゲール、ヴァージニア・ヘンダーソン、シスター・c、ロイ、ドロセアE.オレムなど）					講義	
第3回	ヴァージニア・ヘンダーソン	課題 ①理論的背景、②看護理論の特徴、③対象理解					講義・演習	
第4回	シスター・c.ロイ	課題 ①理論的背景、②看護理論の特徴、③対象理解					講義・演習	
第5回	看護理論家と看護過程	看護の対象を看護理論家はどのように捉え、看護実践に活用するかを学習する					講義・演習	
第6回	看護理論家と看護過程	看護の対象を看護理論家はどのように捉え、看護実践に活用するかを学習する					講義・演習	
第7回	看護理論家と看護過程	看護の対象を看護理論家はどのように捉え、看護実践に活用するかを学習する					講義・演習	
第8回	まとめ	各理論家の対象把握の特徴					講義・演習	
教科書	ライダー島崎玲子著『看護学概論 看護追求へのアプローチ 第3版』医歯薬出版 F. ナイチンゲール著、湯楨ます・薄井坦子・小玉香津子他訳『看護覚え書 改訂第7版』現代社 V. ヘンダーソン著、湯楨ます・小玉香津子訳『看護の基本となるもの』日本看護協会出版会							
参考書	都留伸子監訳『看護理論家とその業績(第3版)』医学書院、横尾京子『看護理論と看護過程』医学書院							
成績評価	単位認定60点以上 課題レポート50%、筆記試験50%							
授業時間外の学習	看護理論的背景を理解するためには、時代背景や人としての理解も必要です。看護の歴史なども調べてみましょう。							
履修のポイント	看護の対象を看護理論家はどのように捉えているか、自分はそれに対してどう考えるかと意見をもっていると授業が楽しくなると思います。							
オフィス・アワー	在室中で時間があればいつでも対応します。11号館3階第5研究室です。							

平成27年度 シラバス

科目名	看護技術学概論		担当者	吉田／三木	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日	火or水
			(時間)	(15時間)			時限	3 or 1
授業の概要	看護技術という概念や看護技術を構成する要素は何か、その対象を学習し、看護技術の修得が、より効果的な看護を展開するためにいかに重要であるか理解する。また、看護技術の提供に共通する安全・安楽の技術、対象を自立に向けて支援する技術など看護技術学Ⅰ～Ⅵの特徴をオムニバス方式で講義・演習を通して学習する。							
教育目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の概念、看護技術を構成する要素および、その対象を理解できるようにする 2. 看護技術の提供に共通する安全・安楽・自立に向けた教育的支援について理解できるようにする 							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術とはなにか、構成要素・対象・用語について説明できる 2. 看護技術における安楽の意義、安楽確保の技術について説明できる 3. 看護技術における安全の意義、安全管理の技術について説明できる 4. 看護技術における自立に向けた教育的支援の意義、教育支援技術について説明できる 5. 看護過程の基本について説明できる 							
授業計画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	看護技術学概説	看護技術とはなにか？ 看護技術はどのように構成されているか？看護技術の対象とは？ 看護技術の用語について					講義 4/8吉田	
第2回	安楽確保の技術	安楽の意義、安楽な体位の基本					講義 4/15吉田	
第3回	安楽確保の技術	ボディメカニクスの基本					講義 4/28吉田	
第4回	安全管理の技術	安全の意義 療養環境における危険防止					講義 5/12三木	
第5回	安全管理の技術	感染予防の技術、日常的手洗い					講義・演習 5/19三木	
第6回	教育指導技術	自立に向けた教育的支援の意義					講義 6/30吉田	
第7回	看護過程の基本	クリティカルシンキングとはなにか？					講義 7/7三木	
第8回	看護過程の基本	看護過程とはなにか？ 看護過程の5つの段階について					講義 7/14三木	
教科書	深井喜代子編『新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』メヂカルフレンド社							
参考書	三上れつ・小松万喜子編『演習・実習に役立つ基礎看護技術』根拠に基づいた実践をめざして 第3版、ニューヴェルヒロカワ							
成績評価	筆記試験で評価する。総合得点が60点以上で単位認定とする							
授業時間外の学習	次回の授業範囲について教科書を事前に読んでおくこと							
履修のポイント	主体的に学習することを望む							
オフィス・アワー	在室中で時間があればいつでも対応します。11号館3階第5研究室です。							

平成27年度 シラバス

科目名	看護技術学 I (生活行動支援技術)		担当者	三木園生ほか	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	1学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(60時間)			時限	
授業の概要	<p>様々な健康レベルや環境下で生活している人々の生活環境を整え、自然治癒力を高めるための支援技術を学習する。その支援技術は、環境を調整する、清潔を保持する、栄養状態を保つ、呼吸や循環を整える、排泄の支援と調整、衣類の選択と更衣など対象の生活に必要な支援技術である。その技術は対象の生活機能を維持・促進し自立に向けて支援するための技術で、科学的根拠を基に学習する。</p>							
教育目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自力で日常生活行動が行えない患者に、安全・安楽な日常生活行動の援助を提供する意義を理解する 2. 自力で日常生活行動が行えない患者に、安全・安楽な日常生活行動の援助を提供するための技術を実施する 3. 日常生活行動の援助の技術修得に向けた自己の課題を明確にする 							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自力で日常生活行動が行えない患者に、安全・安楽な日常生活行動の援助を提供するための技術を行う方法を根拠とともに説明する 2. 自力で日常生活行動が行えない患者に、自立に向けた教育的支援を考慮した日常生活行動の援助を提供するための技術を行う方法を説明する 3. 決められた手順に則って日常生活行動の援助技術を実施する 4. 日常生活行動の援助の技術修得に向けた自己の課題を明示する 							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	環境を整える技術		入院患者を取り巻く生活環境 病床環境の調整に必要な基礎知識 環境調整における看護の役割と看護技術 実習室の使用方法について				講義	
第2回								
第3回	ベッドメイキング		ベッドメイキング (課題レポート)				演習	
第4回								
第5回	活動・休息の援助技術		運動の意義と援助、休息の意義と援助、睡眠とその援助 移動の援助				講義	
第6回								
第7回	体位変換 移動		体位変換、車椅子・ストレッチャーでの移動 (課題レポート)				演習	
第8回								
第9回	環境整備 臥床患者のシーツ交換		病床の環境整備、臥床患者のシーツ交換 (課題レポート)				演習	
第10回								
第11回	衣生活の援助技術		衣生活の意義と援助方法				講義	
第12回	寝衣交換		寝衣交換 (課題レポート)				演習	
第13回	清潔の援助技術		清潔の意義と援助方法 皮膚の清潔・粘膜の清潔				講義	
第14回								
第15回	全身清拭		全身清拭 (課題レポート)				演習	
第16回								
第17回	洗髪 口腔ケア		洗髪、口腔ケア (課題レポート)				演習	
第18回								

平成27年度 シラバス

第19回	食生活の援助技術	食事の意義、食生活の基本的援助	講義
第20回	食事介助	食事の援助方法 (課題レポート)	演習
第21回	排泄の援助技術	人間にとっての排泄の意義、排泄のメカニズム、基本的援助	講義
第22回			
第23回	排泄の援助	便器・尿器の当て方、陰部洗浄 (課題レポート)	演習
第24回	陰部洗浄		
第25回	感染予防の技術	感染予防とは、感染予防の意義・重要性 スタンダードプリコーション	講義
第26回			
第27回	感染予防の技術	日常の手洗い、無菌操作、ガウンテクニック、滅菌手袋の着脱 (課題レポート)	演習
第28回			
第29回	技術テスト	実技試験	試験
第30回			
教科書			
参考書			
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験 70%、実技試験 30%		
授業時間外の学習	次回の授業範囲について教科書を事前に読んでおくこと (DVDの視聴を含む)。 演習終了時に配付する課題レポートに記述すること。 実習室を使用し、技術の練習をすること。		
履修のポイント	主体的・積極的な学習への取り組みがのぞまれる		
オフィス・アワー	在室時、随時対応します。10号館2階 研究室7 (三木)		

平成27年度 シラバス

科目名	看護技術学Ⅱ (治療過程支援・症状緩和技術)		担当者	三木園生ほか		学科	看護学科		開講期	後期	
区分	専門科目	必修	単位	2単位		学年	1学年		曜日		
			(時間)	(60時間)			時限				
授業の概要	看護師は、医師の治療目標に向かって他の医療チームと協働で治療効果を上げる責任がある。治療過程を支援する技術は、特に安全に配慮した確実な技術や倫理的配慮が求められる。また、様々な症状、疼痛、発熱、呼吸困難、排泄障害などについて看護の視点で症状緩和方法について学習する。										
教育目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 治療過程の支援に必要な看護技術の基本を理解し、安全・安楽な治療過程支援技術を提供する意義を理解する 2. 症状緩和に必要な看護技術の基本を理解し、安全・安楽な症状緩和技術を提供する意義を理解する 3. 安全・安楽な治療過程支援技術および、症状緩和技術を提供するための技術を実施する 4. 治療過程支援技術および、症状緩和技術の修得に向けた自己の課題を明らかにする 										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 治療過程支援技術および、症状緩和技術の目的・方法を説明する 2. 安全・安楽に治療過程支援技術および、症状緩和技術を行うための環境調整を実施する 3. 決められた手順に則って治療過程支援技術および、症状緩和技術を実施する 4. 治療過程支援技術および、症状緩和技術の修得に向けた自己の課題を明示する 										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容						備 考		
第1回	バイタルサイン		バイタルサインとは？ バイタルサインの観察方法、記録・報告						講義		
第2回											
第3回	バイタルサインの測定		バイタルサインの測定・記録・報告 (課題レポート)						演習		
第4回											
第5回	呼吸・循環を整える技術		呼吸の意義、吸引(一時的・持続的) 酸素吸入療法、人工呼吸						講義		
第6回											
第7回	吸引、酸素吸入療法		一時的吸引法、酸素吸入療法 (課題レポート)						演習		
第8回											
第9回	排泄の援助技術		排便障害と援助方法、排尿障害と援助方法						講義		
第10回											
第11回	浣腸、導尿		グリセリン浣腸、一時的導尿 (課題レポート)						演習		
第12回											
第13回	食生活と栄養摂取の援助技術		経腸栄養法(経管栄養、胃瘻栄養)						講義		
第14回											
第15回	与薬の技術		薬物療法の意義・目的、看護師の役割、患者の援助 与薬に関する基本知識						講義		
第16回											
第17回	与薬の技術 検査に伴う看護技術		予約の援助に関する共通事項、各種与薬の援助方法 検査に伴う看護と検査の種類、血液検査(静脈血採血法)						講義		
第18回											

平成27年度 シラバス

第19回	静脈血採血法	静脈血採血の方法、感染性廃棄物の取扱い (課題レポート)	演習
第20回			
第21回	各種注射法	筋肉内注射、点滴静脈内注射 (課題レポート)	演習
第22回			
第23回	症状緩和技術	症状緩和技術とは、代替療法とは 看護の視点からみた症状緩和方法	講義
第24回			
第25回	足浴・マッサージ 罨法	足浴・マッサージ、冷罨法・温罨法 (課題レポート)	演習
第26回			
第27回	技術テスト	実技試験	試験
第28回			
第29回	総合演習	総合演習 (課題レポート)	演習
第30回			
教科書			
参考書			
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験 70%、実技試験 30%		
授業時間 外の学習	次回の授業範囲について教科書を事前に読んでおくこと (DVDの視聴を含む)。 演習終了時に配付する課題レポートに記述すること。 実習室を使用し、技術の練習をすること。		
履修の ポイント	主体的・積極的な学習への取り組みがのぞまれる		
オフィス ・アワー	在室時、随時対応します。10号館2階 研究室7 (三木)		

平成27年度 シラバス

科目名	看護技術学Ⅲ		担当者	吉田 礼子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日	金曜日
			(時間)	(30時間)			時限	3限or3/4限
授業の概要	看護におけるヘルスアセスメントの目的・意義を理解し、対象者の健康状態を身体的・心理的・社会的側面から総合的にアセスメントをするための知識と基本的技術を学ぶ。特に身体的アセスメントについては、看護実践の基盤となる観察技術を中心に正確な身体情報を把握する。さらにその情報から対象者の健康レベルや正常・異常を判断できるまでの一連のアセスメント技術と看護者として望ましい基本的態度を修得する。							
教育目標	看護におけるヘルスアセスメントの目的・意義を理解し、あらゆる健康レベルにある人々の身体構造と機能の系統的観察・測定技術の必要性と方法を学べるようにする。さらに対象者の健康状態を実際のアセスメントできる基本的技術と看護者としての基本的態度を習得できるようにする。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ヘルスアセスメントの意義及び必要性を述べるができる 人間を身体的一心理・社会的存在として捉える重要性を述べるができる 対象者を総合的にアセスメントするために、ヘルスアセスメントの基本的技術を用い実施できる ヘルスアセスメント時の看護者としての基本的態度について考えることができる 							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	ヘルスアセスメントの概要	ヘルスアセスメントの目的と意義					講義4/10	
第2回	ヘルスアセスメントの基本技術	アセスメントに臨む基本姿勢					講義4/17	
第3回	フィジカルアセスメントの基本的技法	問診・視診・触診・打診・聴診					講義4/24	
第4回	演習 面接技法とアセスメント	問診技法の実際（ヘルスヒストリー）					演習5/8	
第5回	演習 測定技術とアセスメント	身体各部の計測と視診の実際：クラス別					基礎成人演習室5/15	
第6回	アセスメントの視点①	必要な情報とその解釈・分析ゴードンの機能的健康パターンを用いて					講義5/22	
第7回	アセスメントの視点②	必要な情報とその解釈・分析ゴードンの機能的健康パターンを用いて					講義5/29	
第8回	系統別アセスメント	呼吸器系のフィジカルアセスメントの進め方					講義6/5	
第9回	演習	呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際：クラス別					基礎成人演習室6/12	
第10回	系統別アセスメント	循環器のフィジカルアセスメントの進め方					講義6/19	
第11回	演習	循環器系のフィジカルアセスメントの実際：クラス別					基礎成人演習室6/26	
第12回	系統別アセスメント	消化器系のフィジカルアセスメントの進め方					講義7/3	
第13回	演習	消化器系のフィジカルアセスメントの実際：クラス別					基礎成人演習室7/10	
第14回	系統別アセスメント	感覚器系・運動器系・中枢神経系のフィジカルアセスメントの進め方					講義7/17	
第15回	演習	感覚器系・運動器系・中枢神経系のフィジカルアセスメントの実際：クラス別					基礎成人演習室7/24	
教科書	松尾 ミヨ子他 編著『ヘルスアセスメント（ナーシング・グラフィカ—基礎看護学）』メディカ出版							
参考書	山内豊明『フィジカルアセスメントガイドブック 目と手と耳でここまでわかる（第2版）』医学書院							
成績評価	講義・演習参加状況、演習レポート、課題、GW、筆記試験を総合して評価する。総合得点が60点以上で単位認定とする。							
授業時間外の学習	系統別アセスメントの演習を効果的に行うために人体の構造のレポートを作成する。演習前にフィジカルアセスメントのDVDを視聴する。							
履修のポイント	事前学習課題を行い、主体的・積極的に参加すること。記録類の提出は、時間厳守すること。							
オフィス・アワー	在室中で時間があればいつでも対応します。11号館3階第5研究室です。							

平成27年度 シラバス

科目名	看護技術学Ⅳ (看護過程演習)		担当者	吉田/三木	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	看護過程の展開は看護理論をもとに、対象にどのような問題点があるか、どのような看護ケアが必要か、どのような事象が展開されるかを予測的に説明することができる方法である。この科目は専門基礎で学んだ知識と看護学を統合する学習であり、既修学習した様々な知識を想起して、これからはじまる看護学各論の科目、特に臨地実習と関連させる方法論を学ぶ。							
教育目標	科学的な根拠に基づき、個別性のある看護を実践するための方法論を理解できるようにする							
到達目標	1. 看護過程とはなにか説明できる 2. 看護過程の各段階とその機能を説明できる 3. 看護過程の展開方法について説明できる ①「アセスメント」を展開する方法、②「看護診断（問題の明確化）」を展開する方法 ③「計画」を展開する方法、④「実施」を展開する方法、⑤「評価」を展開する方法							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	看護過程概説 看護過程の各段階と機能	看護過程とは 看護過程の各段階と機能とは						
第2回	アセスメント	情報収集、分析						
第3回	アセスメント	情報収集、分析						
第4回	アセスメント	事例をもとにグループ学習 (課題レポート)						
第5回	アセスメント	事例をもとにグループ学習 (課題レポート)						
第6回	診断	看護診断 (問題の明確化)						
第7回	診断	看護診断(問題の明確化)						
第8回	診断	事例をもとにグループ学習 (課題レポート)						
第9回	中間試験 計画	中間試験期待される成果とは						
第10回	計画	看護活動の選択、ケア計画の立案						
第11回	計画	事例をもとにグループ学習 (課題レポート)						
第12回	計画	事例をもとにグループ学習 (課題レポート)						
第13回	実施	準備、活動、記録						
第14回	評価	目標達成の評価、ケア計画の修正、結果の伝達						
第15回	まとめ	看護過程のまとめ						
教科書	ロザリンダ・アルファロ・ルフィーヴァ 著, 本郷久美子 訳『基本から学ぶ看護過程と看護診断』医学書院, 新道幸恵 著『看護診断ハンドブック(第10版)』医学書院							
参考書								
成績評価	筆記試験80% (中間試験20%、期末試験60%)、課題レポート20%を総合して評価する。総合得点が60点以上で単位認定とする。							
授業時間外の学習	次回の授業範囲について教科書を事前に読んでおくこと。示された課題について記録用紙に記述すること。							
履修のポイント	主体的・積極的な学習への取り組みがのぞまれる							
オフィス・アワー								

平成27年度 シラバス

科目名	看護技術学V		担当者	豊田省子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2年生	曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	看護活動のなかで教育的な活動は、健康についての知識の獲得や態度の形成、保健行動の獲得や変容のために重要な活動である。本授業では健康の保持増進のための正しい知識を理解し自らの健康を守るというセルフケアに必要な「健康教育の方法」を学ぶ。							
教育目標	看護における教育的関わりについて理解し、さまざまな健康レベルにある対象者が健康に対する望ましい考えや行動を獲得できるように側面から支援する方法がわかる。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における教育・指導とは何かを理解できる。 2. 健康教育とは何かを理解できる。 3. 健康教育に活用できる理論を知る。 4. 健康教育のプロセスを、看護過程の展開を一例として理解できる。 5. 看護過程の展開における教育計画をグループ・ワークを通して立案できる。 6. 教育計画の展開に必要な教材をグループ・ワークを通して作成できる。 7. 教育計画の実際と作成した教材に関して、発表できる。 8. 授業での学びと演習・発表を通して学んだことを考察できる。 							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	看護における教育・指導	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「教育」とは？・「指導」とは？ 2. 「看護」と「教育指導」との関係 3. 健康に生きることを支える教育・指導 					講義	
第2回	健康教育とは	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康教育の定義 2. 健康教育の目的 3. 健康教育の担い手 4. 保健医療の5段階と健康教育 5. 健康教育と保健行動(=健康行動) 					講義	
第3回	健康教育に活用できる理論	<ol style="list-style-type: none"> 1. セルフケア論 2. 自己効力(感) 3. 健康行動理論 4. エンパワメント 5. 成人教育 					講義	
第4回	健康教育のプロセス	<ol style="list-style-type: none"> 1. アセスメント 2. 看護診断 3. 計画 4. 実施 5. 評価 					講義	
第5回	教育計画の立案・教材の作成	1. 記録用紙を用いて、教育計画を創り上げる(グループで1部)					演習	
第6回		2. 教育計画にそった教材を創り上げる(グループで1部)						
第7回	教育計画と教材の発表	1. 教育計画の概要と教材を発表する					演習	
第8回		2. 教育計画の概要と教材を発表する・まとめ						
教科書	指定する教科書は特にありません。必要な教材は、授業資料として毎回配布します。							
参考書	NPO法人日本健康教育士養成機構編：新しい健康教育 理論と事例から学ぶ健康増進への道、保健同人社、2011年。 松本千明：行動変容のための健康教育パワーアップガイド 効果を高める32のヒント、医歯薬出版、2011年。 津下一代：図解相手の心に届く保健指導のコツ 行動変容につながる生活習慣改善支援10のポイント、東京法規出版、2008年。 安酸史子：改定2版糖尿病患者のセルフケアマネジメント教育-エンパワメントと自己効力-、メディカ出版、2010年。 安達淑子：ライフスタイル療法 I -生活習慣改善のための行動療法- 第4版、医歯薬出版、2014年。							
成績評価	単位認定 60 点以上：授業内小テスト40%・教育計画と教材40%、課題レポート20%などで総合的に評価します。							
履修のポイント	<ol style="list-style-type: none"> ①理論を用いて教育計画を展開すること。理論を用いずに展開した場合は再提出を求めます。 ②毎回、自筆による「リアクション・ペーパー」の提出を求めます。授業への感想・意見・要望・質問などが書かれていることによって、授業に出席したことを認めます。したがって白紙で提出された場合や学籍番号と氏名が不一致の場合は個人の特定ができませんので出席とはなりません。リアクション・ペーパーは、授業終了時にのみ受領します。白紙の提出、学籍番号の間違い、後日の提出は欠席扱いとなりますのでご注意ください。 ③授業中に「小テスト」を行います。臨床実習で困らないよう学びを着実に身に付けましょう。 							
授業時間外の学習	毎回の授業をしっかりと聞くことが大切です。小テストでできなかったところは復習をして下さい。 関連する科目は、「教育方法論」「セルフケア論」「看護技術学Ⅳ(対人援助方法)」「成人看護学概論」「成人看護学方法」などが考えられます。これらの科目の予習・復習をすることによって、「教育指導論」の理解を深め、知識の統合を図りましょう。							
オフィス・アワー	授業日の授業開始前あるいは終了後に教室で相談に応じます。							

平成27年度 シラバス

科目名	看護技術学Ⅵ（対人援助方法）		担当者	鈴木裕子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	看護の対象はライフサイクルや健康レベルのあらゆる段階にある人を対象にすることから、より高い対人援助力が必要となる。若い看護職のコミュニケーション力の低下も指摘されている。対人援助における、人間関係やコミュニケーションについての理解を深めながら授業を進める。行動科学に基づく社会心理学的手法を用いる。具体的には心理測定尺度などを活用し、自己理解や他者理解、人間関係理解を深めながら対人援助方法としての手法を実践的に学ぶ。人間関係やコミュニケーションの知識を深めスキルを高めることを中心に看護における対人援助方法を学ぶ。							
教育目標	対人援助、コミュニケーションや相談技術について、社会心理学的な手法を理解し、実践的に学ぶ。身体的、精神的、社会的存在としての個人・家族・集団への対象理解と関わり方について学び考える。また対人援助のチームワークや関係職種との連携、看護の機能と役割へと視野を広める。							
到達目標	行動科学に基づく社会心理学的手法を用いた対人援助方法について理解し、知識と技術を身につける。自己理解、他者理解、人間関係理解を深め、コミュニケーションと相談、保健指導、教育の技術を高める。個人・家族・集団、また環境との相互関係の中で統合的・全体的に対象と関わり方について理解を深める。対人援助のチームワークや関係職種との連携について理解を深め、必要な対人援助技術の実際と役割について考える。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	対人援助方法とは	行動科学に基づく、社会心理学的手法を用いた対人援助方法						
第2回	人間関係理解	心理測定尺度を用いた自己理解、他者理解、人間関係理解						
第3回	コミュニケーション	アサーティブ・コミュニケーション						
第4回	看護相談と保健指導	自己決定を支える看護相談と保健指導技術						
第5回	看護教育	エンパワーメントをもたらす看護における教育						
第6回	ピア・サポート	看護ピア・サポートの実際						
第7回	対象別援助	対象別対人援助方法						
第8回	保健医療福祉関係職種との連携	保健医療福祉関係職種との連携における看護職の対人援助機能						
教科書	宗像恒次 感情と行動の大法則 ヘルスカウンセリング学会							
参考書	保健同人社 新しい健康養育, トレーナー・コール 亀山静子訳 ピア・サポート実践マニュアル 仲間とみがく看護のコミュニケーション・センス							
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験70%, リアクションペーパー20%, 授業態度10%							
授業時間外の学習	自己と他者、人間関係理解を深めるために、自己の内面や関係性を振り返る。図書や新聞、そして芸術に親しみ見聞を広める。							
履修のポイント	行動科学、社会心理学的手法、心理測定尺度、健康相談、保健指導、看護教育（個人、集団）、連携における役割と機能							
オフィス・アワー	アポイントをとること。							

平成27年度 シラバス

科目名	基礎看護学実習 I (日常生活支援技術)		担当者	三木園生ほか	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(45時間)			時限	
授業の概要	看護の対象である患者および患者を取り巻く生活の場を理解し、実際に観察、コミュニケーションの技術を活用しながら、対象者の基本的ニーズを満たすための援助の必要性を考え、日常生活行動の援助を実践する。また、看護の主要な対象である患者がどのような健康上の問題をもって生活しているかを理解し、看護が担う役割と責任について理解する。							
教育目標	看護者の立場から、コミュニケーションや観察を通して患者がどのような健康上の問題をもって生活しているかを理解する。また、患者の基本的ニーズを満たすための援助の必要性を考え、日常生活行動の援助を実践する。本実習を通して看護の役割と責任について理解を深める。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者に必要な日常生活行動の援助について、原理・原則に基づき実施方法を計画する 2. 患者に必要な日常生活行動の援助を実施する 3. 患者に質の高い技術を提供するための看護師の責任について説明する 							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	臨地実習	病棟オリエンテーション、日常生活行動の観察 カンファレンス						
第2回	臨地実習	日常生活行動および援助の観察、健康状態の観察 必要な援助の抽出、日常生活行動の援助計画立案						
第3回	臨地実習	日常生活行動の援助の実施 カンファレンス						
第4回	臨地実習	日常生活行動の援助の実施 カンファレンス						
第5回	臨地実習	日常生活行動の援助の実施 カンファレンス						
第6回								
第7回								
第8回								
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	使用せず							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上							
授業時間外の学習	既修学習をもとに、示された課題について記録用紙に記述すること							
履修のポイント	主体的・積極的な学習への取り組みを期待します							
オフィス・アワー	在室時、随時対応します。10号館2階 研究室7 (三木)							

平成27年度 シラバス

科目名	基礎看護学実習Ⅱ (看護過程の展開)		担当者	三木園生ほか	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	2学年	曜日	
			(時間)	(90時間)			時限	
授業の概要	健康障害を体験している一人の患者を受け持ち、患者を全人的にとらえ、ニーズの充足を目指して科学的根拠に基づく日常生活行動の援助を計画・実施・評価するプロセスを学習する。実施においては修得した技術の提供を通し、看護技術の個別化の意義を学ぶ。さらに、看護者としてふさわしい態度を考え、自己を振り返り、看護への理解と関心を深める。							
教育目標	健康障害を体験している一人の患者を受け持ち、患者を全人的にとらえ、ニーズの充足を目指して科学的根拠に基づく日常生活行動の援助を計画・実施・評価するプロセスを学ぶ。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一人の患者を受け持ち、アセスメント、診断、計画、実施、評価の一連の過程を展開する 2. 看護理論に基づいて看護技術を個別化する方法を説明する 3. 質の高い看護を提供するために、倫理観や科学的根拠に基づき、看護を展開することの看護師の責任を説明する 4. 実習の体験を通して看護学の学習上の課題を明示する 							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	臨地実習	病棟オリエンテーション、患者紹介、情報収集カンファレンス						
第2回	臨地実習	情報収集、データの再収集、意味のあるデータの抽出カンファレンス						
第3回	臨地実習	データの再収集、意味のあるデータの抽出カンファレンス						
第4回	臨地／学内実習	データの再収集、意味のあるデータの抽出 関連図作成						
第5回	臨地実習	データの再収集、意味のあるデータの抽出カンファレンス						
第6回	臨地実習	問題の明確化、優先順位の決定、目標の設定カンファレンス						
第7回	学内実習	目標の設定 観察計画・直接ケア計画・教育計画の立案						
第8回	臨地実習	計画の実施・評価カンファレンス						
第9回	臨地実習	計画の実施・評価カンファレンス						
第10回	臨地実習	計画の実施・評価カンファレンス						
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	使用せず							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上							
授業時間外の学習	既修学習をもとに、示された課題について記録用紙に記述すること							
履修のポイント	主体的・積極的な学習への取り組みを期待します							
オフィス・アワー	在室時、随時対応します。10号館2階 研究室7 (三木)							

平成27年度 シラバス

科目名	母子看護学実習		担当者	馬橋和恵	学科	看護学科	開講期	
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	3学年	曜日	
			(時間)	(90時間)			時限	
授業の概要	ライフサイクルの中の周産期にある女性とその家族を中心とした対象を理解し、正常で健康な妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期を送るために必要な看護援助を、体験を通して学習する。さらに生命誕生の場面や対象との関わりを通して、人の生命の尊さ、母子、親子、父子、パートナーシップ、家族の関係について考えるきっかけとする。							
教育目標	母性看護の対象へ寄り添い、看護援助や看護過程の展開を通して母性看護の実際を学ぶ。いのちの誕生場面や誕生の空間において、自分と相手の”いのち”を感じあうことができる。							
到達目標	1) 妊娠・分娩・産褥期および新生児期の対象について、生理的、心理的、社会的特徴を捉え、その理解ができる。 2) 分娩見学、または分娩後早期の褥婦や早期新生児との関わりを通して対象の思いを共感し、対象のスピリチュアルな側面について共に感じることができる。 3) 妊産褥婦、新生児に必要な看護を見学し、体験を通して学ぶことができる。 4) 夫、家族も含め、対象と家族の退院後をイメージした入院中の援助を考えることができる。 5) 産褥期にある対象が自らのより健康な状態を目指し、セルフケアができる看護を展開することができる。 6) 妊産褥婦・新生児の援助を通して、親子の関係、生命の誕生について、自らの思いを表現できる。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回		実習要項参照						
第2回								
第3回								
第4回								
第5回								
第6回								
第7回								
第8回								
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	森恵美他 母性看護学概論 医学書院（2014）、森恵美他 母性看護学各論 医学書院（2014）、病気が見える							
参考書	1. マタニティ診断ガイドブック第4版 日本助産診断・実践研究会 2013 医学書院、太田操編著 2. ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 2013 医歯薬出版株式会社、3. 病気が見える 産科 第4版 MEDIC MEDIA							
成績評価	実習評価表に沿って評価。実習中の対象は受け持ちの方だけではなく、自分やグループメンバーや周囲の人も入ります。看護者として、グループメンバーとしての建設的で協調性ある態度を求め、重視します。							
授業時間外の学習	事前課題の内容や技術に関して、しっかり復習した上で実習に臨みましょう。							
履修のポイント	教員は学生の学習の味方であり、実習中の身体と心を支える存在です。事前または実習中に心配なことがあれば相談してください。母性看護を実践する場で多くの感動と一緒に体験しましょう。（良い体験をするには事前の学習は勿論大							
オフィス・アワー	実習、講義、会議、研究活動などで不在のとき以外は、学生さんといつでも話せるようにお待ちしています。面談予約して下さい。面談予約して下さい。							

平成27年度 シラバス

科目名	小児看護学概論		担当者	加 固 正子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	小児の看護師の役割、小児の特徴、子どもの権利や今日の健康問題、子どもが健やかに成長・発達するための看護方法の基礎を教授する。							
教育目標	小児看護方法を学習するための基礎知識として、子どもの成長・発達にそって子どもの特徴や健康問題について理解する。							
到達目標	1. 小児看護について、歴史的・社会的特徴について述べるができる。 2. 子どもの権利を擁護する視点から、小児の健やかな成長・発達について述べるができる。 3. 小児期の成長と発達にそった主な健康問題とその予防について説明することができる。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	小児看護の目標と看護師の役割		<ul style="list-style-type: none"> ・小児看護の変遷、小児看護の課題 ・小児を取り巻く社会と看護モデル 					
第2回	小児と家族の諸統計		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの病気の特徴・健康問題 乳児期・幼児期・学童期・思春期 					
第3回	小児看護における倫理と子どもの権利		<ul style="list-style-type: none"> ・医療現場で起こりやすい問題 ・自己決定、教育を受ける権利など ・児童虐待防止法(虐待の認識から防止対策まで) 					
第4回	成長と発達の評価 (診査)		<ul style="list-style-type: none"> ・発達評価の意義と評価方法 ・小児各期の健康診査と看護アセスメント 				小テスト 1	
第5回	小児の成長と発達にそった養育や健康問題の理解 1		<ul style="list-style-type: none"> ・新生児から1歳(乳児期)までの養育支援 乳児期の栄養、日常生活の世話、気になる健康問題と看護 					
第6回	小児の成長と発達にそった養育や健康問題の理解 2		<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期前期(活動の広がり和社会性の発達)の健康問題と看護 食事の好き嫌い、排泄の自立、生活リズム、遊びの発達など 					
第7回	小児の成長と発達にそった養育や健康問題の理解 3		<ul style="list-style-type: none"> ・幼児後期(就学前)の健康問題と看護 					
第8回	小児の成長と発達にそった養育や健康問題の理解 4		<ul style="list-style-type: none"> ・学童期・思春期の健康問題と看護 				小テスト 2	
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	奈良間美保：系統看護学講座 専門分野2 小児看護学1 小児看護学概論 13版、医学書院.							
参考書	授業の中で資料を配布する。							
成績評価	単位認定 60 点以上 小テスト2回 (20点)、最終テスト (40点)、体験レポート (40点) を総合して評価する。							
授業時間外の学習	授業の復習、および「乳幼児の世話や遊び体験」を確実にい子子どもの理解を具体的に深めること。							
履修のポイント	乳幼児の世話をしたことや普段の観察から得たことを生かし、授業で学んだことを「やってみる」ことである。							
オフィス・アワー	研究室にいる時はいつでも							

平成27年度 シラバス

科目名	小児看護学方法		担当者	阿久澤 智恵子	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	2学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	60時間		時限		
授業の概要	成長・発達過程で抱える健康問題（疾病・障害）をもつ子どもを理解し、子どもの発達段階と健康段階にあった基本的援助方法を思考できるよう、①子どもの健康評価、②疾病・障害をもつ子どもと家族の特徴、③疾病・障害疾患の病態生理と治療、④事例を用いた看護過程の展開方法、⑤子どもへの基礎的な看護技術を教授する。							
教育目標	小児看護学概論で学んだ『健康な子どもの理解』を基に、成長・発達過程で抱えた健康問題（疾病・障害）が子どもとその家族に及ぼす影響を理解し、成長・発達段階と健康段階に応じた子どもと家族への基本的な援助を提供できるよう知識と技術の習得を目指す。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの健康問題が及ぼす子どもと家族への影響を思考し説明できる。 2. 子どもの健康問題のアセスメントの意義と方法について説明できる。 3. 子どもの健康問題の病態生理と主要症状・治療・処置を理解し記述する。 4. 健康問題のある子どもの成長・発達段階別・症状別・経過別看護について根拠を明確にし説明できる。 5. 小児看護実践に必要な基礎的な看護技術を習得できる。 							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	病気や入院が子どもや家族に与える影響	発達段階別にみた入院・療養生活（小児の病気の理解と受容、入院適応への援助）、子どもの家族・同胞の反応と看護						
第2回	入院中の子どもと家族の看護	入院中の子どもと家族の特徴と看護						
第3回	小児外来における子どもと家族の看護	外来を受診する子どもと家族の特徴と看護						
第4回	在宅療養中の子どもと家族の看護	在宅療養中の子どもと家族の特徴と看護						
第5回	健康問題をもつ子どもに必要な小児看護技術1)	子どもとのコミュニケーション技術 (インフォームドコンセント・インフォームドアセント・プレパレーション)						
第6回	健康問題をもつ子どもに必要な小児看護技術2)	子どものフィジカルアセスメント 発達段階別バイタルサインのとり方・計測・測定						
第7回	健康問題をもつ子どもに必要な小児看護技術3)	治療に伴う看護技術（検体採取・与薬・注射）						
第8回	子どもにみられる主な症状と看護 1)	小児に見られる症状の特徴と看護 ①啼泣・不機嫌 ②呼吸困難 ③チアノーゼ ④ショック ⑤発熱						
第9回	子どもにみられる主な症状と看護 2)	⑥悪心・嘔吐 ⑦下痢・便秘 ⑧脱水 ⑨浮腫						
第10回	子どもにみられる主な症状と看護 3)	⑩けいれん ⑪意識障害 ⑫発疹 ⑬黄疸						
第11回	急性症状のある子どもと家族の看護 1)	急性期の健康問題をもつ子どもと家族の特徴とアセスメントの視点 【事例より】 川崎病（乳児期）					第1回ミニテスト15分（第5回～10回）	
第12回	急性症状のある子どもと家族の看護 2)	急性期の健康問題をもつ子どもと家族の看護方法 【事例より】 川崎病（乳児期）						
第13回	急性症状のある子どもと家族の看護 3)	急性期の健康問題をもつ子どもと家族の特徴とアセスメントの視点・看護方法 【事例より】 ウィルス性胃腸炎（幼児期）						
第14回	急性症状のある子どもと家族の看護 4)	急性期の健康問題をもつ子どもと家族の特徴とアセスメントの視点・看護方法 【事例より】 急性気管支炎（乳児期）						
第15回	手術を受ける子どもと家族の看護 1)	手術を受ける子どもと家族の特徴とアセスメントの視点 【事例より】 ヒルシュスプルング病（乳児期）						
第16回	手術を受ける子どもと家族の看護 2)	手術を受ける子どもと家族の看護方法 【事例より】 ヒルシュスプルング病（乳児期）						

平成27年度 シラバス

第17回	手術を受ける子どもと家族の看護 3)	手術を受ける子どもと家族の特徴とアセスメントの視点・看護方法 【事例より】アデノイド増殖症(幼児期)	
第18回	ターミナル期にある子どもと家族の看護	ターミナル期にある子どもと家族の特徴とアセスメントの視点・看護方法 【事例より】白血病(学童期)	
第19回	ハイリスク新生児の看護	NICU看護:ハイリスク新生児の生涯発達を考慮した看護の実際	NICU認定看護師 中井さん
第20回	小児の事例の展開方法 1)	子どもの特徴を踏まえた情報収集の視点とアセスメント方法 【事例1】I型糖尿病(学童期) 【事例2】ネフローゼ症候群(幼児期)	第2回ミニテスト15分(第11~18回)
第21回	小児の事例の展開方法 2)	情報の整理・アセスメント・看護問題の明確化	グループワーク
第22回	小児の事例の展開方法 3)	関連図・看護計画立案	グループワーク
第23回	小児の事例の展開方法 4)	グループによる課題のまとめと発表の準備	グループワーク
第24回	小児の事例の展開方法 5)	グループによる課題のまとめと発表の準備	グループワーク
第25回	小児の事例の展開方法 6)	グループ発表・まとめ(I型糖尿病:学童期)	
第26回	小児の事例の展開方法 7)	グループ発表・まとめ(ネフローゼ症候群:幼児期)	
第27回	小児の基本的な看護技術 1)	【看護技術演習ガイダンス】演習項目の講義とデモンストレーション	
第28回	小児の基本的な看護技術 2)	技術演習	
第29回	小児の基本的な看護技術 3)	技術演習	
第30回	小児の基本的な看護技術 4)	技術演習の復習とまとめ	技術レポート提出
教科書	系統看護学講座 小児看護学概論・小児臨床看護総論・小児臨床看護各論(医学書院) 写真で見る小児看護技術(インターメディカ)		
参考書	子どもの病気の地図帳(講談社), 子どものフィジカルアセスメント(金原書店)		
成績評価	単位認定 60点以上	技術・GW参加10%, 提出物20%(2回分), ミニテスト30%(2回分), 本テスト40%	総合100%で評価
授業時間外の学習	教科書と配布資料を中心に講義の予習復習を行う。シラバスにある疾患に関連する臓器や症状の基本的な解剖生理を復習する。		
履修のポイント	日頃から身近な子どもに興味関心を持って観察をする。わからないことや疑問点は早めに質問する。		
オフィス・アワー	実習・会議・研修以外は研究室にいます。アポイントをとってから訪室ください。akuzawa-chi@kiryu-u.ac.jp		

平成27年度 シラバス

科目名	小児看護学実習		担当者	加固正子・阿久澤智恵子	学科	看護学科	開講期		
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	3学年	曜日		
	教職科目	(必修)	(時間)	90時間			時限		
授業の概要	NICU、幼稚園、特別支援学校、小児病棟、小児科外来の実習を通して、子どもに関わる保健・医療・教育チームの各役割と連携、チームの中における看護師の役割について考える。さらに小児病棟における実習では、一人の患児とその家族を受け持ち成長・発達段階や健康段階を捉えながら健康上の問題を抽出し、その問題を解決するための計画・実施・評価を行う。								
教育目標	様々な成長・発達段階にある子どもとその家族の特徴を理解し、健康上の問題をもつ子どもとその家族に必要な看護援助を実践する基礎的能力を養う。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる。 2. 子どもの健康段階、成長・発達段階、個性に応じたコミュニケーションを図ることができる。 3. 健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響を理解できる。 4. 小児期にある対象とその家族の持つ看護問題を明らかにし、看護過程を展開することができる。 5. 子どもの安全管理に関する看護師の責任を自覚し、感染管理および事故防止に努めることができる。 6. 子どもに関わる保健・医療・福祉・教育チームの各役割と連携、チームの中における看護師の役割を理解できる。 								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容					備考		
第1回	病棟実習	入院患児を受け持ち、病棟スタッフと連携しながら根拠を明確にした上で看護ケアの実践を行う。							
第2回	外来実習	外来診療の場面にに関わり、様々な発達段階にある子どもとその家族の診療の介助を行い、小児科外来における看護師の役割や看護援助の実際を体験する。							
第3回	NICU実習	NICUの環境特性から、周産期におけるハイリスク乳児とその家族に対する看護の実際を見学する。							
第4回	幼稚園実習	幼児教育の活動に参加し、園児と行動を共にしながら幼児期の子どもの発達の特徴を捉え、それを踏まえた基本的生活習慣獲得への援助、事故防止、かかわり方を体験する。							
第5回	特別支援学校	教員のオリエンテーションを受け、学校の環境を見学し、特別支援学校で学ぶ意義を理解する。また、看護師としての支援のあり方を考える。							
第6回									
第7回									
第8回									
第9回									
第10回									
第11回									
第12回									
第13回									
第14回									
第15回									
教科書	「小児看護学概論/小児保健」「健康障害をもつ小児の看護」メヂカルフレンド社、「写真でわかる小児看護技術」インターメディカ								
参考書	「こどものフィジカルアセスメント」金原出版、「こどもの病気の地図帳」講談社								
成績評価	単位認定 60 点以上 事前学習、実習内容、記録物の内容、提出物の提出状況などを総合的に評価する。								
授業時間外の学習	小児の代表的疾患の病態生理・検査・治療・観察項目について学習する。								
履修のポイント	日常生活において意図的に子どもに関わるようにし、成長・発達段階の特徴を捉えるよう心がけて下さい。								
オフィス・アワー	事前にアポイントを取って下さい。 Kako-ma@kiryu-u.ac.jp (加固) akuzawa-chi@kiryu-u.ac.jp (阿久澤)								

平成27年度 シラバス

科目名	成人看護学概論		担当者	伊藤 美鈴	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日	
			(時間)	15時間			時限	
授業の概要	成人期における正常な健康状態および正常から逸脱した健康状態とその回復過程に関する学習を前提とする。成人期の身体・心理・社会的変化の特徴を踏まえ、その生涯発達における潜在的・顕在的な健康上の問題およびその解決に向けて必要な看護実践並びに看護職者の役割について学習する。							
教育目標	成人期にある対象の発達上の特徴を踏まえて看護を展開する意義を学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期における看護の対象および看護の目標を理解する。 2. 成人期に生じやすい健康問題が対象と家族に及ぼす影響を理解する。 3. 成人期における人間の発達と健康の特徴を踏まえ個別的に看護を展開する必要性を理解する。 4. 成人期における看護職者の役割を理解する。 							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	成長発達の特徴	社会における「成人の定義」、成長発達段階における成人期の位置づけ、成人各期の成長発達・健康問題					講義	
第2回	身体機能の特徴	身体機能の安定性と変化、加齢・疾患・外傷・生活習慣・生活行動による影響、身体機能の理解に基づく看護、身体機能の変調にあわせた看護、アセスメントの視点					講義	
第3回	成人期に見られる健康障害	生活習慣病の種類と発生状況、職業性疾病・業務上疾病、ストレス関連疾患、性的健康、余暇活動の特徴と健康障害、更年期障害の原因と症状					講義	
第4回	健康観の多様性	健康観についての最近の動向、主要な健康観、個人の健康観に影響を及ぼす要因、個人の健康観を理解する方法					講義	
第5回	成人への看護に有用な概念 ①セルフケア、②ストレス、 ③危機	①セルフケアとは、セルフケアとオレムの看護理論、セルフケアと成人看護②ストレスとは、ストレスコーピングプロセスに関連する主要な概念、ストレスマネジメント、③危機とは、危機の特徴、危機介入					講義	
第6回	成人への看護に有用な概念 ④適応、⑤自己効力、⑥ヘルスプロモーション	④適応とは、成人看護と適応、ロイ適応看護モデルの概要、⑤自己効力とは⑥ヘルスプロモーションとは、ヘルスプロモーションの目標、ヘルスプロモーション活動のプロセスと方法					講義	
第7回	成人の学習の特徴と教育	大人の学びの特徴、成人教育学の概念（アンドラゴジーモデル）、生命の危機状態と学習、中途障害状況と学習、慢性病と学習					講義	
第8回	成人期における看護の特徴と看護職者の役割	グループディスカッション後、発表					演習	
教科書	安酸史子他：ナーシング・グラフィカ②成人看護学-成人看護学概論，メディカ出版，2015.							
参考書	授業中に資料を配布する。参考書等は必要に応じて授業中に提示する。							
成績評価	単位認定 60 点以上 レポート10%、講義終了後のテスト90%による総合評価							
授業時間外の学習	各回の授業内容を復習し、レポートをまとめる。							
履修のポイント	自身も成人であることを意識して興味関心をもって観察する。わからないことや疑問点は早めに質問する。							
オフィス・アワー	実習・会議・研修以外は研究室にいます。その都度、教員にアポイントをとってください。							

平成27年度 シラバス

科目名	成人看護方法Ⅰ（慢性期）		担当者	伊藤 美鈴	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	2学年	曜日	
			(時間)	(60時間)			時限	
授業の概要	この授業は、「成人看護学概論」において学習した成人期にある正常な健康状態及び正常から逸脱した健康状態とその回復過程に関する理解を前提とする。この時期の人間の潜在・顕在する健康上の問題を解決・回避し、健全な発達を支援するための方法を学習する。また、この過程を通し効果的な看護を展開するために研究成果に基づく知識・技術を活用する意義を理解する。							
教育目標	成人期にある対象の健全な発達支援に向けて、個性に応じた看護を展開する方法を学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある対象の潜在・顕在する健康問題をアセスメントする。 2. 健康問題の解決・回避に向けた個別的な看護実践の方法を理解する。 3. 健康問題を解決回避するために必要な看護を、成人の対象に応じて展開する方法を理解する。 4. 成人期にある対象の特性に応じて看護実践を個別化する意義を認める。 							
授業計画								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	成人期にある対象の健康問題を理解する必要性とその方法①	学科目カイダンス：看護診断と看護過程1)				講義		
第2回	成人期にある対象の健康問題を理解する必要性とその方法②	学科目カイダンス：看護診断と看護過程2)				講義		
第3回	呼吸機能障害のある対象への看護①	呼吸機能障害のある対象への看護 1) 症状アセスメント 2) 検査・治療とその看護				講義		
第4回	呼吸機能障害のある対象への看護②	呼吸機能障害のある対象への看護 3) 呼吸機能障害の代表的疾患とその看護				講義		
第5回	消化・吸収機能障害のある対象への看護①	消化・吸収機能障害のある対象への看護 1) 症状アセスメント 2) 検査・治療とその看護				講義		
第6回	消化・吸収機能障害のある対象への看護②	消化・吸収機能障害のある対象への看護 3) 呼吸機能障害の代表的疾患とその看護				講義		
第7回	肝機能障害のある対象への看護①	肝機能障害のある対象への看護 1) 症状アセスメント 2) 検査・治療とその看護				講義		
第8回	肝機能障害のある対象への看護②	肝機能障害のある対象への看護 3) 呼吸機能障害の代表的疾患とその看護				講義		
第9回	代謝機能障害のある対象への看護①	代謝機能障害のある対象への看護 1) 症状アセスメント 2) 検査・治療とその看護				講義		
第10回	代謝機能障害のある対象への看護②	代謝機能障害のある対象への看護 3) 呼吸機能障害の代表的疾患とその看護				講義		
第11回	代謝機能障害のある対象への看護③	演習①食品交換表を使用した献立作成 演習②自己血糖測定				講義		
第12回	腎・泌尿器機能障害のある対象への看護	腎・泌尿器機能障害のある対象への看護 1) 症状アセスメント、2) 検査・治療とその看護 3) 呼吸機能障害の代表的疾患とその看護				講義		
第13回	血液・免疫系機能障害のある対象への看護	血液・免疫系機能障害のある対象への看護 1) 症状アセスメント、2) 検査・治療とその看護 3) 呼吸機能障害の代表的疾患とその看護				講義		
第14回	脳・神経系機能障害のある対象への看護	脳・神経系機能障害のある対象への看護 1) 症状アセスメント、2) 検査・治療とその看護 3) 呼吸機能障害の代表的疾患とその看護				講義		
第15回	成人期にある対象の健康問題を理解する必要性とその方法③	看護診断と看護過程2) 概念枠組みの説明				講義		
第16回	成人期事例による看護過程の展開①	演習オリエンテーション				講義		
第17回	成人期事例による看護過程の展開②	記録用紙の説明：「病態関連図」、「看護の原則と症状別看護」、「治療・処置・検査別看護」、「発達課題」				講義		
第18回	成人期事例による看護過程の展開③	演習：「病態の関連図」、「看護の原則と症状別看護」、「治療・処置・検査別看護」、「発達課題」				演習		

平成27年度 シラバス

第19回	成人期事例による看護過程の展開④	記録用紙の説明：「受け持ち時データベース」、「初期問題把握用紙」、「初期計画」 演習：「受け持ち時データベース」、「初期問題把握用紙」、「初期計画」	講義 演習
第20回	成人期事例による看護過程の展開⑤	演習：「受け持ち時データベース」、「初期問題把握用紙」、「初期計画」	演習
第21回	成人期事例による看護過程の展開⑥	演習：12項目のアセスメント	演習
第22回	成人期事例による看護過程の展開⑦	演習：12項目のアセスメント	演習
第23回	成人期事例による看護過程の展開⑧	演習：12項目のアセスメント	演習
第24回	成人期事例による看護過程の展開⑨	記録用紙の説明：「クラスタリング」、「看護計画用紙」 演習：12項目のアセスメント	講義 演習
第25回	成人期事例による看護過程の展開⑩	演習：12項目のアセスメント「クラスタリング」、「看護計画用紙」	演習
第26回	成人期事例による看護過程の展開⑪	演習：「クラスタリング」、「看護計画用紙」	演習
第27回	成人期事例による看護過程の展開⑫	記録用紙他の説明：「指導計画書」、指導媒体の説明 演習：指導計画書、指導媒体の作成	講義 演習
第28回	成人期事例による看護過程の展開⑬	演習：「指導計画書」、指導媒体の作成	演習
第29回	成人期事例による看護過程の展開⑭	記録用紙他の説明：「対象者の関連図」、「サマリー」 演習：「対象者の関連図」、「サマリー」	講義 演習
第30回	成人期事例による看護過程の展開⑮	演習：「対象者の関連図」、「サマリー」	演習
教科書	リンダJカルペニート＝モイエ，新道幸恵監訳：看護診断ハンドブック第10版，医学書院。 鈴木志津枝他編集：成人看護学慢性期看護論第3版，ヌーヴェルヒロカワ。		
参考書	浅野浩一郎他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔2〕呼吸器，医学書院。 松田明子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕消化器，医学書院。 黒江ゆり子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔6〕内分泌・代謝，医学書院。 大東貴志他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔8〕腎・泌尿器，医学書院。 飯野京子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔4〕血液・造血器，医学書院。 井手隆文他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔7〕脳・神経，医学書院。 日本糖尿病学会編：糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版，文光堂。 浅野嘉延編集：看護のための臨床病態学，南山堂。 矢田昭子編集：基準看護計画 第2版，照林社。		
成績評価	単位認定 60 点以上 演習の参加状況5%、看護過程展開レポート50%、講義終了後のテスト45%		
授業時間外の学習	各回の授業内容を復習し、レポートをまとめる。		
履修のポイント	日常生活の中で周囲の人々との関わりを通して、慢性疾患を有する患者の理解を深める。		
オフィス・アワー	実習・会議・研修以外は研究室にいます。その都度、教員にアポイントをとってください。		

平成27年度 シラバス

科目名	成人看護学方法Ⅱ		担当者	林かおり	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	2学年	曜日	時限
			(時間)	(60時間)				
授業の概要	周手術期及び急性期にある対象の特徴について学び、必要な看護援助の方法について理解を深める。							
教育目標	周手術期及び急性期における対象の理解から看護方法の実践的知識を習得する。							
到達目標	1. 周手術期及び急性期にある対象の看護上の問題を理解する。 2. 対象の健康の維持・増進及び健康障害からの回復に必要な看護方法について理解をする。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	周手術期看護論		周手術期の考え方、概念や理論から考える周手術期看護の援助方法					
第2回	周手術期に起こる生体の変化		外科的侵襲からの回復期の生体反応、外科的侵襲の種類					
第3回	手術過程に応じた看護支援①		手術前・中の看護、麻酔導入前後の看護					
第4回	手術過程に応じた看護支援②		手術後の全身管理の方法、術後合併症について及び発症時の看護					
第5回	手術過程に応じた看護支援③		術後の継続看護、術後看護のポイント					
第6回	手術過程に応じた看護支援④		回復期の看護、身体機能変化と必要となるセルフケア能力、リハビリテーション看護					
第7回	各手術時の看護支援①		消化代謝器官に障害のある人の手術（上部消化管）					
第8回	各手術時の看護支援②		消化代謝器官に障害のある人の手術・腹腔鏡下手術					
第9回	各手術時の看護支援③		消化代謝器官に障害のある人の手術（下部消化管）					
第10回	各手術時の看護支援④		その他の消化管手術を受ける人の看護					
第11回	各手術時の看護支援⑤		運動器に障害のある人の手術（大腿骨頸部骨折等）					
第12回	各手術時の看護支援⑥		運動器に障害のある人の手術（脊髄疾患等）					
第13回	各手術時の看護支援⑦		脳神経器官に障害のある人の手術					
第14回	各手術時の看護支援⑧		脳神経器官に障害のある人の手術					
第15回	各手術時の看護支援⑨		排泄器官に障害のある人の手術					
第16回	各手術時の看護支援⑩		排泄器官に障害のある人の手術					
第17回	各手術時の看護支援⑪		感覚器官に障害のある人の手術（眼・耳・鼻）					
第18回	各手術時の看護支援⑫		感覚器官に障害のある人の手術（皮膚・神経系各種）					

平成27年度 シラバス

第19回	各手術時の看護支援⑬	性・生殖器に障害のある人の手術	
第20回	各手術時の看護支援⑭	内分泌器官に障害のある人の手術	
第21回	看護過程の展開：演習①	事例による看護展開	
第22回	看護過程の展開：演習②	事例による看護展開	
第23回	看護過程の展開：演習③	事例による看護展開、まとめ等	
第24回	看護過程の展開：演習③	事例による看護展開、まとめ等	
第25回	技術演習①	急性期・周手術期における看護技術演習	
第26回	技術演習②	急性期・周手術期における看護技術演習	
第27回	周手術期各部門の看護①	救急時の看護、ICU入室患者の看護（非常勤講師による講義）	桐生厚生総合病院 ICUスタッフからの 講義
第28回	周手術期各部門の看護②	日帰り手術・外来での手術を必要とする人の看護	
第29回	周手術期看護のまとめ	周手術期の考え方、週手術期看護の援助方法	
第30回	周手術期専門部門での看護	手術室看護と専門性について（非常勤講師による講義）	桐生厚生総合病院手術室師長による講義
教科書	「周手術期看護論」：ヌーベルヒロカワ、「急性期・周手術期Ⅰ」：中央法規		
参考書	系統看護学講座 各科専門分野：医学書院、竹内登美子「術中/術後の生体反応と急性期看護」医歯薬出版株式会		
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験80%、レポート・演習等の課題内容20%		
授業時間外の学習	講義資料を活用し、臨地実習でも使用できるようなノートを作成することを工夫して下さい。		
履修のポイント	既習学習をふまえ、主体的・積極的に参加をすること。		
オフィス・アワー	在室時に対応をします。		

平成27年度 シラバス

科目名	成人看護学実習Ⅱ		担当者	林 かおり・佐藤聖一	学科	看護学科	開講期	
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	3学年	曜日	
			(時間)	(90時間)			時限	
授業の概要	1. 外科領域の病棟・手術室・ICUで実習を行う。 2. 周手術期または急性期にある患者を受け持ち、看護過程の展開、必要な援助を考え、実施及び評価をする。							
教育目標	成人各期の健康のあらゆる段階における患者の健康上の問題を理解し、健康の維持・増進、健康障害からの回復と社会復帰に向けて必要な看護の実践能力を養う。							
到達目標	1. 周手術期及び急性期にある患者の特徴をふまえて、対象の理解をする。 2. 手術を受ける患者の看護について理解をする。 3. 回復過程の段階をふまえ、患者に必要な援助を考案し実施できる。 4. 患者が健康の維持及び増進を図るための社会資源の活用と援助について理解をする。 5. 患者を支える家族の役割を理解し、その家族をも含めた援助の必要性について理解をする。 6. 保健医療チームの一員としての看護師の役割について理解をする。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回		周手術期患者の特徴を知り看護援助を考え実施・評価・修正をする						
第2回		成人各期の特徴をふまえて対象を理解する						
第3回		障害された健康段階と健康障害の状況にある対象の理解をする						
第4回		健康の維持・増進のための社会資源活用と援助について理解をする						
第5回		各健康段階にある対象に対して必要な援助がわかり、実践ができる						
第6回		急性期にある患者の特徴が述べられる						
第7回		急性期にある患者の特徴を踏まえた看護の理解ができる						
第8回		手術患者の特徴を理解し手術前・中・後に必要な看護が理解できる						
第9回		手術後、身体機能に障害を持ちながら生活する人への理解を深める						
第10回		保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割を認識できる						
第11回		病棟以外での看護を学ぶ（手術室、ICU、リハビリ室）						
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	「周手術期看護論」：ヌーベルヒロカワ、「急性期・周手術期Ⅰ」：中央法規							
参考書	各種疾病に関する看護の書籍、成人看護方法論Ⅱで使用した資料等							
成績評価	単位認定 60 点以上 実習目標の達成度、実習記録、事前学習の内容等によって総合的に、臨床指導者とともに評価							
授業時間外の学習	記録物を実習終了後、その日のうちにまとめること、翌日の実習に備えての予習及び資料等をそろえて下さい。							
履修のポイント	既存学習をふまえ、主体的・積極的に実習にのぞむこと。受け持ち患者の病態生理を把握すること。							
オフィス・アワー	在室時及び実習病院で対応をします。							

平成27年度 シラバス

科目名	セルフケア論		担当者	豊田省子	学科	看護学科	開講期	後期	
区分	専門科目	選択	単位	1単位	学年	2年生	曜日		
			(時間)	(15時間)			時限		
授業の概要	セルフケア論の概要と背景を理解することで、その成り立ちと看護への活用方法を学ぶ。								
教育目標	健康の保持増進のための正しい知識を理解し自らの健康を守るという「セルフケア論」を理解する。本授業ではオレムの看護理論をとりあげ、その理論的背景や概要を学ぶことでセルフケア論を理解する。								
到達目標	1. セルフケア論の位置づけを知る。 2. オレムの看護論を通して、セルフケア論を理解できる。 3. 事例演習を通して、オレムの看護理論の活用方法を理解できる。								
授業計画									
回	主題	授業内容					備考		
第1回	看護理論の中におけるセルフケア論論の位置づけ	看護の本質と看護理論 各理論家における理論の中でのセルフケア論 看護理論に関する国家試験問題の紹介					講義		
第2回	看護理論をわかるためにその骨組みを見てみよう	セルフケア論と看護理論 システム理論と看護理論 ドロセア・オレムの概念構造 基礎的前提 オレムは人間をどう見ているか(人間観) 理論的概念など					講義		
第3回	オレムの看護理論における主要な概念とは何か	セルフケア 治療的セルフケア・デマンド セルフケア・エージェンシー セルフケア不足 看護エージェンシー 看護システム					講義		
第4～7回	事例を用いてオレムの看護理論を理解しよう	事例紹介 対象の把握 援助について(看護目標・計画) セルフケアができない人に対する援助が看護師の役割					演習		
第8回	まとめ ・患者が持っているセルフケア能力に着目しよう ・患者の自立を促す援助をしよう	オレムってどんな人?(オレムの経歴・略歴) エンパワメント 動機づけへの援助 意思決定への援助					講義		
教科書	指定する教科書は特にありません。必要な教材は、授業資料として毎回配布します。								
参考書	授業の中で、適宜紹介します。								
成績評価	単位認定 60 点以上 : 授業内小テスト50%・課題レポート50%で総合的に評価します。								
履修のポイント	①看護理論は看護実践の道しるべとなるもので、さまざまな現象場面で揺るぎない考え方を示唆してくれます。積極的に討議に参加することで主体的に学び取って、自己の看護実践のいしづえにしていきたいと思います。								
	②毎回、自筆による「リアクション・ペーパー」の提出を求めます。授業への感想・意見・要望・質問などが書かれていることによって、授業に出席したことを認めます。したがって白紙で提出された場合や学籍番号と氏名が不一致の場合は個人の特典ができませんので出席とはなりません。リアクション・ペーパーは、授業終了時にのみ受領します。白紙の提出、学籍番号の間違い、後日の提出は欠席扱いとなりますのでご注意ください。								
	③毎回の授業をしっかりと聞くことが大切です。その内容に関する「小テスト」を授業中に行います。着実に学びを蓄積していきましょう。								
授業時間外の学習	小テストでできなかったところは復習をしましょう。								
	関連する科目は、「看護学原論ⅠとⅡ」「看護技術学Ⅳ(看護過程演習)とⅤ(健康教育)」「基礎看護学実習Ⅰ(日常生活支援技術)とⅡ(看護過程の展開)」「機能看護学概論」などが考えられます。これらの科目との知識の統合を図りましょう。								
オフィス・アワー	授業日の授業開始前あるいは終了後に教室で相談に応じます。								

平成27年度 シラバス

科目名	クリティカルケア論		担当者	高橋 陽子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門基礎科目	選択	単位	1単位	学年	4学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)				時限	
授業の概要	重症患者の多いクリティカルケア看護で最も重要なことは全身管理の知識とその応用方法である。特に中枢神経、呼吸、循環、水・電解質その他に関する最新理論・知識を深める。また、過大侵襲を受け、クリティカルな状態に陥った患者および家族に対して必要な看護とは何かを論理的、かつ潜在的問題を客観的に判断・解決する方法を学ぶ。							
教育目的	クリティカルケア看護の知識と実践能力を身につける							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・クリティカルケアについて理解できる ・クリティカルケアを必要とする患者家族のニーズが理解できる ・クリティカル患者のアセスメント、主要病態の特徴とケアが理解できる ・クリティカルケアの看護実践を支える理論的枠組みを説明できる 							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	クリティカルケア看護について	クリティカル看護のスペシャリストの役割をDVDから看護実践の本質を理解する						
第2回	クリティカルケア看護における患者・家族の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ICU患者の心理的な過程を理解する ・家族のニーズを理解する 						
第3回	クリティカルケア看護における臨床判断・問題解決	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床において原因を考える場合の思考法の特徴を理解する ・EBPとは何かを理解する 						
第4回	クリティカルケア看護におけるアセスメント	中枢神経系・循環動態・呼吸器系のアセスメントの実際を理解する						
第5回	水と電解質のアセスメント	体液管理の基本と輸液療法について理解する						
第6回	鎮静と沈痛 せん妄	<ul style="list-style-type: none"> ・安楽を確保することの重要性を理解する ・適切な疼痛評価を理解する ・せん妄の特徴を理解する 						
第7回	酸素療法と人工呼吸によるサポート	<ul style="list-style-type: none"> ・酸素療法の種類とそれぞれの種類の長所と短所を理解する ・自然呼吸と人工呼吸の違いを理解する ・調節呼吸の違いを理解する 						
第8回	人工呼吸中の合併症予防	<ul style="list-style-type: none"> ・人工呼吸器関連肺炎(VAP)とは何かを知る ・人工呼吸器関連肺炎(VAP)の一般的な予防法を理解する 						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	授業時に資料を配布する							
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・道又元裕ら. クリティカルケア看護学. 医学書院・卯野木健. クリティカルケア看護入門. 学研メディカル秀潤社 ・安酸史子ら. 健康危機状況 ナーシング・グラフィカ. MCメディカ出版 							
成績評価	単位認定 60 点以上							
授業時間外の学習								
履修のポイント								
オフィス・アワー								

平成27年度 シラバス

科目名	精神看護学概論		担当者	田中光子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	心の健康問題についての理解を深め、現代社会における精神保健・医療・福祉の活動とあり方を考える。また、精神保健福祉制度を理解し、精神看護の機能と役割を学習し、精神障がい者の人権について学ぶ							
教育目標	精神看護の機能と役割について学び、人を援助するための基本と態度を理解する。							
到達目標	1. 精神看護学の基本的な考え方を理解する。 2. 精神の健康と障害について理解する。 3. 人間の心のはたらきと人との関係性について理解する。 4. 精神障害の治療の歴史および法制度について理解する。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	精神看護学について	ころころー精神とは 精神看護学とは 精神看護学の基本的な考え						
第2回	精神の健康と障害	精神の健康とは 精神障がいの捉えかた						
第3回	人間の心のはたらき	人間の心の諸活動 心のしくみと人格の発達①						
第4回	人間の心のはたらき	心のしくみと人格の発達② 危機介入とストレス理論						
第5回	関係のなかの人間	全体としての家族 人間と集団						
第6回	精神科で出会う人々と治療	精神を病むことと生きること 精神科における治療						
第7回	社会のなかの精神障がい①	精神障がいと治療の歴史 日本における精神医学・精神医療の流れ						
第8回	社会のなかの精神障がい②	精神障がいと法制度						
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学〔1〕							
参考書	オレムのセルフケアモデル事例を用いた看護過程の展開							
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験80%、レポート・授業参加度20%							
授業時間外の学習	精神看護学演習、精神看護学実習の履修時の基盤となる知識であるため、配布資料やノートを整理し講義資料の熟読を復習として勧めます。予習は行ってください。							
履修のポイント	既習学習をふまえ、主体的・積極的に参加すること。							
オフィス・アワー								

平成27年度 シラバス

科目名	精神看護方法		担当者	田中光子	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	精神看護学概論で学んだ知識をもとに、精神疾患を有する人、または精神的困難を抱えている人の状態を理解し、多角的にアセス面を行い、ケアプランを立案できるか能力を養う。精神疾患を持つ人や家族に対して、看護が果たす役割と課題を習得することを目指す。							
教育目標	精神疾患および精神的困難を持つ人を理解させ、必要な看護を実践するための知識とアセスメント技術、看護実践の方法を習得させる。							
到達目標	①精神を病む人の生活背景を尊重し、その心理を理解し看護の役割について考えることができる。 ②精神科看護における治療的コミュニケーションについて理解する。 ③事例を通して看護の展開方法を理解する。 ④当事者の体験から、自己の看護観を育み、生活者としての視点を理解する。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	ケアの人間関係	ケアの原則 ケアの方法						
第2回	ケアの人間関係	プロセスレコードの活用方法 患者－看護師関係でおこること チームのダイナミクス						
第3回	精神科における看護の役割	入院治療の意味を理解する 治療的環境						
第4回	精神科における看護の役割	安全を守る 緊急事態に対処する						
第5回	精神科における看護の役割	精神科におけるリハビリテーション 回復を支える様々な方法						
第6回	精神科における看護の役割	退院支援 訪問看護						
第7回	身体のケア	精神科の治療と身体のケアの実際						
第8回	身体のケア	身体合併症 行動制限と看護						
第9回	日常生活援助	日常生活援助 活用する技術						
第10回	地域における精神看護	地域で生活するための原則 生活を支える制度 地域での看護の実際						
第11回	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス	感情労働としての看護 感情労働を生きのびるために						
第12回	統合失調症の人の看護	情報収集 アセスメント 看護問題 ケア計画						
第13回	統合失調症の人の看護	看護過程の展開（演習）						
第14回	統合失調症の人の看護	看護過程の展開（演習）						
第15回	当事者の体験	伊勢崎地域活動支援センターの概要 当事者の体験						
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学〔2〕、オレムのセルフケアモデル事例を用いた看護過程の展開							
参考書	精神看護学 ころろ・からだ・かかわりのプラクティス（南江堂）							
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験90%、レポート・授業参加態度10%							
授業時間外の学習	精神看護学演習、精神看護学実習の履修時の基盤となる知識であるため、配布資料やノートを整理し講義資料の熟読を復習として勧めます。予習は行ってください。							
履修のポイント	既習学習をふまえ、主体的・積極的に参加すること。							
オフィス・アワー								

平成27年度 シラバス

科目名	高齢期看護学概論		担当者	林 圭子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日	
			(時間)	(45時間)			時限	
授業の概要	65歳以上の高齢者が増加し、医療、福祉に関する話題は社会的関心事になっている。本授業では、高齢者を理解するために必要な知識を学習する。さらに高齢者を取り巻く社会環境とその課題について学ぶ。							
教育目標	高齢者の特徴を学び、高齢社会の現状を理解する。特に加齢にともなう生理的变化や高齢者看護の基本的考え方を理解する							
到達目標	1. 老いについて学び、高齢期の発達課題を理解する 2. 高齢社会の現状を理解する 3. 高齢者看護の基本的考え方を理解する 4. 高齢者の加齢による変化を理解する							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	高齢者とは？	1. 老いとは 2. 老年期とは 3. 老年期の発達課題						
第2回	高齢者を取り巻く社会①	1. 高齢化の特徴 2. 高齢者医療						
第3回	高齢者を取り巻く社会②	1. 高齢者の介護・福祉 2. 高齢社会における権利擁護						
第4回	高齢者の特徴	1. からだ 2. こころ 3. 関わり 4. 暮らし 5. 生きがい 6. 歳月の積み重ね						
第5回	高齢者看護の理念と目標	1. 高齢者看護の理念 2. 高齢者看護の目標 3. 理論・概念の活用						
第6回	高齢期看護学における対象者理解①	1. 対象の特性 2. 対象理解 3. 対象理解に活用できる指標・アセスメント						
第7回	高齢期看護学における対象者理解②	1 加齢による身体機能の変化 2. 加齢による精神機能の変化						
第8回	生活療養の支援と尊厳ある介護と看取り	1. 老年症候群 2. 廃用症候群 3. 尊厳ある介護 4. 尊厳ある看取り						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書								
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験80% 課題レポート20%							
履修のポイント	課題レポートの提出、授業の復習が重要です。身近な高齢者に目を向けて考えてください。							
オフィス・アワー	在室時に対応します。							

平成27年度 シラバス

科目名	高齢期看護学実習 I		担当者	林 圭子	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日	
			(時間)	(45時間)			時限	
授業の概要	地域で生活するいわゆる健康な高齢者と触れ合い、身体的状態・家庭・社会的状態など（客観的QOL）と高齢者の主観的満足感・生きがいなど（主観的QOL）の両面を把握する。また高齢者の生きがい、個性、エンパワーメントを知ることで、医療倫理の原則で最も重要な患者の自己決定権（個の尊厳、人権擁護）の必要性を理解する。							
教育目標	地域で生活するいわゆる健康な高齢期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、生活習慣と健康との関連、さらに生活者としての高齢者支援を考えた個性の看護の意義を学ぶ							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢期にある人の生活史を理解する 2 高齢期にある人の生活状態を理解する 3 高齢期にある人の健康状態と健康増進への取り組みについて理解する 4 高齢者への社会支援の役割を理解する 5 高齢者の個性を理解する 							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	学内実習	オリエンテーション・事前課題						
第2回	学内実習	グループ別演習						
第3回	臨地実習	地域の高齢者の活動、コミュニケーションを通して高齢期にある人の生活史、生活状態、健康状態と健康増進への取り組みを理解する					老人クラブ連合会	
第4回	臨地実習	デイサービス・デイケアを利用している高齢者の健康状態・生活状況を知る					通所介護・リハビリテーション施設	
第5回	臨地実習	デイサービス・デイケアの役割を理解し、利用している高齢者の通所目的を知る アクティビティケアに参加観察する						
第6回	学内実習	グループ別演習・実習のまとめ						
第7回								
第8回		* 詳細は高齢期看護学実習 I の実習要項参照						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書								
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 実習要項評価表参照							
履修のポイント	事前学習、グループワーク、臨地実習で構成されています。臨地実習前の事前学習やグループワークが重要です。積極的に各々参加してください。							
オフィス・アワー	在室時に対応します。							

平成27年度 シラバス

科目名	高齢期看護方法		担当者	林 圭子	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	2単位		学年	2学年	曜日
			(時間)	(60時間)				時限
授業の概要	高齢期を生きる人々の持つ多様な特性の理解を深める。高齢期の人の正常な健康状態および正常から逸脱した健康状態とその回復過程に関する知識を学ぶ。さらに、高齢期にある人間の顕在する健康上の問題を解決・回避をめざした健全な発達を支援するための方法を学習する。この過程を通して効果的な看護を展開するための知識・技術を活用することの重要性を学習する。							
教育目標	高齢期にある人々の健全な発達支援に向け、個別性に応じた看護を展開する方法を学習する							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢期の人々の健康問題のアセスメントに必要な知識・技術を理解する 2. 高齢期の人々の健康問題の解決・緩和・回避に向けた支援方法を理解する 3. 高齢期の人々の健康問題を解決・緩和・回避するために必要な看護技術を修得する 4. 臨地実習で遭遇する頻度の高い事例を通して、個別に応じた看護過程の展開を修得する 5. 高齢期を生きる人々の健康状態と権利擁護について理解する 							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容						備考
第1回	老年看護とは	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本における高齢化 2. 高齢期看護の対象 3. 高齢者の生活機能の考え方 4. 高齢者ケアの特徴 						
第2回	看護過程 健康認識－健康管理	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の基本的な考え方 2. 情報収集とアセスメントの視点 3. 看護過程 4. 健康認識－健康管理パターン 						
第3回	高齢者の栄養－代謝①	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養－代謝パターンのアセスメント 2. 摂食嚥下障害 						
第4回	高齢者の栄養－代謝②	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脱水 2. 皮膚障害 3. 看護ケア 						
第5回	高齢者の排泄	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の排泄パターンのアセスメント 2. 排泄障害 3. 看護ケア 						
第6回	高齢者の活動－運動 高齢者の睡眠－休息	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の活動－運動パターンのアセスメント 2. 運動機能障害 3. 高齢者の睡眠－休息パターンのアセスメント 4. 睡眠障害 						
第7回	高齢者の認知－知覚	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の認知－知覚パターンのアセスメント 2. 認知障害 3. 看護ケア 						
第8回	高齢者の自己知覚－自己概念 高齢者の役割－関係	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の自己知覚－自己概念パターンのアセスメント 2. 高齢者の役割－関係パターンのアセスメント 3. 看護ケア 						
第9回	高齢者の性－生殖 高齢者のコーピング－ストレス耐性 高齢者の価値－信念	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の性－生殖パターンのアセスメント 2. 高齢者のコーピング－ストレス耐性パターンのアセスメント 3. 高齢者の価値－信念パターンのアセスメント 4. 看護ケア 						
第10回	高齢者の生活機能を支える看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本動作と転倒予防 2. 清潔ケアと皮膚障害 						
第11回	疾患をもつ高齢者への看護ケア①	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳血管疾患をもつ高齢者の看護ケア 2. 神経系疾患をもつ高齢者の看護ケア 3. 心疾患をもつ高齢者の看護ケア 						
第12回	疾患をもつ高齢者への看護ケア②	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器系疾患をもつ高齢者の看護ケア 2. 腎疾患をもつ高齢者の看護ケア 						
第13回	疾患をもつ高齢者への看護ケア③	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症をもつ高齢者の看護ケア 2. 認知症をもつ高齢者の看護ケア 						
第14回	検査・治療を受ける高齢者への看護ケア	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検査と看護ケア 2. 薬物療法と看護ケア 3. 手術療法と看護ケア 						
第15回	終末期の看護ケア	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者における終末期ケア 						
第16回	在宅高齢者の看護ケア	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護予防 2. 訪問看護 3. 保健医療福祉施設における看護 						
第17回	家族ケア	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護家族の生活の健康 2. 家族アセスメント 						
第18回	看護過程の展開①	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループワークの進め方 2. 事例紹介 						

平成27年度 シラバス

第19回	看護過程の展開②	1. 情報整理	
第20回	看護過程の展開③	1. アセスメント	
第21回	看護過程の展開④	1. 関連図作成	
第22回	看護過程の展開⑤	1. 関連図作成	
第23回	看護過程の展開⑥	1. 看護上の問題の抽出 2. 優先順位の決定	
第24回	生活支援技術①	移乗・移動の援助方法	
第25回	看護過程の展開⑦	1. 看護計画作成	
第26回	生活支援技術②	嚥下障害のある患者への援助方法	
第27回	看護過程の展開⑧	1. 看護計画作成 2. 看護過程発表の準備	
第28回	生活支援技術③	排泄障害のある患者への援助方法	
第29回	看護過程の展開⑨	1. 看護過程の発表 1) 情報整理 2) アセスメント	
第30回	看護過程の展開⑩	1. 看護過程の発表 1) 関連図 2) 看護計画	
教科書	1. 北川公子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 第8版 医学書院 2014年 2. 泉キヨ子、天津栄子編：根拠がわかる老年看護技術 第2版 メジカルフレンド社 2013年 3. 奥宮暁子他著：生活機能のアセスメントにもとづく老年看護過程 医歯薬出版株式会社 2013年		
参考書	1. 佐々木英忠他編集：系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 第4版 医学書院 2014年		
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験80% 課題レポート10% 看護過程10%		
授業時間外の学習	講義後はノートを整理する。演習前に事前学習を行ない、演習後は事後レポートを提出する。看護過程発表に向けて準備する。		
履修のポイント	講義後は復習、演習前は事前学習が必要となります。グループワークでは協働作業が必要です。		
オフィス・アワー	在室時には対応します		

平成27年度 シラバス

科目名	高齢期看護学実習Ⅱ		担当者	林 圭子	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	3学年	曜日	
			(時間)	(90時間)			時限	
授業の概要	健康障害をもつ高齢者を受け持ち、看護過程を展開する。高齢者にとっての健康障害の状況や生活機能障害の状況を踏まえたうえで、個別性の看護計画を立案し、実施・評価・修正する。高齢者への看護実践を通して、高齢者の自己決定の尊重やその人らしい生き方、尊厳について考える。							
教育目標	高齢期にある対象の発達課題と特徴、高齢者をとりまく環境に基づいて対象を理解する。また健康レベルに応じた自立への支援と、高齢者が人間としての尊厳を保ち、高齢者の生活の質を考慮した看護が提供できる							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢期にある対象の発達課題と特徴、高齢者を取り巻く環境にもとづいて対象を理解する 2 高齢期にある対象の顕在・潜在する看護問題を身体・心理・社会的側面からアセスメントする 3 高齢期にある対象の顕在・潜在する看護問題の解決にむけた個別的看護計画を立案・実施・評価する 4 看護実践を通して、看護の意義を理解する 							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	学内実習・臨地実習	オリエンテーション・事前課題・情報収集						
第2回	臨地実習	情報収集・アセスメント						
第3回	臨地実習	情報収集・アセスメント						
第4回	臨地実習	関連図・看護問題抽出						
第5回	学内実習	看護計画立案・個別面接						
第6回	臨地実習	看護計画実施・評価・修正						
第7回	臨地実習	看護計画実施・評価・修正						
第8回	臨地実習	看護計画実施・評価・修正						
第9回	臨地実習	看護計画実施・評価・修正						
第10回	学内実習	個人面接・まとめ						
第11回								
第12回		* 詳細は高齢期看護学実習Ⅰの実習要項参照						
第13回								
第14回								
第15回								
教科書								
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 実習要項評価表、実習態度、実習記録等に基づき総合的に評価する							
履修のポイント	事前学習を十分実施して臨地実習に臨んでください。							
オフィス・アワー	在室時に対応します。							

平成27年度 シラバス

科目名	在宅看護学概論		担当者	木部 美知子	学科	看護学科	開講期	前期	
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日		
	教職科目	(必修)	(時間)	(15時間)			時限		
授業の概要	<p>高齢化社会や疾病構造の変化、療養者のQOLの追求と療養生活についての自己決定、家族機能の変化などを背景にして在宅看護の必要性は高まっている。在宅看護の定義や概念を理解し、在宅療養者とその家族の特徴を捉え、在宅看護が求められる背景について学習する。また、施設看護と在宅看護の連携や継続看護について学習し、保健医療福祉の様々な職種の人々との連携や協働の必要性、その中での看護の役割について学習する。</p>								
教育目標	<p>地域で療養する人々及び障害を持ちながら生活する人々とその家族の特性、在宅看護意義を理解し、在宅における看護活動に必要な知識習得する。さらに、在宅ケアシステム、在宅ケアチームにおける看護職の役割及び訪問看護活動の特徴について理解する。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護を取り巻く社会背景を基に、在宅看護の必要性及びその目的・目標を理解できる。 2. 地域看護の歴史や在宅看護に関連する諸制度の変遷を理解することができる。 3. 在宅療養が必要となる疾病や障害、家族の状況を踏まえ、在宅看護の多様性を理解できる。 4. 在宅看護の特徴をもとに、在宅看護における看護師の役割を理解できる。 5. 訪問看護サービスの種類や法的根拠を踏まえ、訪問看護の主な活動を理解できる。 6. 地域で療養する人を支える社会資源の種類や関連職種を知り、連携の必要性と連携方法について理解できる。 7. 在宅看護の現状や社会の動向を踏まえ、在宅看護(訪問看護)が抱える問題と課題について考えることができる。 								
授業計画									
回	主題	授業内容					備考		
第1回	在宅看護とは	在宅看護学の概念、在宅看護の目的と特徴 在宅看護の歴史と現状 在宅看護の変遷と社会背景 在宅看護が必要とされる社会背景							
第2回	地域で療養する人々	地域で療養する人々と家族在宅療養を必要とする人々 在宅療養の成立条件 在宅看護と家族 家族の介護負担とその軽減							
第3回	在宅看護実践への理論	生活モデルと医療とモデル ICF セルフケア理論 食の援助 清潔の援助 移動の援助 排泄の援助 呼吸の援助 服薬管理 腹膜透析							
第4回	在宅ターミナル 訪問看護の特徴	在宅におけるターミナル期の援助 訪問看護とは、訪問看護の制度と訪問看護ステーション							
第5回	在宅ケアを支える制度 I	社会資源活用における看護職の役割 高齢者を支える制度と社会資源							
第6回	在宅ケアを支える制度 II	障害者の在宅療養を支える制度と社会資源 在宅難病療養者を支える制度と社会資源 子どもの在宅療養を支える制度と社会資源 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源							
第7回	在宅看護における他職種との 連携	関連職種とその地域包括ケアシステム						非常勤講師	
第8回	まとめ	まとめ							
第9回									
第10回									
第11回									
第12回									
第13回									
第14回									
第15回									
教科書	秋山 正子他著： 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院					定価 2,520円(税込)			
参考書	岡崎 美智子著： 根拠がわかる在宅看護技術 第2版					定価 5,076円(税込)			
	准 臺 有 桂他著： ナーシング・グラフィカ 在宅看護論：地域療養を支えるケア 第5版					定価 3,672円(税込)			
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験60%以上・レポート20%以上・課題20%以上								
授業時間外の学習	在宅看護概論で学習する内容、特に在宅看護に関連する制度、介護保険制度については予習・復習をしておく。								
履修のポイント	要介護高齢者の介護に関する社会的問題や在宅医療の必要な療養者の生活などの新聞ニュースも自分から積極的に取り込んで、主体的に学習すること。講義は、テキストと資料を基に行うので予習復習をしっかりと行う。レポート課題あり。								
オフィス・アワー	10号2F 研究室5								

平成27年度 シラバス

科目名	在宅看護方法		担当者	木部 美知子	学科	看護学科	開講期	後期	
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日		
			(時間)	(30時間)			時限		
授業の概要	<p>在宅での日常生活援助の考え方と実際を講義と演習をととして学習する。 在宅看護では、療養者と家族を含めた看護を行う。その基本的な考え方は、基礎看護学、成人看護学、老年看護学等で学んだ内容であり、その上で個々の療養者や家族に合わせた援助を考える。 演習ではモデル事例を基に看護過程のプロセスを学び、療養者や家族に合わせた援助を話し合い実際に演じ、その場面を振り返り学びを深める。さらに療養者と家族の自己決定を尊重した援助方法を療養者・家族と一緒に考え、実践していく必要性について学ぶ。また、在宅看護では、経済性を考えることや創意工夫しながら援助することが求められるため、家庭にある物を活用し在宅看護における創意工夫の大切さを援助の実際を通し学ぶ。</p>								
教育目標	在宅・訪問看護実践のために必要な基礎的知識・技術を養う。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 療養者の生活を尊重した在宅での援助が理解できる。 2. 在宅療養者にとっての家族の存在について考え、家族の負担が軽減できるよう支援することの必要性が理解できる。 3. 在宅看護における社会資源活用について理解できる。 3.4. 在宅ケアチームにおける多職種連携の必要性と看護師の役割が理解できる。 5. 在宅での看護・介護用品の作成をととして、創意工夫の必要性が理解できる。 6. 在宅における医療管理を必要とする看護を理解できる。 								
授業計画									
回	主題	授業内容					備考		
第1回	在宅看護の実際	1)在宅で看護の展開 2)在宅で求められる技術の応用 3)在宅療養の時期の特徴と看護介入：導入期(退院前)～終了期							
第2回	在宅療養者の日常生活援助	1)在宅看護援助の基本 2)具体的援助内容：環境整備、食事、排泄、清潔、服薬管理 3)リハビリテーションの援助内容							
第3回	療養者の症状・状態別の看護	脳血管疾患(寝たきり老人)／難病患者／認知症患者							
第4回	療養者の症状・状態別の看護	感染症患者／在宅ターミナルケア／精神障害者							
第5回	特殊な技術をとともう在宅看護	在宅酸素療法／在宅人工呼吸療法／CAPD療法／ストーマケア							
第6回	特殊な技術をとともう在宅看護	褥創ケア／経管栄養／在宅中心静脈栄養(HPN) 吸引(鼻腔・口腔・気管内吸引)／気管切開口ケア／疼痛コントロール							
第7回	在宅看護過程	事例展開①②							GW
第8回	在宅看護過程	事例展開③④							GW
第9回	在宅看護過程	事例展開⑤⑥							GW
第10回	在宅看護過程	事例展開⑦⑧							GW
第11回	在宅看護過程	事例展開⑦⑧							GW
第12回	在宅看護過程	事例展開							
第13回	在宅看護過程	事例展開							
第14回	在宅看護過程 まとめ	在宅看護過程発表 まとめ							演習(評価)
第15回	在宅看護における他職種との連携とケアマネジメン	関連職種とその役割 ケアマネジメントの過程							非常勤講師
教科書	秋山 正子他著： 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 定価 2,520円(税込)								
参考書	岡崎 美智子著： 根拠がわかる在宅看護技術 第2版 定価 5,076円(税込) 准 臺 有桂他著： ナーシング・グラフィカ 在宅看護論：地域療養を支えるケア 第5版 定価 3,672円(税込)								
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験60%以上・レポート20%以上・課題20%以上								
授業時間外の学習	在宅看護学実習に向け、講義・演習で学んだ看護過程の復習、在宅看護技術の練習を行う。								
履修のポイント	協調性を持ってグループワークに積極的に取り組み、主体的に学習すること。講義はテキストと資料を基に行うので予習復習をしっかりと行う。 課題レポート、事例展開記録の提出あり。								
オフィス・アワー	10号2F 研究室5								

平成27年度 シラバス

科目名	在宅看護学実習		担当者	木部 堀越	学科	看護学科	開講期	前・後
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	3学年	曜日	
			(時間)	(45時間)			時限	
授業の概要	在宅看護の特徴は、対象となる人々とその家族の「生活」の場で看護を展開するという点にある。そのため、人々がそれぞれにもつ生き方、生活、健康に対する価値観や主体性を尊重しながら、自立支援や自己決定という視点を持ち、療養生活の質の向上と療養生活の維持が在宅看護の目的となる。在宅看護学実習では、訪問看護ステーションの看護師に同行し、疾病や障害をもちながら、在宅で生活する人の看護や介護の実際にふれ、在宅療養生活をおくる対象者の特徴や支援方法について学ぶ。さらに、在宅関連施設での実習を通し、在宅ケアシステムや社会資源の活用・調整方法、施設看護と在宅看護の連携や継続看護について学習し、保健医療福祉の様々な職種の人々との連携や協働の必要性、その中での看護の役割について学習する。学内実習では関連施設での学びを共有し在宅療養者の看護事例を通して学習を深める。							
教育目標	在宅療養者およびその家族の健康障害との生活への影響を総合的にとらえ、在宅看護の特徴を理解する。在宅療養者およびその家族の特性に応じた看護の基礎的能力を習得する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 療養者の健康障害が生活行動や人間関係などに及ぼしている影響を総合的に理解できる。 在宅療養者及び家族のケアニーズの理解と療養と生活の調整の重要性が理解できる。 在宅療養における家族の意義と役割、看護の必要性が理解できる。 在宅療養者及び家族の個性性と主体性を尊重した看護計画が立案できる。 在宅で療養生活を送る対象者とその家族の生活を支援する社会保障制度及び社会資源の活用方法が理解できる。 在宅ケアチームとの連携とチームにおける看護職の役割・機能が理解できる。 看護学生として看護専門職としての自覚を持ち、実習に積極的に取り組むことができる。 							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回								
第2回		実習方法： 訪問看護ステーション4日、居宅支援事業所1日、在宅関連施設2日、学内で3日(オリエンテーション、最終まとめ含む)実習する。						
第3回		実習施設は、群馬県内の訪問看護ステーションと在宅療養者が利用する居宅サービス提供施設(デイサービス・通所リハビリテーション施設などで、訪問看護ステーション4日、居宅支援事業所1日、在宅関連(オリエンテーション、最終まとめ含む)実習する。訪問看護ステーションの実習では、看護師と同行し、訪問事例の看護過程を展開し、在宅療養者の看護ケアを行う。						
第4回	訪問看護ステーション							
第5回	在宅関連施設での実習	地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等では相談・調整・訪問活動等の見学を通して対象の理解を深め、対象の特性に応じた援助方法を学ぶ。						
第6回		関・職種との連携協働の実践方法とそれぞれの果たす役割を理解する。						
第7回		実習中のカンファレンス、報告会等を通じて学習体験を共有し、さらに学内カンファレンスでは、実習記録の整理を行い、学習内容を共有し、学びを深める。						
第8回		実習最終日には実習のまとめおよび反省会をおこなう。						
第9回		* 実習記録、課題レポートをまとめ、学習を整理する。 (1)在宅療養者とその家族の特性をふまえた看護のあり方について						
第10回		(2)対象が地域で生活できるためのケアシステム・社会資源および関係機関・職種の連携のあり方について						
第11回		(3)在宅看護学実習で学んだこと、気づいたこと(最終レポート)						
第12回		3年生前後期の実習期間にローテーションで行う。 実習施設、実習スケジュール等については実習開始時期に提示する。						
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	在宅看護論実習要項を配布する。秋山 正子他著：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 定価 2,520円							
参考書	岡崎 美智子著：根拠がわかる在宅看護技術 第2版 定価 5,076円(税込)							
	准 臺 有桂他著：ナースング・グラフィカ 在宅看護論：地域療養を支えるケア 第5版 定価 3,672円(税込)							
成績評価	60点以上：実習目標の達成状況 40% 最終レポート 10% 実習状況(実習指導者からの評価)及び実習態度 30% 出席状							
授業時間外の学習	事前学習(実習記録)は、実習初日までに完成させ、実習中に活用する。また日常生活援助技術を経験することが多いため、実習前や学内実習日を活用しよく練習を行っておく。在宅看護概論で学習した訪問看護に関連する制度、介護保険制度の復讐をし							
履修のポイント	在宅看護学実習の対象者は小児から高齢者まで幅広く、疾患もさまざまである。また、対象者の家族や取り巻く環境や地域も看護の対象となる。病院や施設における実習で学んだ知識・技術を最大限に活用し、在宅療養生活を援助する看護について学びを							
オフィス・アワー	実習初日、金曜日							

平成27年度 シラバス

科目名	公衆衛生看護学概論		担当者	高橋 美砂子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	必修	単位 (時間)	2	学年	2	曜日 時限	
	教職科目	(必修)		30				
授業の概要	公衆衛生看護の理念、歴史的背景や地域保健活動の変遷等を踏まえ、地域の健康水準向上のために公衆衛生看護の果たす役割や期待される能力について理解する。また、諸外国の公衆衛生看護活動や国際協力のあり方および多国籍化する地域住民への取り組みについて学習する。							
教育目標	地域を基盤とした公衆衛生看護の考え方に焦点を当て、対象の捉え方、住民の生活環境と健康課題、多様化する社会現象と健康課題に対応する保健師の役割について理解することを目的である。							
到達目標	1) 個人・家族・集団・コミュニティを対象とした看護領域であることを理解できる。 2) 地域で生活する人々の健康課題について考えることができる。 3) 地域の健康課題と保健計画について理解できる。 4) 地域看護活動における集団的支援・個別的支援について説明できる。 5) 地域看護活動における現状の問題を踏まえて今後の課題について説明できる							
授業計画								
回	主題	授業内容					備考	
第1回	授業ガイダンス 公衆衛生看護の理念	・公衆衛生看護とは(定義)・公衆衛生看護の理念 ・根拠となる法令					4月9日	
第2回	公衆衛生の理念	・健康の定義 ・疾病予防(一次、二次、三次予防)の概念 ・プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション					4月16日	
第3回	公衆衛生の概念	・ソーシャルキャピタルとは ・健康日本21					4月13日	
第4回	公衆衛生看護の倫理	・公衆衛生看護活動の倫理的問題 ・情報社会における倫理と保護 ・健康行動の社会規範と文化					4月30日	
第5回	公衆衛生看護の対象	・個人、家族、グループ、組織、地域の捉え方 ・人々の日常生活と健康					5月7日	
第6回	公衆衛生看護活動の場	保健所、市町村、福祉分野における保健師の活動 ・医療施設と社会福祉施設における保健師					5月14日	
第7回	社会情勢の変化と健康課題(1)	・人口構成及び疾病構造の変化 ・経済や産業構造の変化と健康課題 ・自殺予防対策					5月21日	
第8回	社会情勢の変化と健康課題(2)	地球環境、生活環境の変化と健康への影響 ・自然災害と健康 ・健康課題解決のための資源 (中間テスト)					中間授業評価 5月28日	
第9回	公衆衛生看護活動の展開(1)	・公衆衛生看護活動の展開の基本 ・活用できる理論 ・PDCAサイクル					6月4日	
第10回	公衆衛生看護活動の展開(2)	・保健計画の策定と実践、評価					6月11日	
第11回	公衆衛生看護活動の展開(3)	・健康危機管理とリスクマネジメント					6月18日	
第12回	公衆衛生看護の歴史(1)	・日本における公衆衛生看護活動の歴史					6月25日	
第13回	公衆衛生看護の歴史(2)	・外国の公衆衛生看護活動の歴史					7月2日	
第14回	公衆衛生看護の国際的視点	・国際協力と公衆衛生 ・多文化共生社会における健康課題					7月9日	
第15回	公衆衛生看護学における研究	・公衆衛生看護学の研究課題、方法、プロセス、倫理的配慮(まとめテスト)					最終授業評価 7月16日	
教科書	標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論第4版(医学書院)							
参考書	(1)国民衛生の動向(厚生労働統計協会)(2)保健師業務要覧(日本看護協会保健師職能委員会)(3)公衆衛生(MCメディアカ出版)⇒教科書の補足資料として、使用します。							
成績評価	単位認定 60 点以上 定期試験(中間+まとめ)50% ミニテスト+レポート50%							
履修のポイント	公衆衛生看護は法律に基づくものが多いので、関連づけて覚えるといいでしょう。頻回にミニテストやレポート課題を出しますので、提出を忘れずにしてください。							
オフィス・アワー	研究室在室時は対応します。							

平成27年度 シラバス

科目名	公衆衛生看護活動論Ⅰ〔個人・家族・集団・組織への支援活動〕		担当者	高橋/鈴木	学科	看護	開講期	後期
区分	専門科目	選択	単位	2	学年	2	曜日	
	演習	保健師課程必修	(時間)	60			時限	
授業の概要	公衆衛生看護活動の方法として、地域アセスメント、地域診断について学習し、地域の健康課題を把握し、適切な支援方法について学習する。							
教育目標	地域で生活する個人、家族、集団、組織を対象として、様々な健康レベルや地域の特性に応じた健康の保持増進と障害予防支援のための理論、知識、技法について理解することが目的である。							
到達目標	1) 公衆衛生看護活動の実践のための基本的な技術、方法について理解する。2) 地域診断の意義と方法について説明できる。3) 地域特性を把握する視点を説明できる。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容			主担当	月 日	
第1回	公衆衛生看護活動論ガイダンス		・授業の進め方・コミュニティーの捉え方・地域診断とは					
第2回	地域診断							
第3回	地域診断②・既存資料の活用		・保健医療福祉関連の統計資料とその活用・地域把握の方法と実際					
第4回								
第5回	地域診断③ 地域アセスメント		・収集した情報や資料から、地域の健康課題を抽出・わかりやすい地域の資料をつくる					
第6回	の健康課題の抽出							
第7回	地域診断④地域の健康課題		・地域の特性を生かした健康対策の周知方法・地域診断のまとめと発表【ミニテスト】					
第8回	とその対応							
第9回	コミュニティへの支援①		・健康教育とは・集団健康教育と保健師役割					
第10回								
第11回	コミュニティへの支援②		・健康教育の企画書と指導案の作成					
第12回								
第13回	コミュニティへの支援③		・健康教育の実践 ・健康教育【ミニテスト】					
第14回								
第15回	コミュニティへの支援④		・計画した健康教育の共有化（発表）			中間授 業評価		
第16回								
第17回	集団・組織への支援①		・集団健診と検診のありかた・事後のフォローアップ方法・ポピュレーションアプローチとは					
第18回								
第19回	集団・組織への支援②		・地域活動計画・事業計画の策定（計画・実践・評価） ・施策化と予算					
第20回								
第21回	集団・組織への支援③		・保健師がかかわる組織・グループとは ・組織化活動およびグループ支援と保健師の役割					
第22回								
第23回	集団・組織への支援④		地域ケアシステムと保健師の役割【ミニテスト】					
第24回								
第25回	個人・家族への支援③		・家庭訪問とは ・家庭訪問の法的根拠・家庭訪問による支援計画と方法、評価					
第26回								
第27回	個人・家族への支援④		・健康相談（保健指導）とは・健康相談（保健指導）の設定と支援方法、評価					
第28回								
第29回	公衆衛生看護に関する動向		・公衆衛生職員の養成とその動向 【まとめテスト】			最終授 業評価		
第30回								
教科書	(1)標準保健師講座2 地域看護技術 (2)標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論（医学書院）							
参考書	・国民衛生の動向 ・コミュニティアズパートナー地域看護学の理論と実際（第2版）医学書院							
成績評価	単位認	60点以上	定期試験（50%） 記録（レポート含む）30% プレゼンテーション20%					
授業時間外の学習	授業に必要な資料を事前に準備していただくことがあります。発表の準備等が間に合わない場合は、宿題にします。							
履修のポイント	保健師課程の科目です。グループワークが多いので、欠席しないで協調性をもって臨んでください。3年生の実習との調整で、授業担当、授業内容の変更がある場合があります。その都度、連絡します。							
オフィス・アワー	高橋：3年生の実習中は、主に金曜日が学内です。11月からは、研究室（10号館2階）在室時はいつでも対応します。 鈴木：実習調整等で不在も多いので、事前にメールで連絡を取り合います。							

平成27年度 シラバス

科目名	公衆衛生看護活動論Ⅱ (発達段階・健康課題別保健活動)		担当者	高橋美砂子	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	選択	単位	2単位	学年	3学年	曜日 時限	
	講義	保健師課程	(時間)	30時間				
授業の概要	あらゆる発達段階、健康状態に対応する保健活動として、地域の母子保健活動、成人・高齢者保健活動、障害者保健活動、精神保健福祉活動、難病保健活動、感染症保健活動等の実際を学ぶ。各種保健活動における関係機関と職種の協働と連携の重要性について理解をする。							
教育目標	あらゆる発達段階、健康状態に対応する保健活動の対象者の特性と社会背景、活動の基盤となる法律や制度について学習し、保健師の具体的な活動について理解を深めることが目的である。							
到達目標	1) 地域における母子保健活動について理解する。2) 地域における成人保健活動について理解する。3) 地域における高齢者保健活動について理解する。4) 難病保健活動について理解する。5) 精神保健福祉活動について理解する。6) 障害者(児)保健活動について理解する。7) 感染症保健活動について理解する。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	授業ガイダンス		授業の進め方、公衆衛生看護学実習に向けた事前学習の意義、これまで学んだ公衆衛生合看護の復習					
第2回	[発達段階における保健活動]地域の母子保健活動①		・母子保健活動の対象 ・健康課題と社会背景 ・活動の基盤となる法律と制度(健やか親子21)					
第3回	[発達段階における保健活動]地域の母子保健活動②		・乳幼児健診、訪問指導における保健師役割					
第4回	[発達段階における保健活動]地域の母子保健活動③		・発達障害、虐待の社会的背景と保健師対応					
第5回	発達段階における保健活動]地域の成人保健活動		・成人保健活動の対象、健康課題、社会背景 ・活動の基盤となる法律と制度・健康日本21 特定健診、特定保健指導					
第6回	[健康課題別保健活動]精神保健活動		・精神保健福祉活動の実際と保健師の役割 ・自殺対策保健活動					
第7回	[発達段階における保健活動]地域の高齢期保健活動		・高齢者保健活動の対象 ・健康課題と社会背景 ・介護保険制度 ・地域包括支援センターと保健師の役割					
第8回	[健康課題別保健活動]難病保健活動		・難病とは・難病対策要綱・難病に対する保健医療福祉の支援について・ALSの地域ケアシステム				中間授業評価	
第10回	[健康課題別保健活動]障害者保健活動		・障害者(児)保健活動の対象 ・健康課題と社会背景 ・活動の基盤となる法律と制度 ・保健師の役割					
第11回	[健康課題別保健活動]感染症保健活動		・感染症とは・感染症の予防対策と動向・活動の基盤となる法律と制度・結核管理・予防接種					
第12回	[健康課題別保健活動]感染症保健活動		・HIV、AIDS、STDの動向と相談体制、医療機関との連携					
第13回	[健康課題別保健活動]口腔保健保健活動		・生涯を通じた歯科口腔保健・摂食嚥下機能低下予防対策 ・自己管理(セルフケア)					
第14回	[健康課題別保健活動]地域の健康課題と在宅看護		・介護者を抱える家族への支援・訪問看護との連携協働 在宅ホスピス					
第15回	地域保健活動を支える人材と関連施設		・地域保健活動において連携協働する専門職と機関・まとめテスト				最終授業評価	
教科書	(1) 標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動論第3版(医学書院) (2) 国民衛生の動向(厚生統計協会)							
成績評価	単位認定	60点以上	ミニテスト50%、提出物20% まとめテスト30%を基本とする。					
履修のポイント	実習に行くために必要な知識を確認し自分でノートに整理する作業があります。頻回に確認テストを行ないますので、欠席しないように心がけてください。【保健師課程の必修科目】							
オフィス・アワー	研究室時は対応します。							

平成27年度 シラバス

科目名	公衆衛生看護活動論Ⅳ (産業における保健活動)		担当者	山田 淳子	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	選択	単位	1単位	学年	3	曜日	時限
	講義		(時間)	15時間				
授業の概要	人々のライフステージの多くをしめる労働生活を支援することは非常に重要であり、その担い手である産業看護職の役割は大きい。労働者の健康と労働生活の両立を支える産業保健・看護活動を展開するための知識・技術・態度を学習する。							
教育目標	労働者が抱える健康問題と労働場の特徴を学習し、労働者の健康と労働生活の両立を支える産業看護職の役割と機能について理解することができる。さらに、産業保健活動の重要性について考えることができる。							
到達目標	①労働場の特徴や労働者が抱える健康問題について理解する。②労働関係法規を理解する。③労働衛生管理体制(組織と人)を理解する。④産業看護職の役割と業務を理解する。⑤産業保健活動の重要性を認識することができる。							
授業計画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	オリエンテーション、労働衛生の実態と産業保健・看護の対象者の特徴	産業構造、労働衛生の動向、労働者の健康をめぐる現状						
第2回	産業保健・看護の理念と背景	産業保健の目的、産業看護の定義、産業保健・看護の歴史、労働衛生行政と関連法規(労働安全衛生法等)						
第3回	産業保健・看護の制度とシステム	労働衛生管理体制(組織と人)、関連機関、労働衛生管理体制における産業看護職の役割						
第4回	産業保健の5分野(3管理)	総括管理、健康管理、作業環境管理、作業管理、労働衛生教育						
第5回	健康課題別の産業看護職の機能・役割①	職業性疾病と作業関連疾患の種類と予防対策						
第6回	健康課題別の産業看護職の機能・役割②	生活習慣病予防対策、職場のメンタルヘルスケア、職場復帰支援、ワークライフバランスなど						
第7回	職場のヘルスプロモーションにおける産業看護職の機能・役割	健康教育、健康相談、職場の健康づくり活動、ヘルスプロモーション、快適職場						
第8回	中小規模事業場の健康支援、地域・職域連携	中小規模事業場に所属する労働者への健康支援、地域・職域連携活動						
教科書	①平成27年度労働衛生のしおり 中央労働災害防止協会編 ②配布プリント							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 試験 60% 講義終了後のリアクションペーパー 40%							
授業時間外の学習	労働者の健康問題は社会情勢に大きく影響されます。日頃から新聞等に目を通し社会情勢について理解することは重要です。また、講義終了後のリアクションペーパーは次回講義で返却しますので、講義資料を見ながら復習をしてください。							
履修のポイント	産業保健に関する法規や制度を理解することは、職種に関わらず、いずれ「労働者」となる皆さんにとって重要です。興味関心を持って臨んでください。保健師国家試験とも関連付けて学習してください。							
オフィス・アワー	授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じます。							

平成27年度 シラバス

科目名	公衆衛生看護学実習		担当者	高橋/鈴木	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	選択	単位	5	学年	3	曜日	
	実習	保健師課程	(時間)	225				
授業の概要	公衆衛生看護で学んだことが地域でどのように展開されているのか実際に学習する。またそのための事前演習を行う。保健所、市町村保健センター、事業所等の実習を通して、保健師の実際の活動を知り、その役割を理解する。地域住民に対して健康課題解決と健康増進の支援方法を体験する。							
教育目標	地域の人々の健康な生活を支援するために、保健師の役割について理解する。また、保健師に必要な知識や技術について理解を深め、看護専門職としての態度を養うことを目的とする。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活する個人・家族・集団の健康を守るための地域保健活動の展開方法を学ぶ。 2. 主な公衆衛生看護活動における保健師の支援技術の特徴を学ぶ。 3. 地域保健活動における関係機関・職種との連携・協働の方法と保健師の役割を学ぶ。 4. 専門職として、また組織の一員としての責任と態度を学ぶ。 							
授業計画								
回	主題	授業内容					備考	
第1週	市町村保健センター、保健福祉事務所、事業所等	・実習事前学習 ・地域診断/地区踏査 家庭訪問、健診のロールプレイ					学内演習と実習地域内の踏査	
第2週		・行政および事業所保健師に同行し各種保健事業に参加する。事後フォローアップのカンファレンスの参加する。						
第3週		・家庭訪問に同行する。 ・健康教育を実施する。						
第4週		・年間保健計画の立案、実施、評価について説明を受ける。						
第5週		・実習の総括を行う。(学習成果の発表・実習報告書の作成・記録物の提出)					学内	
教科書	平成27年群馬県保健福祉統計CD-ROM版							
参考書	国民衛生の動向2015 厚生統計協会 実習市町村からの資料 市町村地図							
成績評価	単位認定	60	点以上	実習中の態度、事前学習、サブノートの活用、記録物、事後報告書等を勘案し総合的に評価する				
履修のポイント	寒い時期なので、体調管理に留意し、欠席しないようにしましょう。							
オフィス・アワー	実習中は、指導担当教員といつでも連絡できようように連絡方法の確認をしておく。							

平成27年度 シラバス

科目名	養護概論		担当者	黒岩 初美	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	選択	単位	2単位	学年	3年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	教育職員免許法に示された「養護概説」の趣旨に基づき「養護」の本質や概念、歴史的沿革、職務内容の変遷、養護教諭の職務内容などの養護教諭の『職』について学ぶ。							
教育目標	学校保健を推進する中核的役割をもつ養護教諭の職務と機能、役割を理解させ、児童生徒の健康問題の解決方法と技術について、専門的・実践的に学ばせる。							
到達目標	「養護」の本質や概念、沿革、職務内容の変遷を理解するとともに、児童生徒の健康・安全を守り、課題を解決するための、学校保健活動の在り方を理解することができる。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1回	教育関係法令と教育行政		教育関係法令等、教育行政、教育改革の動向					
第2回	学校教育と学校保健		教育の目的、学校経営とは、教育課程と学習指導要領、学校保健養護教諭の制度の変遷、養護教諭の職務					
第3回	児童生徒の発育発達と健康課題		幼児期、児童期、青年前期・後期の発育発達 子どもの健康課題の推移					
第4回	学校における救急処置		各発達段階に即した保健指導 学校における救急処置の目的 適切な見極めと判断 救急体制づくり 簡単なけがの手当て					
第5回	健康観察と疾病管理		健康観察の目的、機会と内容 疾病管理の目的と内容及び留意点 感染症予防（吐物処理、手洗い、うがい、マスク）					
第6回	学校における精神保健・健康相談と養護教諭の役割		子どもの心の問題の内容 対応にあたっての留意点及び健康相談の意義・法的根拠と進め方・教育相談の基本的な考え方と養護教諭の役割					
第7回	健康診断の計画と実施		健康診断の意義と目的、計画の立て方と実施の流れ					
第8回	健康診断の実際		演習（身体測定・聴力、視力検査・内科検診・歯科検診等）					
第9回	学校環境衛生		学校環境衛生の目的 関係法令 日常点検と措置 演習（水質検査、照度検査、二酸化炭素測定）					
第10回	効果的な教材の活用		保健日より、掲示物の作成					
第11回	保健教育		教科保健（保健学習）と保健指導のねらい、内容、進め方、教材の活用					
第12回	保健指導の構想		保健指導の授業構想、指導案作成					
第13回	模擬授業の提案		グループ発表					
第14回	安全管理と危機管理		学校安全とは、安全教育と安全管理の進め方、日本スポーツ振興センター					
第15回	保健室経営		保健室経営の重要性、保健室経営計画の作成上の留意点と評価					
教科書	「新養護概説（第7版）」采女智津江 少年写真新聞社							
参考書	「養護概説」 三木とみ子 ぎょうせい							
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験（40%）小テスト、レポート（50%）授業への参加度・学習態度等（10%）							
授業時間外の学習	グループ学習を取り入れるので、各自が自学自習に励み互いに学びあいができるよう準備をすること。							
履修のポイント	授業は学び方のヒントである。養護教諭の根本となる基礎基本であるので、復習予習をして授業に臨むこと。							
オフィス・アワー	アポイントを取ること。							

平成27年度 シラバス

科目名	学校保健 I		担当者	黒岩 初美	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	選択	単位	1 単位	学年	3 年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(15 時間)			時限	
授業の概要	学校保健は、児童生徒の健康と安全の基礎を培い生涯の健康増進の基盤を作ることを目指し、保健管理、保健教育、組織活動によりなる。学校保健の中核的役割を担う養護教諭の基礎教養となる。そこで、はじめに学校保健の目的と意義、学校保健の変遷と沿革、学校教育における使命と目的を明確にし、保健管理、保健教育、組織活動、学校保健の推進について理論を講義をする。さらに、現場で実践する方法技術について、法的根拠を踏まえながら具体性を持たせながら実践的に学習する。							
教育目標	学校保健の概要を学び、児童生徒の実態から健康課題を把握させ、健康課題の解決や健康の保持増進を図るための学校保健の運営について理解させる。							
到達目標	①学校保健の目的・意義と変遷を理解することができる ②児童生徒の心身の健康実態と環境アセスメントの理解、発育発達段階を理解することができる。 ③発育発達段階、ニーズ、学習指導要領に基づいて保健指導・保健学習の学習指導計画を立て、指導案に基づいて指導ができる。 ④学校保健計画の試案を考えることができる。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	学校保健とは	学校保健の意義及び内容、変遷、学校保健関係職員と保健室						
第2回	児童生徒の心身の発達と健康	発育発達から見た児童生徒の健康課題						
第3回	学校保健計画・学校保健組織活動	学校保健計画作成の法的根拠と意義、作成手順及び留意事項、内容と評価、校内組織活動（学校保健委員会、教職員保健部会、児童生徒保健委員会）					小テスト①	
第4回	保健管理と健康診断	保健管理とは、児童・生徒の健康診断（健康診断の意義、実施時期と検査項目、健康診断票と保健調査、事後措置）職員の健康診断、就学時の健康診断						
第5回	健康教育	教育課程とは何か、学習指導要領とは何か、学校における健康教育の位置づけ、進め方及び評価方法						
第6回	危機管理及び学校安全	危機管理、学校安全の構造、安全管理、安全教育					小テスト②	
第7回	疾病管理	学校における疾病管理の目的、学齢期の子どもの健康状況、疾病管理の進め方（学校生活管理表の活用）						
第8回	ヘルスプロモーションと養護教諭の新たな役割	ヘルスプロモーションの概念・歴史 ヘルスプロモーションスクール					小テスト③	
教科書	「新・学校保健」杉浦守邦・野村和雄（東山書房）							
参考書	「学校保健マニュアル」改訂8版 衛藤隆、岡田加奈子（南山堂）							
成績評価	単位認定 60 点以上 課題レポート（40点）、小テスト（50点）、授業態度（10点）							
授業時間外の学習	教科書を活用し、予習を必ず行うこと。配布された資料や文献により復習を行うこと。							
履修のポイント	児童生徒の健康課題や教育に関する時事問題にクリティカルシンキング。							
オフィス・アワー	アポイントを取ること。							

平成27年度 シラバス

科目名	学校保健Ⅱ		担当者	黒岩 初美	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	選択	単位	1単位	学年	4年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	学校保健は、児童生徒の健康と安全の基礎を培い生涯の健康増進の基盤を作る目的と意義がある。学校保健Ⅰの理解に立って、保健管理における支援の実際を演習したり、保健教育による介入について理論と実践を教育課程の新学習指導要領により学習したりする。							
教育目標	学校における児童生徒等、教職員の保持増進を図るため、保健管理、安全管理、保健教育、安全教育、組織活動の進め方を校種別発達段階別に合わせて現代的課題を設定してPDCAサイクルについて実践的に解決できるように具体的に試みさせる。							
到達目標	①児童生徒等の心身の健康実態及び環境アセスメントからの情報を収集して課題を明確にすることができる。 ②現代的な健康課題について取り上げ、学校における保健教育の進め方を具体的に考えることができる。 ③学校感染症への対応を理解することができる							
授業計画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	健康観察・保健指導	健康観察の意義、方法および問題への対応、健康管理の個別的保健指導						
第2回	児童生徒の健康実態の把握と保健指導	健康観察、健康情報の収集方法、学校保健統計、全国保健室利用状況調査、各種統計調査資料、保健調査に基づく実態把握の見方考え方及び保健指導の在り方						
第3回	救急処置	学校における救急処置の意義、救急処置の実際						
第4回	保健管理～学校感染症への対応	学校感染症の種類、日常の学校生活の予防対策、発生時の対応と事前・事後の対応						
第5回	保健管理～環境衛生	学校環境衛生の意義、法的根拠、活動の計画と展開、検査の実際そのほかの精神・心理的問題						
第6回	健康教育	保健学習と保健指導、養護教諭の行う集団的保健指導					健康教育演習のレポート課題	
第7回	研究授業に向けた教材研究	第6回を基に指導案の作成、細案・教材の検討						
第8回	授業発表と評価	構想した授業を発表しあい、ねらいに沿った展開となっているかを討議する						
教科書	「新・学校保健」杉浦守邦・野村和雄（東山書房）							
参考書	「学校保健マニュアル」改訂8版 衛藤隆、岡田加奈子（南山堂）							
成績評価	単位認定 60 点以上 課題意識をもち取り組む積極的態、指導案、教材、そのほか提出物、グループへの貢献、テスト							
授業時間外の学習	各自が積極的に自学自習に励むことを期待している。配布資料や指定された文献等により予習復習を行うこと。							
履修のポイント	児童生徒の健康課題や教育に関する時事問題にクリティカルシンキング。							
オフィス・アワー	アポイントを取ること。							

平成27年度 シラバス

科目名	学校保健Ⅲ		担当者	黒岩 初美	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	選択	単位	1単位	学年	4年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	<p>小・中・高の保健室利用状況調査報告書に基づき、児童生徒の心身の健康問題の増加と多様化は現代的課題である。平成9年の保健審答申で養護教諭の健康相談活動が免許科目となり、平成20年の中央教育審議会答申では、学校保健安全法に第8条健康相談が設けられた。養護教諭が校内・外の専門家や専門機関と連携・協働して児童生徒の心身の健康問題に関わることが期待されている。養護教諭は保健室に常駐し全校の児童・生徒を対象に保健室の機能を生かしながら、心身両面の不調を訴えて来室する子ども達に応急手当や健康相談で対応する。その過程で、子どもの問題を早期発見し早期支援に繋げられる。養護教諭の専門知識・技術・幅広い学際的判断力・人間力等の諸能力を統合する実践的指導力を鍛える科目である。</p>							
教育目標	<p>学生は、児童生徒の心身の健康実態を知り、養護専門の理論・技術を使って、児童生徒の特性と発達過程に沿ってアセスメントする。その上で、問題や課題の明確化を図り、専門的実践指導力(健康相談活動)により、子ども達の健康課題の解決や自立を支援すると共にエンパワーメントし、組織的にも解決を実行出来るように学習する。</p>							
到達目標	<p>①児童生徒の発達過程、特別な支援を必要とする子どもの発達過程と現代的健康課題を知る。 ②保健室利用の子ども達の実態から、日常観察、変化の気づき等によりアセスメントから、要因の構造と対応の方法について科学的に理解できる。 ③明確にした課題解決の方法を児童生徒の発達段階に合わせて支援し、学校生活に適応させていくか、医療機関や専門の相談機関に委ねるかについて学習する。共通理解によるチーム支援のために環境調整、教師や保護者、専門機関等関係者の協力等の活用できる資源を利用することを学ぶ。</p>							
授業計画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	保健室の利用実態調査結果一求められる養護教諭の養護診断	保健室の利用実態調査結果一求められる養護教諭の養護診断						
第2回	不定愁訴や心身症、O.D、ライフスタイル等の問題、	養護診断の優先順位の考え方ー緊急度・重症度の高い医学診断を優先する問題。体の問題が否定された上で、心の問題を疑う。心身相関の主訴として代表的なもの：不定愁訴や心身症、O.D、ライフスタイルの問題等						
第3回	健康相談の理論とプロセス(健康相談活動を含む)	学校保健安全法の健康相談と養護教諭の職務の特質、保健室の機能を生かす教育職員免許法に規定される養護専門職として重要な健康相談活動論、および実際の展開プロセス。心身医学・心身の社会的要因・カウンセリング・人的資源・社会的資源等のアセスメントと活用について理解する。						
第4回	健康相談/健康相談活動の実際	健康相談/健康相談活動の実際を学校で活用できる技法を学ぶ。健康診断の事後措置指導や日常的な短期の訴えに対する心身の問題について、事例背景の要因分析、解決の為の支援方法について、討議しまとめてミニレポートを提出する。						
第5回	健康相談/健康相談活動の実際	健康相談/健康相談活動の実際をロールプレイ技法を通して学び、長期間継続する心身の問題について、事例背景の要因分析、解決の為の支援方法について、討議しまとめてミニレポートを提出する。						
第6回	健康相談/健康相談活動の実際	危機管理に関する事例をグループワークを通して学ぶ。グループワーク結果の発表を総括して、校内教職員間の共通理解や意志の疎通、校外の組織との連携や協働、とりわけ危機管理体制の組織活動の基盤づくりの重要性を理解する。						
第7回	健康相談/健康相談活動の記録と事例研究	健康相談/健康相談活動の記録のとり方、情報の共有と保秘義務の扱い、事例研究会の進め方ー発表のまとめ方、発表方法、質疑・ディスカッション等々						
第8回	健康相談/健康相談活動のまとめと評価	健康相談/健康相談活動における評価及び養護教諭の倫理綱領からの検討。終結について、予防のための保健教育目標や保健室経営計画の計画等、今後の課題の検討。						
教科書	「健康相談活動の理論と実際」三木とみ子/徳山美智子編、ぎょうせい、図でよむ心理学「生徒指導・教育相談」高野清純監修、佐々木雄二編 福村出版							
参考書	養護概説、新訂版「学校保健実務必携(第2次改訂版)第一法規」、初心者への為のフィジカルアセスメント、東山書房							
成績評価	単位認定 60点以上 課題レポートとする。							
授業時間外の学習	各自が積極的に自学自習に励むことを期待している。配布資料や指定された文献等により予習復習を行うこと。							
履修のポイント	養護概説を復習すること。日常生活における家族や友達の健康相談に応用してみる。							
オフィス・アワー	アポイントを取ること。							

平成27年度 シラバス

科目名	学校保健Ⅳ（小児救急）		担当者	加 固 正 子		学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	選択	単位	1単位		学年	4学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)					時限	
授業の概要	小児救急看護の必要性、現状、倫理、救命救急士を含めたチーム医療について概説し、小児のプライマリー・ケアに必要なトリアージ、および応急処置について教授する。								
教育目標	小児救急医療やそのチーム医療について理解を促し、学童期におきやすい事故や急変、および応急処置の基礎について学ぶ。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学童に遭遇しやすい救急事態の特徴について説明することができる。 ・小児救急における看護師および養護教諭の役割・知識・技術の要点を説明できる。 ・小児の救急時に行なうトリアージの基礎知識について説明できる。 ・小児の急性症状に対するフィジカルアセスメントと応急処置の基礎的知識・技術を説明できる。 								
授 業 計 画									
回	主 題		授 業 内 容				備 考		
第1回	小児救急看護の必要性と現状		<ul style="list-style-type: none"> ・わが国の小児救急の現状 ・保護者や学校が望む小児救急体制の充実とは 						
第2回	救急医療システムの理解		<ul style="list-style-type: none"> ・小児の時間外受診システムの理解 ・救急車を呼ぶ時の要点 ・救急時の対応ABC！ 						
第3回	主な急性期症状とアセスメント 1		発熱、下痢と脱水、腹痛、頭部外傷、けいれん、誤嚥、溺水、火傷など						
第4回	主な急性期症状とアセスメント 2		アセスメントとトリアージ(頭を強く打った、胸が痛い、背中が痛い、頭が痛い、お腹が痛いなど)						
第5回	小児救急外来トリアージの方法		<ul style="list-style-type: none"> ・外来での小児救急トリアージ例(入院加療の判断の基準は？) 1)発熱および合併症状 2)腹痛および合併症状 						
第6回	小児救急電話相談および電話トリアージ		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者から急病の電話相談があったら… 咳と息苦しさを、食事があまり食べられない 						
第7回	子どもの急病と応急処置 (1)		<ul style="list-style-type: none"> ・学童期に多い救急と応急処置 骨折と捻挫(四肢、鎖骨)、鼻出血、日焼け、酸・アルカリによる火傷 						
第8回	子どもの急病と応急処置 (2)		<ul style="list-style-type: none"> ・学童期に多い重症救急事例 ショック症状、手足のしびれ<過換気症候群>、頭を強く打った、胸を強く打った、腹部を強く打った 						
第9回									
第10回									
第11回									
第12回									
第13回									
第14回									
第15回									
教科書	今井睦他：先生!大変です!どうしたらいいですか!!－応急処置の実際、東山書房、2011年								
参考書	特に指定しません。								
成績評価	単位認定	60 点以上	終了テスト	100%					
授業時間外の学習	状況設定による、より実践的・総合的な知識を身につける努力をしましょう。								
履修のポイント	救急事態は、軽症から重症まで様々です。初期の判断力と対応ができる力が身につきます。								
オフィス・アワー	研究室にいる時はいつでもどうぞ。								

平成27年度 シラバス

科目名	機能看護学Ⅱ（看護管理）		担当者	島崎すえ子	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	3学年	曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	看護におけるマネジメントの機能は、「良質な看護サービスをより円滑に提供するための仕組みやその運営活動」であり、看護実践のあるところ、すべてにおいて必要とされる。							
教育目標	看護サービスの提供を組織とマネジメントの視点からとらえ、看護におけるマネジメントの機能について学ぶ。							
到達目標	①看護におけるマネジメントの機能について理解する ②組織における看護管理のあり方について理解する ③看護管理の特性について学ぶ ④看護管理を総合的に捉えることができる ⑤リーダーシップとマネジメントについて知識を深める ⑥看護管理を看護実践に活かすことができる							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	看護におけるマネジメント	看護マネジメントの必要性						
第2回	組織化とマネジメント	組織における看護管理の重要性						
第3回	看護管理のシステムアプローチ	看護管理システム						
第4回	看護サービス管理の特性	マネジメントの機能						
第5回	リーダーシップとマネジメント	看護管理に必要なリーダーシップのあり方						
第6回	看護管理の実際	看護管理を総合的に捉える						
第7回	グループワーク	臨地実習での看護実践と授業を受けての振り返りから、看護管理の機能について考える						
第8回	まとめ	グループワークでの発表						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	看護管理（医学書院）							
参考書	看護管理学習テキスト 看護管理概説論、看護マネジメント論							
成績評価	単位認定 60 点以上 授業及び実習態度、グループワーク発表、レポートによる							
授業時間外の学習								
履修のポイント	看護の機能を統合的に捉え、臨床実践で活かすことができるように学んでもらいたい							
オフィス・アワー								

平成27年度 シラバス

科目名	機能看護学Ⅲ 看護研究		担当者	加固 正子	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	3学年	曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	看護実践充実に関わる研究成果の収集と実践への応用の視点から、看護実践における課題や疑問の解決に向けた研究成果の応用の重要性と研究方法の基礎について教授する							
教育目標	研究方法の基礎、および看護実践における課題や疑問の解決に向けた研究成果の応用の重要性について理解する							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践充実に関わる研究の役割を知る 2. 研究方法の基礎として、研究の概念枠組み、研究デザイン、データ収集方法、データ分析方法について学習する。 3. 看護実践上の疑問を研究手法を用いて解明する意義を理解する 4. 看護実践上の疑問解決のためにこれまでの研究成果を活用することを思考する 5. 研究論文の書き方の基本について学習する。 							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	看護研究の意義 研究疑問とは	看護における研究の意義と文献 研究疑問と研究方法					講義	
第2回	研究計画書作成まで	研究疑問に対する研究計画書の書き方 研究計画書作成（データ収集計画を含む）					講義・演習 ①研究計画を書く 個別に提出	
第3回	データ収集	(1) 質問紙による実態調査、(2) 半構成的インタビュー、 (3) 生理的データ測定のグループ分かれてデータ収集を行う					グループ別提出物 ②研究計画書 ③データ収集表	
第4回	データ収集	同上						
第5回	データ収集と結果整理	収集したデータの集計、図表化、結果記述の方法					講義・グループワーク	
第6回	データ分析	収集したデータの集計、図表化、結果記述を行う					グループワーク	
第7回	データ分析と抄録作成	結果・考察を整理し、発表原稿を作成する					グループワーク	
第8回	結果発表	グループごとに、研究結果の発表を行う					発表会 ④発表原稿提出 (グループ別)	
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	富田真左子：パソコンで進めるやさしい看護研究、オーム社、2014。(2,800円)							
参考書	授業中、紹介する							
成績評価	単位認定	60 点以上	グループワークへの参加 (50%)、①1回目個人提出物 (20%)、②③④グループ別提出物 (30%) を総合して評価。					
授業時間外の学習	3年次臨地実習などで気づいた看護上の課題や疑問点を大切に記録し、振り返ることが大切です。							
履修のポイント	「研究」そのものを行えないが、看護研究の基礎としての、研究ステップ、用語を理解することです。							
オフィス・アワー	研究室にいる時はいつでもどうぞ。							

平成27年度 シラバス

科目名	看護専門職論Ⅰ（看護倫理）		担当者	吉田 礼子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日	木曜日
			(時間)	(30時間)			時限	2限
授業の概要	看護倫理の歴史的発展、今日の医療における看護職者の立場より担っていくべき倫理的責任、看護倫理アプローチとしての「原則の倫理」と「徳の倫理」の側面からの検討を通して看護専門職組織の社会的役割及び日本の文化の中での倫理的問題解決について探究する。							
教育目標	看護倫理の基礎的理解を図り、その基盤の上に看護倫理のアプローチを用いた事例検討、看護職の倫理綱領の理解、各国の看護における倫理、研究における倫理を通して、看護実践者としての自己の基盤となる倫理的感性・倫理観を培い、看護実践の中心に位置する倫理的に物事を考える道筋を見いだせるようにする。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理の意味について理解し、自分のことばで説明することができる。 2. 「良い」とはどういうことか、「良い人」「良いナース」とはどういう人か、考えることができる。 3. 倫理に関係することばとその意味について理解し、説明することができる。 4. 倫理的判断の必要な状況について知り、判断・行動するための考えの進め方を知り活用する姿勢が持てる。 5. 日々の中で、何が良いことか、根拠をもって考えながら行動する姿勢が高まる。 							
授業計画								
回	主題	授業内容					備考	
第1回	看護倫理とは	科目ガイダンス、「価値」について					講義4/9	
第2回	徳の倫理	「良い人」「良いナース」とは					講義4/16	
第3回	原則の倫理の基盤となる倫理理論	カントの義務論、ミルの功利主義					講義4/23	
第4回	原則の倫理	臨床倫理の原則 看護者の倫理綱領					講義4/30	
第5回	ケアの倫理	ケアの倫理とナラティブ					講義5/7	
第6回	倫理的判断が問われる問題	増大し重要化する倫理的問題と倫理的ジレンマ 文化背景と倫理 研究における倫理					講義5/14	
第7回	倫理的意思決定のプロセスⅠ	倫理的意思決定を導く4ステップモデル 臨床倫理の4分割法					講義5/21	
第8回	倫理的意思決定のプロセスⅡ	事例検討（グループディスカッション）					講義・演習5/28	
第9回	倫理的意思決定のプロセスⅢ	事例検討結果発表					講義・演習6/4	
第10回	知る権利	事例検討（癌の告知をためらう家族）					講義・演習6/11	
第11回	アドボカシー	事例検討（本音を言えない患者の退院支援）					講義・演習6/18	
第12回	パターンリズム	事例検討（糖尿病患者と患者教育）					講義・演習6/25	
第13回	守秘義務	事例検討（家族へも言いたくない秘密）					講義・演習7/2	
第14回	自律尊重	事例検討（認知症患者の意思について）					講義・演習7/9	
第15回	まとめ	事例検討（グループディスカッション）					講義・演習7/16	
教科書	小西恵美子編『看護倫理』南江堂							
参考書	ドゥーリー&マッカーシー著、坂川雅子訳『看護倫理1、3』みすず書房							
成績評価	単位認定60点以上 授業中の発表状況20%、課題レポート30%、筆記試験50%							
授業時間外の学習	教科書の該当箇所をよく読んで授業に臨んでください。							
履修のポイント	倫理的に「良い」ということは、看護の質にもつながります。何が良いことか、自分の行動の指針を自らに問いかける習慣をつけてゆきましょう。							
オフィス・アワー	在室中で時間があればいつでも対応します。11号館3階第5研究室です。							

平成27年度 シラバス

科目名	看護専門職論Ⅱ		担当者	監物 千代子	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	医療・看護の場はわずかな間違いが、患者の生命や身体の障害につながる危険性をはらんでいる。人は、間違いを起こす存在である事を自覚したうえで、エラーを防止し医療安全を守る必要がある。ヒューマンエラーを防止するためのシステム、おこりやすい医療事故とその防止についての知識と技術を習得する。							
教育目標	看護の質・看護師の責務について関連を捉え医療安全とは何か理解できる。 おこりやすい医療事故とその防止策について理解できる。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・看護の役割と責任について学ぶ。 ・医療事故とその防止方法についての、基本的な知識を習得する。 ・医療事故に関する動向と新人が陥りやすい事故について学ぶ。 							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	医療安全とは何か	医療安全の基礎知識と看護師の役割・看護師の責務 (手術患者取り扱い事件から学ぶもの)						
第2回	事故発生メカニズムと防止対策	ヒューマンエラーとは何か？事故の特性と事故を誘発させる要因						
第3回	診療の補助業務に伴う事故防止 (Ⅰ)	患者に投与する業務における事故防止 注射業務での間違いやすい表現・医療機器の基礎を学ぶ						
第4回	診療の補助業務に伴う事故防止 (Ⅱ)	患者に投与する業務における事故防止 内服与薬の事故防止・輸血業務・経管栄養・チューブ管理						
第5回	療養上の世話における事故防止 (Ⅰ)	療養上の世話における事故防止の捉え方 転倒・転落事故防止						
第6回	療養上の世話における事故防止 (Ⅱ)	療養上の世話における事故防止の捉え方 誤嚥・異食・入浴中の事故						
第7回	学生の実習と安全	医療安全とコミュニケーション(基礎実習から) 実習中の事故を予防する。事故発生時の学生の行動						
第8回	業務上の危険と防止策	KYT(危険予知トレーニング) 写真・イラストを用いる。 グループ検討						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	系統看護学講座	医療安全	看護の統合と実践[2]	川村治子	医学書院			
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 レポート100%評価							
履修のポイント								
履修のポイント								
オフィス・アワー								

平成27年度 シラバス

科目名	看護専門職論Ⅲ（緩和ケア）		担当者	櫻井通恵	学科	看護学科	開講期	後期	
区分	専門科目	選択	単位 (時間)	1単位 (15時間)	学年	2学年	曜日 時限		
授業の概要	がん患者および家族への看護活動を理解するために以下の内容を学習する。 1. がんの病態および治療の概要 2. がん患者の精神的・身体的特徴の理解と緩和方法・看護援助について 3. がん患者を支援する家族の特徴の理解と看護援助について 4. 緩和ケア、グリーフケアについて 5. 看護者としての感性を高める（死生観、がん患者・家族の思い等）								
教育目標	1. 罹患率、死亡率ともに高いがんの病態、症状、治療、看護の特殊性を理解する。 2. がん患者の苦痛を全人的に捉え、患者家族に対する看護援助の方法を理解する。 3. がん患者・家族のQOLを高める看護援助方法と看護の役割について理解する。								
到達目標	1. がん患者の病態、身体的特徴、治療の特徴について説明することができる。 2. がん看護における倫理について説明できる。 3. 緩和ケアの目的と実際について説明することができる。 4. がん患者の苦痛を全人的にとらえ適切な看護を説明できる。 5. がん患者特有の苦痛症状を理解し、その緩和方法及び看護援助について説明できる。 6. がん患者を支える家族の特徴を理解し、ニーズにあった看護援助について説明できる。								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容					備 考		
第1回	がんの特殊性	がんの動向、病態・治療の特殊性について							
第2回	がん看護における倫理的課題	倫理・看護倫理、緩和ケアをめぐる倫理的課題について							
第3回	緩和ケア	緩和ケアの歴史、緩和ケアの理念、緩和ケアの現状について							
第4回	がん患者の心理的・社会的・霊的苦痛と援助	がん患者の全人的苦痛と看護援助について、死生観について考える							
第5回	がん患者の身体的苦痛の援助・薬物療法	がん患者の身体的苦痛と身体症状のマネジメントとケア、薬物療法							
第6回	エンゼル・ケア、家族・遺族ケア	死後の処置の意味、家族・遺族ケアについて							
第7回	がん患者・家族の思いを考察する	がん患者・家族の思いを考察し支援方法を考える							
第8回	授業まとめ・試験	終末期がん患者及びその家族に対する看護支援のまとめ・試験							
第9回									
第10回									
第11回									
第12回									
第13回									
第14回									
第15回									
教科書	緩和・ターミナルケア看護論 ニーベルヒロカワ								
参考書									
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験60%以上								
授業時間外の学習									
履修のポイント									
オフィス・アワー									

平成27年度 シラバス

科目名	看護専門職論Ⅳ（多文化共生）		担当者	島田啓介	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	選択	単位	1単位	学年	2年	曜日	
	教職科目	（必修）	（時間）	（30時間）			時限	
授業の概要	<p>普段から触れている日常の事象に「気づき」を向け、新たな視点からとらえる。自分自身、自分とまわりの人間関係から、国や世界まで探求の範囲を広げ、異なる価値観への理解を深める。授業は演習型、グループ学習によってコミュニケーション力を培い、最終的には学外のフィールドワークでその成果を応用する。毎回のレポート提出によって学習を振り返るとともに、それぞれの日常生活の中に学習の素材を見つける。また、映像などの教材の随時利用しつつ、多面的な学習を進める。</p>							
教育目標	<p>日常の中にありながら見過ごしている現象に目を向け、自分たちの生を支えている様々な働きに気づく。個人から家族、地域、国家、世界へと視点を変えながら、様々な価値観を検証する。自分の頭で考え、演習とフィールドワークによって、仲間とともにコミュニケーションによって総合的に学習をする。将来の援助職として、自分と対象者に向かい合う基本的な姿勢を養う。</p>							
到達目標	<p>全員参加の演習型で、それぞれが主体的に学ぶ方針で行う。グループワークや相互的な学習を通じ、それぞれの中の希望や動機を掘り起こし、将来の仕事や生活の場において応用できる力を養う。</p>							

授 業 計 画

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	オリエンテーション	多文化を学ぶ上での基本的な考え方	
第2回	当たり前の見直し	自分への気づき、日常生活への気づき	
第3回	コミュニケーションワーク	伝えることの難しさと、伝え方の工夫を学ぶ	
第4回	（同上）	（同上）	
第5回	日常の中の気づきの応用	生活の中に様々な価値観の現れを見つけ、探求する	
第6回	（同上）	（同上）	
第7回	日本の中の多文化	社会的視点を広げていく	
第8回	（同上）	（同上）	
第9回	世界の多文化と自分のかかわり	自分の日常に反映している世界の文化と、問題点	
第10回	（同上）	（同上）	
第11回	フィールドワークの準備	今までのまとめと、フィールドワークの企画	
第12回	フィールドワーク	学外での実地学習	
第13回	（同上）	（同上）	
第14回	フィールドワークのまとめ	グループごとの報告とまとめ	
第15回	全体の学習のまとめ	学びをこれからの学習や仕事に生かしていくための指針	

平成27年度 シラバス

教科書	「世界がもし100人の村だったら 総集編」マガジンハウス
参考書	
成績評価	単位認定 60 点以上 発表内容と、提出物によって評価する
授業時間 外の学習	
履修の ポイント	各回のレポートを確実にまとめる。グループワークを中心に互いに学び合う。
オフィス ・アワー	

平成27年度 シラバス

科目名	看護専門職論Ⅵ(災害看護)		担当者	加固 正子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	選択	単位	1単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	自然・人為を問わず、国内・外を問わず、災害は人々の生命と健康を危機に陥れる。人々の生命と健康を守る看護が災害時に果たすべき役割を考えるとともに、災害発生時。急性期～復興期までの段階において必要な看護の理論と技術を教授する。							
教育目標	災害医療や看護の基礎を学び、災害時の看護職の役割を理解する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害の定義および災害看護の概要を理解できる。 2. 災害サイクルにおける保健医療ニーズと看護の場に応じた看護を理解できる。 3. 災害時に必要な援助技術の基礎を習得できる。 							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	災害看護の概要	歴史、定義、災害の種類、災害サイクル					講義	
第2回	災害看護の特徴	災害医療の特徴、災害関連法律 災害拠点病院とは、災害の種類と健康問題					講義	
第3回	災害サイクルと看護活動(1)	災害急性期の看護 ・救命・救出と災害時トリアージ ・災害時救急医療と看護の概要 ・ライフラインの復旧to災害活動のロジスティックス					講義 ミニ課題 1	
第4回	災害サイクルと看護活動(2)	災害亜急性期の看護 ・被災地の病院、避難所、または救護所での医療と看護 ・ボランティアセンターの開設と看護					講義 VTR	
第5回	災害サイクルと看護活動(3)	災害中長期(復旧・復興期)の看護 ・仮設住宅と巡回看護(アウトリーチ)のポイント 活動の場における看護 ・救護所に備える医療体制と備品 ・避難所における巡回医療・看護のポイント					講義	
第6回	災害時の要支援者の把握と援助	子ども、妊産婦、高齢者など 在宅ケアを受けている人々 障がいのある人々					講義 ミニ課題 2	
第7回	災害とこころのケア	災害後のこころのケア 災害による死とグリーフケア 救援者のストレス対策					講義	
第8回	災害への備え	病院での災害への備え ・役割認識、防災マニュアルの活用、定期的シュミレーション等 地域における災害への備え ・防災マップの活用(要支援者リスト,避難広場,避難所,避難経路等)					講義 VTR	
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	日本赤十字社事業局看護部(編)：系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学、医学書院、2014.							
参考書	黒田裕子・酒井明子：災害看護〔ナーシング・グラフィカEX⑤〕、中山書店、2014.							
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験(80%)、ミニ課題(20%)							
授業時間外の学習	教科書と配布資料を中心に講義の復習を行い、着実にミニ課題に取り組むことで記憶に残る学習とする。							
履修のポイント	キーワードを1つ1つ整理し、わからないことや疑問点は早めに質問する。							
オフィス・アワー	研究室にいるときはいつでも。							

平成27年度 シラバス

科目名	看護専門職論Ⅶ（家族看護）		担当者	鈴木裕子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	看護の対象は個人・家族・集団である。環境との相互関係の中で統合的・全体的にとらえる。家族を単位としてとらえることは概念的な理解の広がりを伴う。個人の背景として家族をとらえるのではなく、家族単位でとらえ看護課程を展開することを学ぶ。							
教育目標	家族看護の基礎理論や支援方法を学び、家族単位で対象をとらえ、支援する方法を学ぶ。							
到達目標	家族の形態や社会的な変遷、家族看護の変遷について理解する。 家族を単位として、また環境との相互関係の中で統合的・全体的にとらえ、対象理解を深める。 家族看護の代表的なアセスメントモデルを知り理解を深める。 家族像について理解し、イメージすることができる。 家族を対象とした看護課程の展開について理解を深める。 家族支援方法の知識と理解を深め、実践的に学ぶ。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	家族看護論を学ぶために	家族看護学の発展と動向						
第2回	家族看護の対象理解	家族の発達段階と家族システム						
第3回	家族看護の基礎理論	代表的な家族看護のモデル						
第4回	家族看護の実際	家族像の形成と看護課程の展開						
第5回	家族看護の事例 1	家族看護事例検討と討議 1						
第6回	家族看護の事例 2	家族看護事例検討と討議 2						
第7回	家族看護の事例 1 と 2	家族看護事例 1 と 2 の検討を繰り返し討議 3						
第8回	総括	まとめと展望						
教科書	山崎あけみ、原礼子 看護学テキストNice 家族看護学 19の臨床場面と8つの実践例から考える 南江堂							
参考書	鈴木和子 家族看護学：理論と実践 日本家族看護協会出版会 森岡清美・望月崇 新しい家族社会学 培風館							
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験70%，リアクションペーパー20%，授業態度10%							
授業時間外の学習	日頃から新聞やニュースに関心を持ち、現代家族の置かれた状況を知り考えを深める。							
履修のポイント	自分の家族や実習で出会った家族など身近なところから、また事例を通して実践的に学びを深める。							
オフィス・アワー	アポイントをとること。							

平成27年度 シラバス

科目名	看護専門職論Ⅷ（国際看護）		担当者	加固正子	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	選択	単位	2単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	世界の保健医療問題とその解決に向けた国際協力の現状と展望について教授する。特に、看護分野のこれまでの国際協力内容や援助プロセスについて解説する。国内的には、異なる国、異なる文化の下での看護の現状を知り、在日外国人に対応できるとともに国際看護協力活動に必要なとされる基本的知識やコミュニケーション技術・態度等の基本について教授する。							
教育目標	世界の保健医療問題、国際協力の現状と展望について理解し、医療職者として国際協力に関わるうえで重要な知識・技術の基礎や、主な看護活動の基礎を身につける。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界の人々の健康水準や我が国の保健医療分野における国際協力の現状と課題を理解する。 2. 国際的保健医療活動でのプロジェクト開発・実施・評価・フィードバックの一連のプロセスを理解する。 3. 国際保健医療協力の母子保健対策、感染症対策、環境改善、リハビリテーション等の概要を理解する。 4. 異文化理解と看護実践例について理解する。 							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	国際看護の概念と国際看護活動の意義		<ul style="list-style-type: none"> ・国際看護の概念 ・国際的な視野を持つことの意義 ・国際社会における日本の役割と看護 				講義	
第2回	英米の医療制度や看護教育制度の発展1		<ul style="list-style-type: none"> ・英米の医療制度等と医療事情の比較 				講義	
第3回	英米の医療制度や看護教育制度の発展2		<ul style="list-style-type: none"> ・英米の看護教育・教育制度等の比較 				講義	
第4回	看護活動のグローバル化と人材交流1		<ul style="list-style-type: none"> ・EPA等による外国人看護師の受け入れ インドネシア、フィリピン、ベトナム、中国 				ミニ課題1提出 講義	
第5回	看護活動のグローバル化と人材交流2		<ul style="list-style-type: none"> ・海外に看護人材を供給している国々とその背景 インドネシア、フィリピン、その他 				講義	
第6回	異文化理解と文化的ケア		<ul style="list-style-type: none"> ・文化的存在としての人間の理解 ・文化を考慮した保健医療 ・異文化理解と自国文化理解 ・文化を超えた保健医療 ・宗教や文化による保健ケアの違い 				講義	
第7回	国際保健活動の展開プロセス		<ul style="list-style-type: none"> ・大規模プロジェクトにおける手法 -ラオスにおける看護助産人材育成 -マダガスカルからの報告 				講義	
第8回	国際保健活動を推進する人と機関 1		<ul style="list-style-type: none"> ・国際機関のいろいろ -国際協力隊とポリオの根絶 ・保健医療分野における地域別援助実績例 				講義	
第9回	国際保健活動を推進する人と機関 2		<ul style="list-style-type: none"> ・NGOの国際協力活動例、 ・ODA政府開発援助とODAの担い手 ・保健教育関連のプロジェクト 				講義	
第10回	国際保健で必要とされる知識・技術・能力		<ul style="list-style-type: none"> ・異文化コミュニケーションと異文化適応能力 ・カルチャーショック、なぜ赤ちゃんは死んでしまったのか 				ミニ課題2提出 講義	
第11回	国際保健活動の推進を支援する対象		<ul style="list-style-type: none"> ・在日外国人への保健活動 ・群馬県内の外国人登録者数と保健医療問題 				講義	
第12回	国内での異文化看護活動 1		<ul style="list-style-type: none"> 日本で経験する文化の違い ・医療域間で働く看護師の立場から ・医療文化の違いをサポートする 				講義	
第13回	国内での異文化看護活動 2		<ul style="list-style-type: none"> 海外における看護活動と日本との比較 ・海外赴任する社員や家族への医療 				講義	
第14回	発展途上国と国際看護活動		<ul style="list-style-type: none"> 発展途上国における ・急激なライフスタイルの変化と健康課題 ・教育と健康格差 				講義	
第15回	国際保健活動における我が国の課題		<ul style="list-style-type: none"> ・国際保健活動支援を必要としている国々と我が国の課題 ・全体のまとめ 				講義	
教科書	浦田喜久子：系統看護学講座 統合分野【4】災害看護学・国際看護学、医学書院、2015.							
参考書	世界子ども白書（ユニセフのホームページよりダウンロード可能） 内海成治：国際協力を学ぶ人のために、世界思想社、2005.							
成績評価	単位認定	60点以上	ミニ課題1, 2 (20%)、筆記試験 (80%)					
授業時間外の学習	異文化コミュニケーション、グローバル化が進む中での日本の看護師の役割について考え、学習していただきたい。							
履修のポイント	多様な文化や生活習慣に対して関心を深めていくことが重要である。							
オフィス・アワー	研究室にいる時はいつでもどうぞ。							

平成27年度 シラバス

科目名	統合セミナー		担当者	瀬野尾 章 看護系教員	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(30時間)		時限		
授業の概要	これまで学んできた教養系科目、基礎専門科目そして看護専門科目を統合した形で理解し、考えられる事が、実際の看護ケアを展開していく上で極めて重要です。この統合的な思考過程を習得できる様に、そして、患者に対する人間理解をより深められる様に、各領域の専門家が教授する。							
教育目標	それぞれの領域に関連する代表的疾患について、幅広い側面から考え、それらを統合して理解できるようにさせる。							
到達目標	看護職者として知らなければならない疾病の原因、検査、症状、治療などに関連する幅広い知識に加え、社会的側面（法令、規則など）なども統合して患者の人間理解ができるようになる。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	症候学－1	発熱、口渇、嘔下困難、下痢、便秘、浮腫、脱水、供水、腹水吐血、下血、喀血、肝・脾						
第2回	症候学－2	過呼吸、呼吸リズム異常、動悸、低酸素血症、チアノーゼ、貧血、乏尿、無尿、脱水						
第3回	基礎看護	基礎看護学と他領域との統合						
第4回	基礎看護	基礎看護学と他領域との統合						
第5回	成人看護	成人看護学と他領域との統合						
第6回	成人看護	成人看護学と他領域との統合						
第7回	成人看護	成人看護学と他領域との統合						
第8回	小児看護	小児看護学と他領域との統合						
第9回	小児看護	小児看護学と他領域との統合						
第10回	母性看護	母性看護学と他領域との統合						
第11回	母性看護	母性看護学と他領域との統合						
第12回	精神看護	精神看護学と他領域との統合						
第13回	老年看護	老年看護学と他領域との統合						
第14回	在宅看護	在宅看護学と他領域との統合						
第15回	教育効果の判定	国家試験と同様形式の試験						
教科書	レビューブック、岡庭 豊編集、メディクメディア発行							
参考書	各領域の参考書							
成績評価	最終試験として、看護師国家試験と同一形式の多岐選択問題による試験を行い、60点以上を単位認定とする。但し、試験問題の難易度により、平均点や標準偏差値を考慮して評価する。							
授業時間外の学習	国家試験にも直結する学問内容です。日頃の継続的な取り組みが不可欠です。							
履修のポイント	授業に参加しその場で理解を深める事が大切です。また疑問に思う事は積極的に質問し、その都度解決することが大切です。							
オフィス・アワー	随時可能。研究室にて対応します。							

平成27年度 シラバス

科目名	現代教職論		担当者	熊谷一乗	学科	看護学科 栄養学科	開講期	後期
区分	教職科目	必修	単位	2単位	学年	1学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	現代日本の学校教育において重要な位置を占め、その実践上、決定的に重要な役割をはたしている教職について、その意義、制度、仕組み、歴史、さらに教職現場の実態、児童生徒・父母との対応、といった事項を取り上げ講義を行う。							
教育目標	教員免許の取得をめざすみなさんのために教職に関する理解を深め、教職に就く心構えを養うことを目的にしている。							
到達目標	第一に教師と教員との相違を明瞭に説明できることをめざしていただきたい。第二に教員養成と教員採用の仕組みを理解することを目標にしていきたい。第三には、教師像の歴史の変遷について関心をもてるように教職の歴史を学んでいただきたい。第四には、教職を制約している法規について理解を深めることである。最後に教育の現場で優れたリーダーシップが発揮できるように、教職の内容を理解し、その実務における教員の役割の遂行の仕方について授業の内容をヒントに考え、探究することである。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	学校と教職	組織の特色、学校教育における教職の位置、教職の意味。教育者と教師と教員と。						
第2回	教員の養成と採用	教員養成の制度、閉鎖性と開放性、現代日本の教員養成の仕組み、教育実習、免許法。						
第3回	教職の種別	学校段階別の教職、教科担当教員、養護教諭、栄養教諭、司書教諭等。						
第4回	教職の歴史	近代学校の成立と教職、日本における戦前期と戦後期。						
第5回	「教師像」の探究	明治期の教師像、尊師主義、教師聖職観、戦後期の教師像、自由主義的教師像、教師労働者論、専門職教師観、実務主義の教師観、教育基本法の教師観。						
第6回	教員の職務	教育課程の編成・実施、教科担任、学級担任、各種校務分掌、生徒指導、クラブ活動の指導。						
第7回	教職に関する法規	教職と法規、教育基本法、学校教育法、教職公務員特例法、地教行政法等。						
第8回	教師タイプと教員文化	「先生」と呼び合う社会、教師タイプ、教職指導のマニュアル・定型等。						
第9回	子ども・保護者との関係	教師感情一好き嫌い、敬慕、抵抗・反発、子どもの扱いかた。保護者の訴え、相談。						
第10回	教職の現場	協働関係、孤独な場面、上司との関係、葛藤、多忙さ、ストレス、悩み等。						
第11回	教育実践への取り組み	授業設計、授業の展開、テストの実施・評価、通知票作成、教育相談等。						
第12回	学校・学級の経営と教職	学校組織の特色、学級経営、学校の職制、学校経営への参加、学級経営の実務。						
第13回	教員の資質向上と研修	教員であることの資格、教職の専門性、教員の力量、教職のモラル、指導力不足の問題、法規に基づく研修、教員としての成長。						
第14回	教員の勤務条件と健康	勤務時間の問題、給与の問題、超過勤務、疾病による欠勤・休職の問題等。						
第15回	現代の学校と教職の課題	社会の変動・子どもの変化への対応、教育改革への対応、学力問題への対応等。						
教科書	使用せず							
参考書	小島弘道他、教師の条件、学文社（TEL＝03-3715-1501）、価格・2625円（税込） 授業の際、教室で指示。							
成績評価	単位認定 60 点以上 学期末の試験の成績と授業への取組等を総合して評価。							
授業時間外の学習	新聞の教育記事を読むようにすること。							
履修のポイント	「教職に就く心構え」ができていること。							
オフィス・アワー								

平成27年度 シラバス

科目名	教育心理学		担当者	亀岡聖朗	学科	看護学科 栄養学科	開講期	後期
区分	教職科目	必修	単位	2単位	学年	1学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	教師が学校現場で児童・生徒と対応する際には、彼らが、今現在発達のどのような状況におかれているのか、また、そのときの心の状態はいかなるものなのか、ということに配慮しながら接することが求められる。この科目では、人は環境と相互に作用しあう存在であることを踏まえて、人の発達過程、学習過程、教授過程について講義する。授業は講義形式で行うが、授業後半では実習も取り入れ、可能であれば学生による「模擬授業」を実施する予定である。							
教育目標	青年期までの人の発達過程とその特徴、学習のしくみと学習を規定する要因と障がい、教授の類型について理解を深めることを目的とする。							
到達目標	1. 教育心理学で使用されるさまざまな専門用語の意味を理解する。 2. 青年期までの人の発達過程とその特徴について理解する。 3. 学習のしくみと学習を規定する要因、および障がいについて理解する。 4. 「教える」ということを体験を通じて実感し、自ら「教える」立場をシュミレーションする。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	ガイダンス 教育心理学で取り扱う問題	講義の進め方、成績評価のしかたなどについて 教育心理学で取り扱う内容について（発達・学習・教授）					1章	
第2回	人生初期の発達①	生涯発達（発達の理論）、人間発達の共通性、社会性発達の芽生え					2章・3章・6章	
第3回	人生初期の発達②	認知の発達、発達の最近接領域					2章・4章	
第4回	青年期の発達①	青年期の心理的特徴、適応と不適応、適応機制					5章・12章	
第5回	青年期の発達②	青年期の発達課題、アイデンティティの獲得について					5章	
第6回	障がいの理解	障がいの種類、障がい児・者の理解と対応					15章	
第7回	さまざまな学習理論①	連合説（刺激－反応の結びつき）による学習のしくみと認知説（認知の変容）による学習のしくみ					7章	
第8回	さまざまな学習理論②	授業における学習指導の理論、学習の個性化					8章	
第9回	学習の規定因①	動機づけの理論、動機づけを高めるためには					8章	
第10回	学習の規定因②	個性を反映するものとしての性格～性格理論、性格検査					9章・11章 ※実習を含む予定。	
第11回	学習の規定因③	個性を反映するものとしての知能～知能の構造、知能検査、創造性					10章	
第12回	学校教育相談	生徒指導と教育相談、教育相談のあゆみとその方法					13章・14章	
第13回	教育測定と教育評価	評価の意義と工夫、絶対評価と相対評価の違い、学力のとらえ方					11章	
第14回	教授技法①	教える技術、伝える技術、授業づくり 模擬授業体験①（模擬授業についての説明と計画）					※実習を含む予定。受講者数により 授業内容を調整することあり。	
第15回	教授技法②	模擬授業体験②（体験学習；発表）					※実習を含む予定。受講者数により 授業内容を調整することあり。	
教科書	藤田主一・斉藤雅英・宇部弘子編『新 発達と教育の心理学』福村出版							
参考書	適宜紹介する。							
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験85%、レポート・課題15%							
授業時間外の学習	各回の主題に該当する教科書の章に目を通すことが予習となる。配布資料・ノートのまとめを復習として勧める。主題により、復習のためのレポート課題を課すことがある。							
履修のポイント	授業への積極的な取り組みを期待します。							
オフィス・アワー	毎週水曜もしくは木曜の昼休み（12：30～13：20）、11号館第8研究室。 あるいは、講義終了前後などに、適宜受け付けます。							

平成27年度 シラバス

科目名	教育課程論		担当者	熊谷一乗	学科	看護学科・栄養学科	開講期	前期
区分	教職科目	必修 (必修)	単位 (時間)	2 単位 30 時間	学年	2 年	曜日 時限	
授業の概要	教育課程は、教員の教育活動、児童生徒の学習活動を方向づけ、枠づけるものであり、学校の教育が組織的に、系統的に滞りなく円滑に行われるためには、なくてはならないものである。児童生徒の発達と学校の環境条件にあわせて作られた教育自薦を導く教育計画といわれる。講義では、学校の教育が所期の目的をより効果的に適切に達成するために、という観点から、まず、教育課程の意義、構造、機能、歴史といった基本的な事項について説明し、次いで、その編成の仕方、編成に関する法規、評価の仕方といった実務的な事項について考察する。							
教育目標	まず、学校の教育における教育課程の意義と構造・機能を理解し、編成に関する基本的な事項についての知識を学ぶことを目的とする。教育課程の編成と学習指導要領との関係について理解を深めることが重要である。							
到達目標	第一に学校における教育活動になぜ教育課程が必要となるか、教育課程がどのような歴史の変遷を経て今日にいたったかをよく理解することである。第二に教育課程の構造と機能がどのようなものかを把握することである。第三には、教育課程の編成がどのように行われるか、学習指導要領が教育課程の編成上、どのような意味をもつか、教育課程の編成はどのような法規に制約されているかを理解することである。最後に教育課程の実施にともなう評価の重要性について考えてみることである。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	学校の教育と教育課程		学校の性質と教育内容の組織化、学校の教育活動と教育課程、教育のための時間の制約と教育課程、教育課程の意義。					
第2回	学習内容観と教育課程		教育・学習観と教育内容観、教育・学習内容観と教育課程のタイプ、文化の体系重視、経験・活動の重視、児童中心の場合。					
第3回	教育課程の条件		哲学的条件、社会学的条件、人間学的心理学「特に発達心理学」的條件、教育学的条件。					
第4回	歴史のなかの教育課程		社会の発展段階と教育課程の特徴、教養重視の教科並列型、統合的教育課程論、経験主義的教育課程論。					
第5回	現代の社会と教育課程		知識爆発の時代＝知識基盤型社会と学問中心的教育課程、人間化への要請、「ゆとりの教育」をめぐる諸問題、学力重視の政策と教育課程。					
第6回	人間の成長と教育内容		発達段階への対応、可能性＝可塑性への働きかけと教育内容、社会化と教育内容、学力形成とと教育内容。					
第7回	教育内容の構造		教育内容の類別、教科の構成、教育内容の精選、内容の構造化、教科以外の教育内容＝道徳、体験的活動、行事、クラブ活動等。					
第8回	単元の設定		単元の意義、テーマごとの教育・学習内容のまとめ、教材単元と経験単元、単元の構成と教材の準備。					
第9回	教育課程の編成		全体的教育課程、個別的教育課程、編成に関する法規＝学校教育法・同施行規則を中心に、編成の手順、編成の特例。					
第10回	編成における定性化		定性化とは何か、編成上の基本的視点、教育の目的・目標の設定、教育方針の明確化、指導内容の重点化、指導内容の構造化。					
第11回	編成における定量化		教育内容と教育時間における量的制約、教育・学習活動における定量化の必要性、指導内容の適量化、時間配当の問題。					
第12回	脅威家庭の実施		指導・行事計画の作成、日課表の作成、時間割(表)の作成、教材のチェック、施設設備の点検と活用。					
第13回	教育課程の評価		実施(実践)に対する評価の重要性、評価の視点、評価の方法、次の教育課程の編成に向けて。					
第14回	学習指導要領と教育課程		学習指導要領の構造と役割、学習指導要領の変遷、試案と告示＝法的拘束力、編成の基準としての意義。					
第15回	教育課程の改革		変動する社会と学校の改革・変化・改善、学校の教育水準を向上させるための教育課程の改革・改膳の条件、改革・改善への過程、現代の社会における教育課程編成の課題。					
教科書	熊谷一乗著「教育内容論」(創大出版会)、定価1,000円「税込」							
参考書	講義のさいに指示							
成績評価	単位認定 60 点以上 学期末の試験の成績と出席状況とを総合して評価							
授業時間外の学習	新聞の教育記事を読むようにすること。							
履修のポイント	教員免許の取得を目指す学生諸君のための講義科目であり、何よりも教職への志を固めていることが大切です。							
オフィス・アワー								

平成27年度 シラバス

科目名	教育方法論		担当者	森山賢一	学科	看護学科 栄養学科	開講期	後期
区分	教職科目	必修	単位 (時間)	1単位 (30時間)	学年	2学年	曜日 時限	
授業の概要	<p>学校生活の大部分を占める授業は生徒にとって大きな意味と役割を有している。そこで本講義は、学校教育における学習指導の展開について、特にわかる授業に焦点化し、理論と実践の両面から考察していく。さらに今日の教育の方法、技術においての情報機器及び教材の活用の観点から、視聴覚メディアと教育に関する理解も深めていくこととしたい。</p>							
教育目標								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業理論と指導方法についての理解 ・ 授業における話し方、発問と応答、板書、ノート指導などの理解 ・ 学習における基本的なしつけについての理解 ・ 授業の評価と授業研究についての理解 ・ 視聴覚教育、教育メディアについての理解 ・ 学習指導案の作成 							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	授業という世界	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業とは何か ・ わかる授業とわからない授業 						
第2回	わかる授業の理論と指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習理論と学習指導法 ・ わかる授業の理論と指導技術 						
第3回	板書とノート指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 板書の機能と目的に応じた工夫 ・ ノートの機能とノート指導の留意点 						
第4回	教育におけるメディア利用の歩みと視聴覚メディアの種類・機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視聴覚教育の意味と歴史 ・ 教育メディアの種類と選択 						
第5回	学習指導案の作成（1）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導案の作成の手順 ・ 学習指導案の作成の留意点 ・ 学習指導案の作成 						
第6回	学習指導案の作成（2）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導案の作成 						
第7回	授業の実際（1）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬授業の過程によって本講義のまとめ（板書、発問、指名、ノート指導、机間指導、情報機器の取扱いなど）を行う 						
第8回	授業の実際（2）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬授業の過程によって本講義のまとめ（板書、発問、指名、ノート指導、机間指導、情報機器の取扱いなど）を行う 						
教科書								
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上							
授業時間外の学習								
履修のポイント								
オフィス・アワー								

平成27年度 シラバス

科目名	生徒指導論		担当者	田口和人	学科	看護学科・栄養学科	開講期	後期
区分	教職科目	必修	単位	2単位	学年	2学年	曜日	
			(時間)				時限	
授業の概要	子どもたちを取り巻く状況は、社会の変化に呼応するかのようにより多様な問題を内包してきています。不登校・いじめ（いじめ自殺）・ネットトラブル・引きこもり・学級崩壊など、多くの学校で見られるような教育問題が存在しています。生徒指導はこれらに対処することが求められています。これらを前提として、①生徒指導とはなにか、②生徒指導が担うべき役割はなにか、③生徒指導において教師がそなえ持つべき要件はなにか、を基本的な柱として考えたいと思います。 ※発言を求めます。							
教育目標	子どもたちの背景にあるものを、広く・深く洞察できるような知識・観点・考え方の学習を目的とします。							
到達目標	次の4つを学習目標とします。 ①学校教育の現状について認識を深めること ②子どもたちを取り巻く状況についての認識を深めること ③子どもの背景にあるものへの各自の洞察力を育てること ④生徒指導への大胆なアイデアをもつように努力すること							
授業計画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	生徒指導とは	学校教育・生徒指導の記憶・イメージをたどりながら、その共有化をはかる。						
第2回	学校とは、学校教育とは	生徒指導の経験的イメージを踏まえながら、教育活動の二つの形態（教授と陶冶）について考える。						
第3回	子どもの内面への接近①	視聴覚教材（楽曲）により、子どもの内面世界への洞察を試みる。その上で、感想・意見をレポートする。						
第4回	子どもの内面への接近②	第3回での感想・意見をもとに、子どもの内面理解を掘り下げる。						
第5回	学校教育の現状	視聴覚教材により、今日の学校教育の現状について考える。その上で、感想・意見をレポートする。						
第6回	生徒指導の現状	第5回での感想・意見をもとに、生徒指導が必要とされる子どもの現状についての理解を深める。						
第7回	グループ・ディスカッション①	生徒指導に関わるテーマについて、グループでディスカッションを行い、報告の準備を行う。						
第8回	グループ報告会①	第7回でのディスカッションをもとに、報告を行う。						
第9回	体罰問題	学校教育、部活動でなくならない体罰について考える。						
第10回	グループ・ディスカッション②	生徒指導に関わるテーマについて、グループでディスカッションを行い、報告の準備を行う。						
第11回	グループ報告会②	第10回でのディスカッションをもとに、報告を行う。						
第12回	いじめ問題	視聴覚教材により、いじめ（いじめ自殺）の現状について考える。その上で、感想・意見をレポートする。						
第13回	いじめと生徒指導	生徒指導をとうして、いじめ問題にどのように対応すれば良いかを考える。						
第14回	携帯（SNS）問題・学級崩壊	携帯（SNS）にまつわる問題、および学級が崩壊状態に陥る現状について考える。						
第15回	まとめ	経験してきた生徒指導と授業を通して学んだ生徒指導を比較検討して考える。						
教科書								
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験80% レポート・発言20%で評価します。							
授業時間外の学習								
履修のポイント								
オフィス・アワー								

平成27年度 シラバス

科目名	道徳教育及び特別活動の研究		担当者	田口和人	学科	看護・栄養	開講期	前期
区分	教職科目	必修	単位 (時間)	1 (15時間)	学年	4年次	曜日	
							時限	
授業の概要	教育課程における道徳教育・特別活動の位置について理解することを第一に行います。その上で、道徳教育と特別活動を一応区分したうえで、それぞれについて「グループ討議」を行います。また視聴覚教材を見て道徳の授業についての理解を深めます。							
教育目標	教育課程における道徳教育・特別活動の位置について理解すると同時に、今日の子どもたちが置かれた状況を考慮した場合に、どのような道徳教育・特別活動が求められるのかについて考えることを学習の目的とします。							
到達目標	日本の道徳教育は1945年を境とする戦前・戦後では大きく変わりました。それは特別活動にも同様のことがいえます。何がどのように変わったのかについて理解することを一つの目標とします。その上で、今日の子どもたちが抱える様々な教育問題を想定しながら、求められる道徳教育・特別活動はどのようなものであるかについて、自分自身で考えることを二つ目の目標とします。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	教育課程における道徳教育／特別活動	道徳教育とは、特別活動とは（教育課程についての説明）。日本の近代教育における道徳教育と特別活動について考える。						
第2回	学校教育について	教育活動の二つの形態（教授と陶冶）について学習する。						
第3回	学習指導要領と道徳教育／特別活動	今日の道徳の教科化を念頭に、学習指導要領と道徳教育・特別活動について学習する。						
第4回	道徳の授業	道徳の授業の視聴覚教材を見て、批判的な検討・学習を行う。						
第5回	特別活動の授業	学級活動、児童会活動及び生徒会活動、学校行事について学習する。						
第6回	道徳教育／特別活動についてのグループ討議①	テーマを設定してグループごとに討議を行う。						
第7回	道徳教育／特別活動についてのグループ討議②	グループ討議した内容を整理して、発表する。						
第8回	まとめ	道徳教育と特別活動の現状と展望についてのまとめを行う。						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	適宜、資料を配付します。							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験80%、授業中のレポート、発言20%で評価します。							
授業時間外の学習								
履修のポイント								
オフィス・アワー								

平成27年度 シラバス

科目名	教育相談論		担当者	山本裕詞	学科	看護学科・栄養学科	開講期	後期
区分	教職科目	自由	単位	2単位	学年	4学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	学校における教育相談についての包括理解から入り、徐々に具体的技法や現実の児童生徒を想定した教育相談の在り方を明らかにしていく。カウンセリングやソーシャルワークの技法にも学びながら、しかし教師の専門性として教育相談が展開されることの意義を追求する授業を目指す。							
教育目標	教育相談に必要な知識を理解し、実際に実践する際の基礎力を身に付ける。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育相談の必要性、学校教育上の位置付けについて理解する。 2. 子どもの成長発達上の課題や、それに対する現代社会の影響を踏まえた対応を理解する。 3. 教育相談の技法を支える人間観を理解する。 4. 教育相談に係わる多様な専門職性を理解し、チームアプローチの基礎的知識を得る。 5. 事例を通して、教育相談を実践する基礎を培う。 							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1回	オリエンテーション 教育相談の基礎知識		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のねらい、方法、評価の在り方について 2. 広義の教育相談と学校教育相談 					
第2回	教育相談の基本姿勢		<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理的事実の受容・共感と客観的指導 2. 教育相談の「心」 					
第3回	教育相談の理論と技法		<ol style="list-style-type: none"> 1. 理論と技法に関する基礎知識の必要性 2. 教育相談に関する主な理論と技法 					
第4回	児童生徒理解とは何か		<ol style="list-style-type: none"> 1. 意義と分類 2. 児童生徒理解の基本姿勢と具体的方法 					
第5回	児童生徒の一般的理解		<ol style="list-style-type: none"> 1. 一般的理解の必要性 2. 心に関わる疾病・障害・行動特性・言動 					
第6回	発達段階の理解		<ol style="list-style-type: none"> 1. 「発達」という概念の特徴 2. 発達課題の考え方 					
第7回	児童生徒理解の手法		<ol style="list-style-type: none"> 1. 「みる」「きく」ことによる理解 2. 「探る」ための基礎知識 					
第8回	校内教育相談体制の構築		<ol style="list-style-type: none"> 1. 管理職の役割と可能性 2. 校内教育相談体制と担任の役割 					
第9回	教育相談の組織的展開		<ol style="list-style-type: none"> 1. 異なる専門職との連携 2. 専門機関との連携 					
第10回	教育相談に必要な法令理解		<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育相談と法令 2. 専門団体の倫理規定と校内の申し合わせ 					
第11回	開発的・予防的教育相談①		<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己理解・人間関係を深める 2. 自尊感情を育て、共感力を高める支援 					
第12回	開発的・予防的教育相談②		<ol style="list-style-type: none"> 1. 表現力を高め、自己調整力を培う 2. 相互支援を進め、集団成長を促す 					
第13回	問題解決的教育相談①		<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達障害のある児童生徒への対応 2. 非行問題・いじめ問題への対応 					
第14回	問題解決的教育相談②		<ol style="list-style-type: none"> 1. 不登校児童生徒への支援 2. 多様化する問題への対応 					
第15回	これからの教育相談		<ol style="list-style-type: none"> 1. 開発的・包括的支援体制の構築 2. 授業のまとめ 					
教科書	使用しません。必要に応じてプリントを配付します。							
参考書	文部科学省『生徒指導提要』2010年、文部科学省「児童生徒の教育相談の充実について（報告）」（以上の2点は、文科省HPから入手可能）、嶋崎政男『入門 学校教育相談』学事出版2014年、國分康孝『学校カウンセリングの基本問題』誠信書房1987年。							
成績評価	単位認定 60 点以上 授業中に実施する確認テストと2～3回課す予定のレポートによって40%、残り60%を学期末試験。欠席、遅刻等は減点の対象とする。体験的学習への積極的参加は加点の対象とする。							
授業時間外の学習	2～3回課す予定のレポートは、自学による情報収集を必要とするものになる。また、授業の後は、ノートを整理しながら復習することを求める。随時、関連図書も紹介するので、自らの関心を深めていって欲しい。							
履修のポイント	「教育相談」の原理的理解に努めながらも、同時に、児童生徒の多様な生活背景を想像することが重要である。							
オフィス・アワー	アポイントをとってください。水曜日に互いの都合の良い時間を調整します。							

平成27年度 シラバス

科目名	教職実践演習（養護教諭）		担当者	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	自由	単位	学年	4 学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)			(30時間)	
授業の概要	第1回は、教職担当教員によりオリエンテーションを行う。第2回は、養護教育実習を振り返りながら、教師という仕事について考える。3回から4回は子どもの抱える成長・心の問題、5回～6回は子どもの抱える学びに対する問題、7回は対人関係の問題に対する援助・指導の実際をそれぞれ理論・理解・対応（ブレインストーミング・ロールプレイング）・振り返りの順序で行う。第8回～第14回では、養護実習で経験した学校保健活動、学習指導案作りや研究授業の評価やこれまでの学びをすべて活用し、学校現場が抱える健康課題に対して、養護教諭としてどのように解決を図るのかについて協議をしていく。第15回は、履修カルテを用いて教職課程の総合的な確認を行う。						
教育目標	履修カルテにより、個人別の履修状況や教師になるための実践的指導力等を把握しながら、演習を通して受講者が養護教諭になるために必要な能力を培わせることを目的とする。また、組織の一員としての自覚や地域社会とのつながりを意識しながら、社会性や人間関係能力を育成する。						
到達目標	①履修カルテにより、履修状況を確認する。 ②養護教諭になるために必要な能力を、身につける。 ③学校という組織の一員として自覚するとともに、教師として豊かな感性や人間関係力を高める。						
授業計画							
回	主 題	授 業 内 容				備 考	
第1回	オリエンテーション	教職実践演習の内容とスケジュールの確認。履修カルテの確認				教職担当教員	
第2回	学校教育・教師の仕事	教育実習を踏まえて、教師の仕事について学び、考える。				養護教諭担当教員 及び教職担当教員	
第3回	子どもの抱える成長・心の問題（1）	子ども期、思春期、青年期（前期）の発達と各段階における問題の援助・指導の実際について学び、活用法を検討する。				教職担当教員	
第4回	子どもの抱える成長・心の問題（2）	問題の援助・指導法をブレインストーミングで案出し、ロールプレイにより実践的な対応能力を身につける。				教職担当教員	
第5回	子どもの抱える学びの問題（1）	学習意欲の低下、過剰適応、発達障がい等についての援助・指導について学び、活用法を検討する。				教職担当教員	
第6回	子どもの抱える学びの問題（2）	援助・指導法をブレインストーミングで案出し、ロールプレイにより実践的な対応能力を身につける。				教職担当教員	
第7回	子どもの抱える対人関係の問題	いじめの対応と援助・指導の実際を学び、他教員、カウンセラー、保護者などとの連携的対応を検討する。				教職担当教員	
第8回	学校保健における実践演習	模擬保健指導～養護実習における研究授業の成果と課題を生かした保健指導・保健学習の授業構想（グループ演習）				養護教諭担当教員	
第9回							
第10回		模擬保健指導～指導案の発表と指導法の検討（発表）（グループワーク）				養護教諭担当教員	
第11回							
第12回		事例検討～子どもへの健康相談（事例検討、ロールプレイから考える）				養護教諭担当教員	
第13回		事例検討～保健室での子どもへの対応（救急処置場面、ロールプレイから考える）				養護教諭担当教員	
第14回		目指す養護教諭像（協議 「教師、子ども、保護者が期待する養護教諭の姿とは」）				養護教諭担当教員	
第15回	まとめ	履修カルテを用いて、教職課程の総合的な確認を行う。				養護教諭担当教員 及び教職担当教員	
教科書	プリントをその都度配布する。						
参考書	占部慎一著「子どもたちの逸脱・非行」学文社 「新・学校保健」 東山書房/「養護教諭のための教育実習マニュアル〈第4版〉」尾花・栗田・西川路著 少年写真新聞社						
成績評価	単位認定 60 点以上 小レポート、総括レポートの提出状況、演習・発表内容を総合して評価						
授業時間外の学習	各自が課題をもって、積極的に予習や復習に励むこと。						
履修のポイント	各自が自分の考えを積極的に発表し、共に学び合う場にしてください。						
オフィス・アワー	アポイントを取ること。						

平成27年度 シラバス

科目名	養護実習		担当者	黒岩 初美 鈴木 裕子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	教職科目	必修	単位	4 単位	学年	4 年	曜日	
			(時間)	120時間			時限	
授業の概要	教育実習生として、これまで大学で学んだ養護教諭の職務に関する知識や技術を具体的な実務を通して体験する。また、児童生徒の実態や課題を把握しどのように学校保健活動を推進させていくのかを理解したり、養護教諭の専門的な立場から児童生徒に対しての適切な指導や助言の在り方等を学んだりする。さらに、学校における教育活動全般について理解するとともに、学校組織の一員としての責任と自覚、専門職としての向上意欲、使命感の醸成を図る。							
教育目標	①大学で学んだ知識・理論・技術について、実践を通して確認する。②児童生徒の実態と学校、地域の現状を知り、学校教育目標、学校保健目標の達成に向けて行われている教育活動を理解する。③養護教諭として必要とされる資質・能力についての学習課題を見出させる。							
到達目標	養護実習を通して、 ①児童生徒理解を深めることができる ②保健管理・保健教育・組織活動の実際に触れ、知識と実践を結びつけてより深く理解することができる ③養護教諭と他教職員、保護者や地域等との連携や協働の実際を知ることができる							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	第1週	情報収集と実習目標に向けた取組						
第2回		・実習計画の細案の打ち合わせ（講義・観察・参加・実習別）						
第3回		・健康診断の準備、実施事後措置等						
第4回		・研究授業までの計画						
第5回								
第6回	第2週	積極的に課題意識をもって実践						
第7回								
第8回	第3週	実習の成果を点検						
第9回		・各種の指導や実践のをまとめ評価する						
第10回		・得られた成果を確認する						
第11回		・実習をまとめ、大学へ提出する報告書を作成する						
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	養護教諭必携シリーズNo4「養護実習ハンドブック」大谷尚子 中桐佐智子 編著（東山書房）							
参考書	「新養護概説（第7版）」采女智津江 少年写真新聞社							
成績評価	単位認定 60 点以上 実習校での評価、実習記録等をもとに大学教職課程委員会と協議し総合判定とする。再実習は実施しない							
授業時間外の学習	実習期間中、毎日実習内容の記録と振り返りを行い、自身の学びと課題を確認すること。							
履修のポイント	実習校での積極的な体験及び反省評価を繰り返すことで成果が得られる。そのための事前準備が重要になる。							
オフィス・アワー	アポイントを取ること。							

平成27年度 シラバス

科目名	教育実習事前事後指導		担当者	黒岩 初美 鈴木 裕子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	教職科目	必修	単位	1単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	教育実習（養護実習）の意義と学校現場における学び方、教育実習生の責任と立場を理解する。また習得した養護教諭の職務に関する知識や技術を実践できるようにする。実習期間中の観察の視点や記録の仕方を理解し、児童生徒の実態、学校保健活動の在り方、養護教諭の対応等の実際を学ぶ。さらに、学校における教育活動全般について理解するとともに、学校組織の一員としての責任を自覚し、専門職として児童生徒・保護者・教職員の期待や信頼にこたえうる判断と態度、行動の在り方を学ぶ。							
教育目標	①児童生徒等の実態、学校・地域の現状を知り、教育目標、学校保健目標の達成のために、どのような保健活動が行われているか、大学での学びを確認させる。②学校教育計画、校務分掌、学校運営、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等と保健管理、保健教育、組織活動の実際を具体的に実習できるようにさせる。③養護教諭として必要とされる資質・能力の課題を発見させる。							
到達目標	①児童生徒等の健康課題の背景要因を考えることができる。②学校教育計画、校務分掌、学校運営、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等と学校保健計画及び保健室経営との関連を理解することで、実習校の特色や養護教諭の行う保健管理、保健教育、組織活動の例示ができる。③「児童生徒の養護をつかさどる」活動に対する児童生徒・保護者・教職員のニーズを具体的に表現することができる。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	教育実習・事前指導 オリエンテーション	学び方、授業の概要、学習目的 実習の意義、実習に臨む姿勢、実習校との事前打ち合わせの内容						
第2回	養護実習の内容と方法	目標と実習の内容及び記録の書き方と評価						
第3回	定期健康診断と事後措置	実技・演習：歯科検診、聴力検査、歯垢染め出し及び歯科保健指導 観察・参観・実習の進め方						
第4回	感染症と学校環境衛生	実技・演習：吐物処理・水質検査・照度検査・空気検査 観察・参観・実習の進め方						
第5回	学校救急体制および 学校救急処置の演習	確かなアセスメントと救急処置・対応						
第6回								
第7回	養護実習報告会	養護実習の成果と課題について各自6分でプレゼンテーション						
第8回	養護実習の自己評価	養護実習の成果を評価、総括						
教科書	養護教諭必携シリーズNo4「養護実習ハンドブック」大谷尚子 中桐佐智子 編著（東山書房）							
参考書	「新養護概説〈第7版〉」采女智津江 少年写真新聞社							
成績評価	単位認定 60 点以上 事前・事後指導の学習態度、実習校における評価、実習報告会の成果を総合評価							
授業時間外の学習	各自が課題をもって、積極的に予習や復習に励むこと。							
履修のポイント	関心・意欲・課題意識をもち、積極的に学び養護実習に臨めるようにする。							
オフィス・アワー	アポイントを取ることで。							